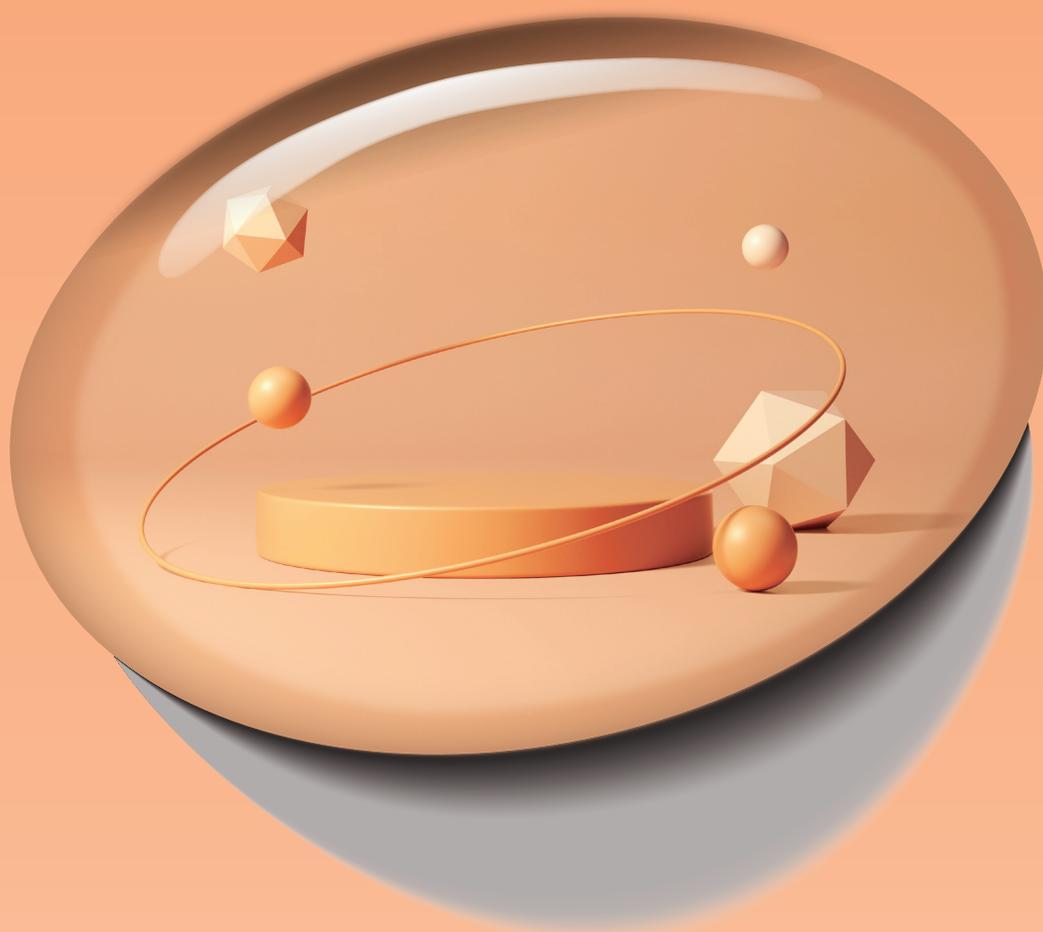


令和2年度
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
研究開発実施報告書

研究開発構想名

「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成



令和3年3月

育英西中学校・高等学校

目次

巻頭言

研究開発概念図

2020年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発実施内容 1

2020年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施報告 10

I 知識・技能の獲得 10

① S.D. 基礎, S.D. 探究 (Science & Discovery) 10

② シナジータイム 19

③ 奈良県立大学との共同プログラム 54

④ English Plus Department 63

II 内的動機づけ 72

① 輝く女性の講演会 72

② お弁当総選挙 75

③ 海外との交流 78

III 教科における探究的な学び 82

① 物理基礎 82

② 保健 (1年) 85

③ 日本史 B 88

④ 数学 B 91

⑤ 保健 (2年) 95

IV 評価 100

① 生徒アンケート集計結果と分析 100

② GPS-Academic 集計結果と分析 103

巻頭言

学校長 北谷 成人

2019年度、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（グローバル型）に認定され、今年度2年目の研究開発となりました。初年度となった2019年度の終わりには、次年度に向けての課題を多く挙げていましたが、今年度は、早々からコロナ禍のために休校措置となってしまいました。休校期間中は、教職員と生徒の努力で、オンラインで授業を続けることができましたが、本事業の中心となっている探究活動は、中々難しい状態でした。そういった中で、2学期以降計画を修正しながらも、2年目の研究開発について報告できるのを大変嬉しく思いますと共に、これも偏に、コンソーシアム会議のメンバーとなって頂いている各団体様、運営指導委員の先生方、海外アドバイザーの皆様のご協力と励ましのお陰と感謝申し上げます。

2016年に、本校の母体である奈良育英学園が、創立100周年を迎えるにあたって、学園全体で、従来の教育理念である「育英誓願」に加えて、「21世紀型・グローバル教育」を教育の重点目標に挙げました。本校でも、従来から行ってきた高校立命館コースにおける設定科目「Science & Discovery」に加えて、中学校において設定科目「シナジータイム」を導入しました。その後、多くの教育プログラムを導入してきました。また、中学校においては、昨年度国際バカロレア(MYP)の候補校の認定を受けました。これらの多くの課題解決型学習を体系化し、本校独自の教育システムにするため、本事業の申請を行い、認定されました。本事業の研究開発構想は、『「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成』としていますが、2年目の今年度は、色々な制約のある中にも関わらず、当初計画していたもの以外に、生徒の自立的、自主的な活動が多くみられたのは、大きな成果だと考えております。

次年度は、いよいよ完成年度となります。コンソーシアム会議や運営指導委員会も当初より拡大してきました。引き続き、地域の皆様のご協力を得ながら、研究開発をして参ります。次年度もご支援よろしくお願いいたします。

「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成 ～グローバルな視野をもち地域課題解決の核となる人材育成プログラム～

学内での学びに
もとづく学外での
自主的活動の
多様化

社会のトップ人材
としてに限らず、
多様に活躍する
グローバル人材
の育成

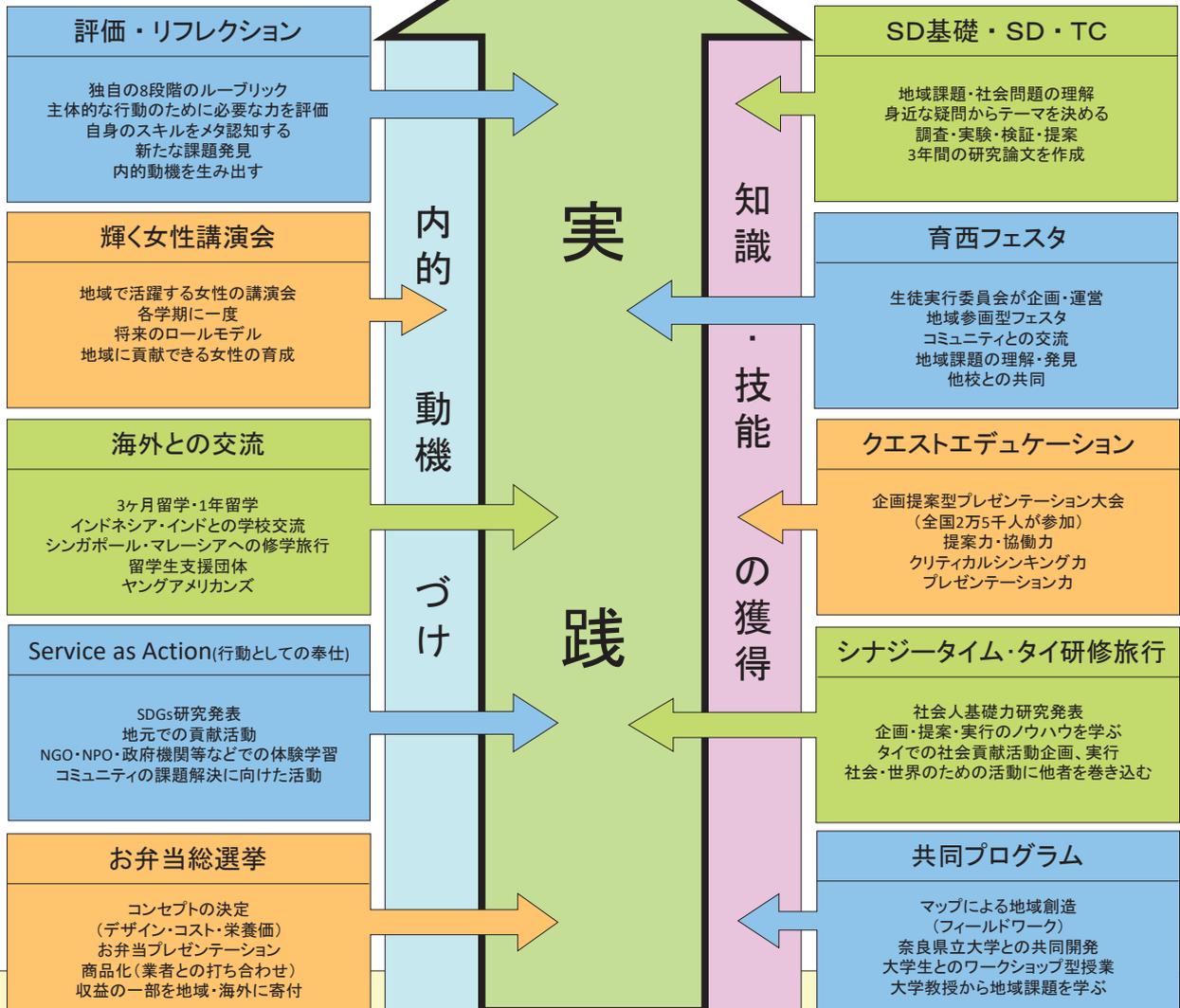
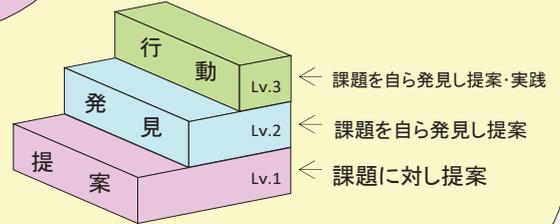
どの地域でも
転用可能な、
社会発展に資する
スキルの伸長

知識・技能の獲得

スパイラル式
に経験する

実践

内的動機づけ



村井食堂

奈良育英学園

新学習指導要領

国際バカロレア

女子教育

立命館大学

奈良育英中高

育英西

育英小学校

奈良県立大学

奈良市福祉協議会

関西NGO協議会

2020年度 研究開発実施内容（抜粋要約）

1 事業の実施期間

（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 育英西中学校・高等学校

学校長名 北谷 成人

類型 グローカル型

3 研究開発名

「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成

4 研究開発概要

進路目標の異なる3コースをもつ本校では、2020年度大学入試改革に先駆けて、課題解決型の学びを全コースの一部教科で導入した。また探究的な学びを目的とした学校設定科目を一部コースで設置してきた。これらの先行的な取り組みを実施する中で、どのコースにも共通する課題があると認識している。それは課題解決に際し、解決策提案にとどまりがちな点である。将来地域人材として地域課題の解決に資する女性の育成にあたっては、この現状を打開し、「行動する力」とりわけ「他者を巻き込む行動ができる力」を培う必要がある。そこで本校は3コースの特性を生かし、下記の研究開発を行う。

- 1 特設コースⅠ類を対象とした学校設定科目「シナジータイム」、立命館コースを対象とした学校設定科目「Science&Discovery」(S.D.)を体系化する。
- 2 特設コースⅡ類を対象とした奈良県立大学との共同プロジェクトを軸にして、本校中学校で導入した国際バカロレアにおける、「概念」を中心に学ぶという考え方に依拠した授業開発をする。教科内容ありきではなく、概念ありきの学びを構築し、教科学習の中で思考力・探究力を培う。
- 3 地域・世界とのつながりを生かして実現する行動実践による生徒への影響を検証する。
- 4 生徒に自らの力のメタ認知を促すための評価法を開発する。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
学校法人 奈良育英学園(管理機関)	理事長 藤井 宣夫
学校法人 奈良育英学園(管理機関)	事務局長 竹田 基宏
育英西高等学校(推進校)	校長 北谷 成人
奈良育英高等学校(協力校)	校長 沼田 守弘
奈良育英小学校	校長 東 誠司
育西会 *推進校 PTA 組織	会長 廣瀬 昇
特別非営利活動法人 関西 NGO 協議会	代表理事 三輪 敦子
社会福祉法人 奈良市福祉協議会	会長 福井 重忠
公立大学法人 奈良県立大学	学長 浅田 尚紀

有限会社 村井食品	社長 村井 猛
学校法人立命館 立命館大学	学長 仲谷 善雄
国立大学法人 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所	所長 保 智己

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年 5/26	第1回会合：今年度実施計画について説明し、その内容について協議・決定する。
令和2年 5/14、6/18、9/24 11/10、12/19	立命館一貫教育部との定例会合 主に立命館コースの教育内容について協議し、S.D.の改善や連携行事について提言を受ける。
令和2年 5/14	奈良女子大学 保先生と今後の取り組みについて検討
令和3年 1/29	第2回会合：今年度の報告と来年度の計画について協議し、方針を決定する。

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発 専門家	仲山 芳一	国立大学法人 岡山大学 准教授	非常勤職員
海外交流アドバイ ザー	玉井 満代	(株)タマイインベストメントエデュケ ーションズ・社長	非常勤職員
海外交流アドバイ ザー	田中真美子	HOME STAY AUSTRALASAI プロジェクト マネージャー	非常勤職員
海外交流アドバイ ザー	北田 多喜	翻訳家	非常勤職員
海外交流アドバイ ザー	相宅 政則	如水館バンコク高等部教頭	非常勤職員
地域協働学習実施 支援員	久保 佳苗	育英西中学校・高等学校 事務嘱託	派遣

②活動日程・活動内容

・海外交流アドバイザー・玉井 満代氏

活動日程	活動内容
	海外出張が多いため、インドにおける交流校探しに関する助言をメールで受ける

・海外交流アドバイザー・田中 真美子氏

活動日程	活動内容
	同氏はオーストラリア在住のため、短期留学に関する助言をメールで受ける

・海外交流アドバイザー・北田 多喜氏

活動日程	活動内容
令和2年 9/25・11/12	来校 ディニアプトリ女子校とのオンライン交流実施に向けて話し合い。
	海外出張が多いため、交流校とのやり取りの仲介はメールで受ける

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

グローバル担当事務職員 久保 佳苗氏(派遣職員として雇用)週4日勤務。

②実施日程・実施内容

地域協働学習実施支援員の活動実績について、具体的に記入すること。

日程	内容
令和2年4月1日	事務担当の派遣職員として採用 グローバルに関する会計、事務、案内、発送を主に担当

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職
奈良育英高等学校(協力校)	校長 沼田 守弘
奈良育英小学校	校長 東 誠司
特別非営利活動法人 関西 NGO 協議会	理事 田尻 忠邦
社会福祉法人 奈良市福祉協議会	会長 福井 重忠
奈良県立大学 地域創造学部	准教授 松岡 慧祐
有限会社 村井食品	社長 村井 猛
立命館大学 政策科学部	教授 桜井 政成
国立大学法人 奈良女子大学	教授 内田 忠賢

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年 5/26 (第1回)	第1回会合：今年度の実施計画について説明し、今年度の方針について指導助言を受ける。
令和2年 11/6、12/19、 令和3年 2月、3/21	奈良市社会福祉協議会と生徒との合同ミーティング。主に今後の活動方針や活動内容の妥当性などについて生徒とともに議論した。 また、生徒の主体的な活動の可能性について具体的に議論した。 ・11/6：12月に実施するフードパントリーについてのガイダンスを実施 ・12/19：フードパントリーボランティアに参加し、そこに参加していた司法書士やNPO法人の方々から今後の継続的な取り組むためのディスカッションを行った。 ・2月：今後のボランティア活動について議論 ・3月：フードドライブ実施。地域の子育てサロンに参加
令和2年 7/31、9/25、11/27 令和3年 1/30	県立大学との共同プログラムにおいて、松岡准教授の特別講義を受け、中間発表会での指導助言と、全国フォーラム参加に向けて最終発表の選考会への参加とブラッシュアップの指導。 (アドバイザー) 1/30：全国高校グローバル探究オンライン発表会参加
令和2年 5/20、11/21、12/1 令和3年 1/6、2/9	村井食堂との「お弁当総選挙」における取組 ・今年度の取組と流れについて説明 ・校内発表プレゼンの内容説明等 ・校内発表・商品開発に向けて生徒との打ち合せ ・商品化の企画会議
令和3年 1/29 (第2回)	第2回会合：今年度の報告と来年度の計画について説明し、指導助言を受ける

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

管理機関の意思決定機関である学内理事会を毎月1回行い、推進校における活動状況の報告、それに対する指導助言を行った。また、管理機関を含むコンソーシアムメンバーが、探究活動や授業の視察を行い、その都度指導助言を行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・研究校による取り組みが、継続的に実施できるよう、教員及び生徒の海外派遣費や講演会謝礼などについて、管理機関における予算計上を行っている。
- ・本事業に対する教員の事務作業軽減のため、グローバル担当事務職員として地域協働学習実施支援員を1名採用している。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・令和2年3月に、コンソーシアムメンバーである学校法人立命館との「学術に関する協定書」の更新。
- ・令和2年7月1日に都留文科大学との協定を締結

6 研究開発の実績

(1) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

研究開発実施計画に記載した通り、推進校は、学校設定科目「シナジータイム」（特設コースⅠ類）、「Science&Discovery」（立命館コース）の実践と、特設コースⅡ類を中心に、教科での探究的な学びの実践を通じて、生徒が「知識・技能を獲得」することとどまらず、自ら課題を発見し、他者と協働しながら主体的に取り組む姿勢を身につけることに重点を置いた。

(i) 「シナジータイム」（特設コースⅠ類）

【1年】

- ・1学期は、授業開きを兼ねて、「小学生に向けたシナジータイムとは？」をテーマに、グループで話し合い、「コミュニケーション力」「協働力」を高めた。休校期間中での授業開きであったため、ZOOMを活用して実施した。6月以降の取り組みは対面で行っている。
- ・夏休み課題として、「SDGsの観点で、世界でどのような取り組みが実施されているか」、「タイについて調べる」をテーマに個人レポートを作成し、「SDGs」について知るきっかけ作りと、2学期の学習準備の機会とした。
- ・2学期は、夏休み課題「タイについて調べる」で、各自が立てたテーマをもとにグループ分けを行い、各自が実施した調査結果をまとめて、9月末に実施した文化祭で発表した。
- ・文化祭後は、前年度、タイについて探究活動を実施した2年生から、「タイに関する課題」を引き継ぐための会を実施し、各自が取り組む課題を決め、課題に対する探究を深めた。
- ・探究の成果は、12月下旬に実施した本校独自コンテスト「SDGsコンテスト」で発表した。

【2年】

- ・前年度、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした「タイ課題解決型ツアー」の代わりに、8月に、ZOOMを活用して、タイの学校との交流を図った。そこで、前年度から取り組んできた自分たちの課題解決策を発表し、意見交流をする中で、内容を深めた。その成果は、9月に実施された文化祭で発表した。
- ・10月以降は、1年次からの「シナジータイム」の活動をふまえ、「社会で必要とされる人とはどのような人か」を考えた上で、各自が、「今の自分に必要な力」を分析した。

(ii) 「Science&Discovery」（立命館コース）

「Science&Discovery」（以下「S.D.」と呼ぶ）は、立命館コース開設時から取り組んでいる推進校の学校設定科目である。高校2・3年の2年間で、探究活動を完成させる。生活に根ざした身近な疑問をもつことを出発点に、生徒自身が研究テーマを設定する。

【「S.D.基礎」（1年）】

- ・1学期は、協働学習に必要なスキル（コミュニケーション力）を身に付けることを中心に実施した。具体的には、「常識を疑う」問いを提示し、協働して自分たちなりの解答を導き出し、他者に伝える練習を、複数回行った。
- ・7月に、「SDGsカードゲーム」の体験を通して、「SDGs」の取り組みを学ぶ機会をもった。
- ・2学期は、理系基礎実験（化学分野・物理分野）と、RESAS（地域経済分析システム）を活用して、奈良の課題を考え、自分たちの解決策を提案する学習をグループ単位で実践した。その成果は、12月に本校で実施した「SDGsコンテスト」で発表した。

【「S.D. 探究」(2年)】

- ・1 学期は、文系探究・理系探究の方法の違い、リサーチクエッションの立て方、資料の集め方等、探究活動に必要な知識を知ることを中心に実践した。
- ・7 月に、立命館大学政策科学部の桜井教授から、「研究テーマの作り方」をテーマに講義を受けた。(文系探究志望者 14 名が参加)
- ・2 学期は、文系・理系に分かれて実施した。文系分野は、個人探究、理系分野は、グループ探究で実施している。それぞれ、研究テーマの確立・具体化、研究計画書の構想を中心に行った。
- ・3 学期は、2 月 26 日に実施される「中間発表会」に向けて、探究活動を継続しつつ、今年の探究活動のまとめをした。

(iii) 近隣大学との共同プロジェクト(特設コースⅡ類)

【1年】奈良県立大学との共同プログラム

- ・奈良県立大学地域創造学部 松岡准教授の指導のもと、「奈良県の女性就業率の低さ」をテーマに探究活動を実施した。
- ・松岡准教授の指導が入る前(1 学期)に、各自が、奈良の課題と世界の課題(SDGs)を調べ、共通項目をまとめて発表した。各自の発表をお互いに聴きあい、クラスで取り組む大テーマを「ジェンダー問題」にすることに決めた。
- ・夏休みに、松岡准教授から、「ジェンダーと労働について」の講義を受けた。その後、夏休み課題として、身近な人(家族・親戚・友人)にジェンダー問題調査を行った。
- ・2 学期当初に、夏休み課題の調査結果の共有を行った上で、グループごとに探究テーマから、リサーチクエッションを立て、調査を行った。
- ・調査結果をまとめ、9 月下旬の文化祭で発表した。
- ・文化祭後は、調査結果を踏まえての自分達の提案、提案を行動に移すことを考え、探究を深め、11 月下旬に、松岡准教授を招き、最終発表会を実施した。最終発表会の評価のもと、「2021 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」の「日本語発表部門」の代表 1 チームを決定した。

【2年】奈良女子大学との共同プログラム

- ・現代文で学習した教材との関連から、ジェンダー問題について関心を持ち、興味あるジェンダー問題を個人で考えた。
- ・共通点があるテーマごとにグループ分けをして、グループで先行研究や事例を調査した。
- ・調査結果をまとめ、9 月下旬に実施した文化祭で発表した。
- ・文化祭後は、調査結果のもとに、自分達ができる解決策、行動を考え、実施に向けて計画を立てた。
- ・有志 6 名が、「SR サミット FOCUS」(11 月 14 日・15 日)に参加し、他校とオンライン交流を通じて、ジェンダーについて探究している学校の生徒たちと意見交換する機会を得た。
- ・11 月に、探究内容の英語版データを作成し、クラス内でオーディションを実施し、「2021 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」の「英語発表部門」に出場 する代表 1 チームを決めた。
- ・3 学期は、探究成果のもとに考えた自分達の行動を実践に移す計画を立て、実践していく。

(iv) 教科での探究的な学びの構築(特設Ⅱ類)

本校中学校で導入している国際バカロレアにおける「概念」を中心に学ぶ考え方に依拠し、概念ありきの学びの構築を以下の科目で実践した。その際、「概念」で教科をつなぎ、教科横断的な学びの機会を設けた。実施教科の授業は、1 月 29 日に実施された

「グローバル事業実践発表会」の研究授業にもなった。

(v) SDGs コンテストとディニアプトリ女子校への育西アンバサダーの派遣

- ・計画では、SDGs コンテストの入賞者（入賞グループ）を、ディニアプトリ女子校へ派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、ディニアプトリ女子校への派遣を中止した。代替として、12月11日に、ディニアプトリ女子校とのオンライン交流を、高校1年から希望者を募り実施した。交流テーマは、「環境問題」で、具体的には、「学校のゴミ」を題材に意見交流を行った。また、両校の学習の取り組み等も紹介しあった。
- ・SDGs コンテストは、12月25日に、高校1年特設I類（シナジータイムの取り組み）、高校1年立命館コース（S.D. 基礎の取り組み）が参加し、優秀グループを6グループ決定した。外部審査員として、推進校のコンソーシアムに携わっている方々に参加していただいた。

(vii) English Plus Department の取り組み

- ・ネイティブスピーカー2人がティームティーチングで、中学3年から高校3年まで、各クラス毎週1時間授業を実践している。授業内容は、グループディスカッション、個人プレゼンテーション、インタビューテストが中心である。

(viii) スウェーデン・リンショーピン大学からのインターシップ生との交流

- ・計画では、6月に3週間、本校生徒宅にホームステイする形で、インターシップ生を受け入れる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、ZOOMを活用してのオンライン交流に変更した。インターシップ生には、English Plus Department の時間に参加してもらい、「感情と共感」（高校1・2年）、「文化行事と祭日」（高校3年）をテーマに討論、発表をおこなった。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 高校1年生 : シナジータイム（特設コースI類）

S.D. 基礎（立命館コース）

現代社会（特設コースII類）

家庭基礎（全コース）

(イ) 高校2年生 : シナジータイム（特設I類・II類）

S.D. 探究（立命館コース）

現代文B（探究テーマ「ジェンダー」に関する評論文の読解

コミュニケーション英語II（英語を使用した発表への作文指導）

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

各教科の授業で、本事業の探究活動に資する内容を扱う。現代文では、探究テーマとの関連が深い文章の読解、要約文の指導について、現代社会ではデータの扱い方について、英語科では、英語を使用した発表に向けての作文指導、効果的なスピーチについて等を行った。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・高校1年生の「シナジータイム」「S.D. 基礎」「奈良県立大学との共同プログラム」において、生徒たちの視点で、奈良県が抱える課題を取り上げ、解決策を提案する探究活動を実施した。
- ・有志からなる「ボランティア実行委員会」が、奈良市福祉協議会が行っている「フードパントリー」に2日間参加した。

- ・地域に関する探究活動に、ディニアプトリ女子校、スウェーデン・リンショーピン大学の学生とのオンライン交流が加わることで、グローバルな視点を養う機会としている。
- ・ネイティブ教員との授業「English Plus Department」を活用し、語学力のさらなる向上を目指している。

⑤成果の普及方法・実績について

取り組み内容	成果の普及・実績
奈良県立大学との共同プログラム	・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 日本語発表部門に参加 (1/30)
奈良女子大学との共同プログラム	・第3回全国高校生SRサミット FOCUSに参加 (11/14・11/15)
シナジータイム	・サステナブル・ブランド国際会議 2021YOKOHAMA 西日本ブロックに参加 (10/24) ・日経ウーマンエコノミクスフォーラム 2020 シンポジウム 高校生研究発表会(7/15) ・Thai on line 交流会 (奈良新聞掲載) 現地学生・バンコク元商工会議所所長との交流(8/24)
S.D. 探究 S.D. 基礎	・2021/2/26「中間発表会」校内実施 (オンライン)
お弁当総選挙	インターネット投票で選ばれた代表4チームの弁当を村井食品の協力を得て、商品化する

(2) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

グローバル運営委員会が、探究委員会に働きかけ、探究委員会を中心に、進路指導部、企画広報部、教育改善委員会、教科主任会議、各学年団が連携して事業を進める。定期的に探究会議を開催し、各事業の詳細な計画・運営についての決定、各事業の進捗状況の確認等を実施し、円滑な事業遂行を目指した。

②学校全体の研究開発体制について (教師の役割、それを支援する体制について)

- ・グローバル運営委員会を週に1度開催し、各事業の計画・運営の方針を決め、探究委員会との連携を図った。
- ・グローバル運営委員会・探究委員会を中心に、事業が円滑に進むよう、実施学年との情報共有を行った。
- ・生徒の探究活動の成果普及に関しては、グローバル運営委員会が、探究委員会、企画広報部、ICT委員会と連携して実施した。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

グローバル運営委員会と探究委員会が中心になり、研究開発を進めている。また、進路指導部主導で、評価ツール「Ai-GROW」の受検の機会を9月と2月に設け、探究活動の成果を可視化し、次年度の取り組みに生かしていく。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアム	取組み内容
コンソーシアムメンバー	本校「SDGs コンテスト」外部審査ならびに講評
社会福祉法人 奈良市福祉協議会	ボランティア実行委員会への活動支援・指導
公立大学法人 奈良県立大学	高校1年特設コースⅡ類の共同プログラムにおける指導助言
有限会社 村井食品	「お弁当総選挙」を経ての共同商品開発
学校法人立命館 立命館大学	・高校2年立命館コース「S.D. 探究」特別講義

7 目標の進捗状況、成果、評価

本事業の研究開発の一つである「他者を巻き込んで行動する力」の実践として、シナジータイム（高校1年）、近隣大学との共同プログラム（1年・2年）で、生徒たちが考案した課題解決の方策を行動に移すことができた。ただし、新型コロナウイルス感染拡大により、自分たちの足で確かめるといったフィールドワークを採用することが難しく、大半がオンラインを活用しての行動になった。

グローバルな視点をもって考察する機会として予定していた、シンガポール研修旅行やディニアプトリ校への育西アンバサダー派遣事業が中止となったので、9月以降、オンラインを活用して、海外で学ぶ高校生との交流を企画し、12月にディニアプトリ女子校とのオンライン交流が実現した。

今年度からカリキュラムに組み込んだ「English Plus Department」の成果は、GTECのトータルスコア（高校2年生の8月実施分）の変化には表れていない。分野別に見ると、スピーキングテストの観点別評価の「各コマの内容を伝えることができる」の評価は概ね高い（「十分に伝えられている」が90%以上）が、「各設問の問いかけに応じた内容を伝えることができる」の評価が低い（「十分に伝えられている」が30%以下）。伝えようとする意思を育成しているが、コミュニケーションに必要リスニング力に弱さがあることがわかる。

探究的な学びの実践は、全教科で体系的に実施することができていない。探究学習の事前学習としての位置づけで、実施学年の授業担当者が実施する、実践発表会で授業実践をする教員が中心に実施するという状態である。体系的に実施することが、次年度の課題である。

今年度は、新型コロナ感染拡大の中で、事業をできるだけ縮小せずに進めることに力を注ぎ、事業実施後のリフレクションを体系的に実施することができなかった。昨年度に完成させた国際バカロレアの「ATL」の手法に学んだ本校独自のルーブリックを十分に活用できなかったことが反省点である。

8 次年度以降の課題及び改善点

- ・学校設定科目「シナジータイム」「S.D.」（「S.D. 基礎」「S.D. 探究」）の3年間の実践をふまえ、本事業終了後の実施モデルとなるシラバスの作成をもって、体系化する。
- ・教科指導・評価改革チームと教科主任会議が連携して、概念ありきの学びを継続的に実践し、評価法について研究を進め、本校モデルを完成させる。
- ・初年度に体系化した「ATL スキル」に基づく評価法を普及させ、教員間における課題探究の指導に関する共通理解を確固なものとする。
- ・本事業に参加した生徒の中で、海外大学に進学を希望する生徒が増えてきているため、令和3年3月までに、以下の大学と「包括的学術協定」締結する予定。
 - ① アメリカ合衆国カリフォルニア州 Merced Community College
 - ② マレーシア Taylor's University

I 知識・技能の獲得

1 S.D. 基礎（立命館コース高校1年）

①ねらいと目標

●ねらい：授業に際して常にリフレクションを行いながら，反省点や課題を次の活動にいかし，2年生の「S.D. 探究」につながる基礎力を培う。

●目標：「S.D. 基礎」においては，一人ひとりが知識・分析力・考察力を身につけるとともにグループでの協働学習能力を高めることを目的とする。

②実施報告・SD 基礎の計画

日付	方向性	テーマ・内容（予定）	備考
1 学期	雰囲気作りと「探究魂」を育てる。1時間で完結するテーマ	がイダッス・もしもあなたが…	1 回
		植物の違い	1 回
		あ→いなのはなぜ	1 回
		コンセンサスゲーム	1 回
		ペットボトル	2 回
2 学期	持続可能な取り組みと探究と技術の初歩を学ぶ。	SDGs カードゲーム	1 回
		RESAS（地域経済分析システム）活用	10 回
		化学実験	1 回
		物理実験	1 回
3 学期	探究と統計と振り返り	校内のコンテストの振り返り	1 回
		比較や変数の説明	1 回
		じゃんけんと EXCEL	1 回
		1年間の振り返り・2年に向けて	1 回

③工夫した点と成果があったと思われる点

●工夫した点

自由な発想が生まれる雰囲気を作った点、他のクラスの生徒と一緒にしても話し合いができる雰囲気ができる点で成果があった。新型コロナウイルスの影響で対面授業の開始が遅れたものの、新しいクラスメートと会話やコミュニケーションをとり、ある程度、自分の考えや仮説などを話し合える環境ができた。

・ Resas を使った点。成果は、数値分析や地域経済についての考えるものの見方がついた。

●成果があったと思われる点

校外の方に発表することでモチベーションが上がり緊張感が出た。いつもならば、学校内だけの説明なのだが、同じ学年の他のコースや審査員の方から評価がもらえ、授業中は、分析やプレゼンテーションが停滞したこともあるが、直前では、「是非、私たちの取り組みを発表し伝えたい」という思いが強くなり、とても素晴らしいプレゼンテーションができた。

④うまくいかなかった点と理由

●うまくいかなかった点

コロナの影響で、例年通りのスタートダッシュができなかった。SDGs の講師の先生から、例年よりクラスの雰囲気づくりが遅れていると指摘を受けた。

・ 授業の時間配分が乱れた。

●理由・学校の休校期間があり、遅れる。

⑤生徒の感想（+他：生徒の変容）

・仮説をたてることと、それについて自らの考えを深めていくことの大切さ、そして、それを人に伝えること、人に伝える時には正しく、わかりやすい日本語にすることについて学ぶことができました。

・すぐに実用性が実感できる教科ではないかもしれないけれど、私はどの教科よりも大切にしたいと思っている。どんな知識より何より大切な、人間としての勉強ができると思ったからだ。一生必要なことだと思うので、一生懸命学んでいきたい。

・知識を蓄えることも大切だけれど、これからは自分の意見を述べそれをまとめる力が必要となってくるのだと知ることができました。また、まとめるだけでなくそれを相手に伝えることも大切になってくると思いました。

・SD 基礎では授業の雰囲気づくりが大切ということがわかった。また自分で課題を見つけ、それを解決する力が必要だと思った。今日の授業でいつもとは違う立場になって考えることで様々な考えを持つことができた。また友達の意見を聞くことでそういう意見もあるんだなあと思うことができた。

1 S.D.探究（立命館コース高校2年）

1 ねらいと目標

【ねらい】 各生徒が自分の興味・関心などに基づいたテーマを探究することで、情報収集力、論理的思考力、批判的思考力などを養う。また、探究に限らず、学校生活や社会生活において問題を見出し、解決する力を養うことを目的としている。

【目標】

《人文社会科学分野》

- ① 自分の興味・関心を整理する中で研究する分野を見つける。研究する分野について資料を集めて調べていく中で、仮説とそれに対する結論、結論を導く根拠を検討していく。
- ② 研究に必要な技術（文献検索・データ処理など）を実践的に学ぶ。

《自然科学分野》

- ① 自分の興味・関心を整理する中で研究する分野を見つける。研究する分野についての先行研究を調べていく中で、仮説と仮説を検証する科学的調査を計画していく。
- ② 収集したデータを解釈し、結果の概要を理解する中で、仮説や検証方法を振り返り、改善することができる。

2 実施報告

1 学期は、「探究の進め方・テーマ決定までの過程」を講義した。夏休みに、「人文社会科学分野」「自然科学分野」のどちらに所属するかを決め、2 学期からは、分野ごとに分かれて実施した。「人文社会科学分野」には 14 名、「自然科学分野」には 52 名が所属している。今年度の成果発表を兼ねて、2 月 26 日に「中間発表会」を実施した。

1 学期	<p>・「S.D.探究」の概要説明</p> <p>【人文社会科学分野探究について】</p> <ul style="list-style-type: none">・「研究」するうえで、「情報」が持つ意味を考える。・「一次資料」を集めるとは？・先行研究・事例を活用して <p>【人文社会科学分野・自然科学分野共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・研究の説得力が 100 倍になる～統計の威力～ <p>【自然科学分野について】</p> <ul style="list-style-type: none">・卒業生の研究テーマを見ながら、考える
------	--

	<p>【探究テーマ考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、広げ、深める。(自分マップの作成) ・探究テーマを考える。
--	--

2 学期	<p>【人文社会科学分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ下調べ ・問い→リサーチクエッションへ ・研究計画を立てる ・研究計画発表会 ・研究 <p>【自然科学分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ下調べ ・研究テーマの確立・具体化 ・研究・実験計画具体化 ・研究・実験 ・途中経過報告
3 学期	<p>【人文社会科学分野】【自然科学分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究 ・中間発表会に向けて整理 ・中間発表会 (2/26)

【中間発表会 概要】

- * 日時 2021 年 2 月 26 日 (金) 13 時～16 時
- * 会場 人文社会科学分野・・・図書室 自然科学分野・・・エウレカ教室
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ZOOM を使用して開催した。
- * 参加者
 - ・立命館コース 2 年生 (発表者) 立命館コース 1 年生 (視聴者)
 - ・「S.D.探究」担当教員
 - (人文社会科学分野 3 名・自然科学分野 4 名 合計 7 名)
 - ・講評をしていただく立命館大学の先生方
 - 政策科学部 桜井政成先生
 - 理工学部 深尾浩次先生
 - 情報理工学部 北野勝則先生
 - 生命科学部 加藤稔先生
 - 薬学部 北原亮先生
- * 発表会の進め方
 - ・人文社会科学分野の生徒は個人発表、自然科学分野の生徒はグループ発表とする。
 - ・発表時間は、4 分以内とする。

- ・視聴者は（教員・生徒）は、発表を聞きながらルーブリックに基づいて評価する。
- ・発表生徒は、発表会后、記述式の自己評価も行う。

* 「人文社会科学分野」探究テーマ一覧

『銀河鉄道の夜』の「透明性」はどこから
細川ガラシャの人生
Billboard Hot100 から見るヒット曲の理由
なぜ朝ごはんを食べたほうがいいのか
子どもの名づけについて
自尊心とコミュニケーション能力の関係性
音楽教育における自己表現
メイクの価値基準の変化
『アーサー王伝説』における宗教的要素について
Hiphop の歴史
「かわいい」形
ディズニーのシンデレラとペロー版とグリム版を比較して
オタクの共通点と差異

* 「自然科学分野」探究テーマ一覧

身近なものを使った防音
悩みに合わせた化粧水をつくる
香りが記憶に及ぼす影響
肌と髪に良い油の効用
野菜の皮で汚れを落としやすく！！
ドラえもんの水道ジュース変換アダプターをつくる！？
菌を撃退しよう！
くさい食べ物のにおいを消す
抗菌作用のある食べ物を見つける
音が植物の成長に与える影響
紙の劣化
日焼けを防ぐには？
色が人に与える影響
音と記憶力の関係について

* 評価項目

【教員・高校2年生徒用】

人文社会科学分野

■ 研究計画について

評価	評価基準
4	研究課題が明確であり、データの収集と目的に見合う分析に十分な研究計画が組まれている。

3	研究課題が明確であり、データ収集に十分な研究計画が組まれている。
2	研究課題が明確である。
1	研究課題が不明確で、研究計画がはっきりとしない。

■ 研究について

評価	評価基準
4	実行可能な課題と仮説を設定している。
3	課題に対する仮説を適切に設定している。
2	課題を絞り切れず、仮説があいまいなままである。
1	思いつきや表面的な発想から課題や仮説を設定している。

■ 発表について

評価	評価基準
4	研究内容を的確に説明し、聴衆を意識した工夫がある。
3	研究内容を説明し、聴衆を意識して発表している。
2	研究内容が伝わりにくく、聴衆を意識して発表していない。
1	研究内容を羅列しているだけで、聴衆を意識して発表していない。

自然科学分野

■ 研究計画について

評価	評価基準
4	研究課題が明確であり、データの収集と目的に見合う分析に十分な研究計画が組まれている。
3	研究課題が明確であり、データ収集に十分な研究計画が組まれている。
2	研究課題が明確である。
1	研究課題が不明確であり、研究計画がはっきりしない。

■ 研究について

評価	評価基準
4	科学的根拠に基づき、調査や実験の分析・考察が十分されている。
3	調査や実験の分析・考察が十分されている。
2	調査や実験の分析はされているが、考察が不十分。
1	調査や実験の分析・考察が不十分。

■ 発表について

評価	評価基準
4	研究内容を的確に説明し、聴衆を意識した工夫がある。
3	研究内容を説明し、聴衆を意識して発表している。
2	研究内容が伝わりにくく、聴衆を意識して発表していない。
1	研究内容を羅列しているだけで、聴衆を意識して発表していない。

【高校 1 年生用】

評価項目は、以下の 3 点とする。

	評価項目
A	パワーポイントの分かりやすさ
B	話し方・内容の分かりやすさ
C	発表態度のよさ

評価基準は、以下の 4 段階とする。

評価	評価基準
5	大変よい
4	よい
3	普通
2	よくない
1	大変よくない

* 実施後の生徒の感想から

【研究について】

- ・もともとテーマを立てていた「日焼け止めの効果の違い」をいうのは成分ごとに違いを調べることができず、値段やタイプの違いも紫外線をどの程度防ぐかという大まかな結果しか出せなかった。どの成分がどの程度紫外線を防いでいるのかわかれば、もっと違いがわかってくると思う。しかし、私たちが使用できる施設や技術の問題でそこまで細かく実験することはできないので、値段のちがいに差がある理由をもう少し探っていければいいと思う。
- ・楽しかったです。最初はただ、自分の好奇心のままに文献を読みあさったり、考えを広げたりの作業でした。しかし、宮沢賢治について調べていく中で、知りたくないことも知ってしまったり、深く調べるにつれて探究の方向がわからなくなったり、自分の考えを言葉にできなかつたりで行き詰まった時もありました。ですが、さらに調べていくと、『銀河鉄道の夜』の透明性の正体についての考えがどんどん出てきて、まとまっていき、その過程は本当に楽しかったです。

【研究計画について】

- ・私たちの班は、研究計画の立て方がうまくなかったと思う。いざ実験をはじめてみると、私たちが予想していた以上に 2 時間という時間が短く、計画していた通りに進まなくなってしまう。再度実験計画を立て直しはしたが、今度は先生との調整不足で、実験日が流れてしまうことがあった。先を見通すことを大事にしなかったために、うまくいかないことが複数起こった。

【来年度に向けての現時点での計画・意気込み】

- ・中間発表を終えて改善すべき点や今後の展望がたくさん見つかったので、それらのことを一つひとつ丁寧に解決していきたいと思います。種から実験していましたが、それでは発芽に個体差が出てしまうので、株の状態の植物で実験するなど、実験をする際の環境の一致を目指したいです。また、もう少し余裕があれば、豆苗やカイワレ以外の植物でも実験できればいいなと思いました。論文作成時の前までに、より詳しく確証のある結果を出せるように頑張りたいです。

* 講評者のコメント

- ・多くの発表を聞いて感じたのが、「仮説」を立てることに困難を感じていることだ。「仮説を立てる」ことをあまり難しく考えず、事前調査からわかったことを深めていく意識をもつ方がよい。また、人文科学分野では、「仮説を立てなければ」と無理する必要はない。事前調査をしてわかっていることと、わかっていないことを区別し、わかっていないことを丁寧に深めていってほしい。
- ・自然科学分野も、人文社会科学分野と同じことがいえるが、先行研究を活用してテーマ設定をすることをもっと大事にしてほしい。先人たちが築いてきた功績に、新たな足跡をつけていくには、研究誌を読んで学ぶことが非常に大事になってくることを肝に銘じてほしい。
- ・データ・統計処理の扱いを学び、探究に生かしてほしい。

3 工夫した点と成果があったと思われる点

今年から、自然科学分野に特化した探究活動から、人文社会科学分野も含んでの探究活動に変えた。そのことにより、1学期は、文系研究と理系研究の違いに焦点を当てて、研究の流れをつかませることに注力した。

また、新型コロナウイルス感染拡大のため、4月から6月中旬まで休校措置がとられ、ZOOMを活用しての授業になり、個人ワークを中心とする活動にならざるをえなかった。しかし、個人で取り組ませたことで、一人ひとりが、どちらの分野で探究を進めるのかをじっくり考え、決定することにつながった。

今年度初の取り組みになった人文社会科学分野では、モデルとなる過年度生がいなかったため、探究テーマを考える際に、立命館大学の政策科学部 桜井先生に、「研究テーマの作り方」をテーマに特別講義をしていただいた。文系学問の幅広さを知る、大学生が研究テーマをどのように決めていったのかをいくつかの具体事例を提示していただいたことは、生徒たちの探究活動に対するハードルを下げたことで、生徒たちは楽しみながら進めようという気持ちで、探究活動を開始することができた。

自然科学分野では、1回の授業時間が3時間から2時間に短縮されたことで、例年の生徒より、授業中にやるべきことを明確にして取り組んだ。担当教員とスケジュール調整を綿密に行い、放課後の時間なども活用し、自主的に探究活動に取り組むグループも例年より増え、自主性をもって取り組んでいたことがわかる。

4 うまくいかなかった点と理由

1 学期を文系研究と理系研究の違いを知ることを使ったため、探究分野の決定、大テーマの選定が夏休みを挟んで二学期に持ち越された。そのことで、中間発表会の内容が、研究計画を述べることにとどまったものが多くなった。次年度の論文作成にかかる時間を考えると、1 学期に行ったことを前年度の「S.D.基礎」で終えておくことが望ましい。「S.D.基礎」との連携を強めていく必要がある。

中間発表会の内容が、研究計画どまりになった理由としてもう一つ考えられるのが、研究計画（実験計画）を自分たちで立てていくことに困難を感じた生徒が多かったということだ。特に、例年、自然科学分野で探究する生徒たちには、立命館大学の理系学生がアシスタントとしてついてくれ、アシスタント学生から、研究計画や実験に関わるアドバイスももらってきた。今年は、コロナウイルス感染拡大のために、アシスタント学生に来校してもらうこともできず、担当教員がすべてカバーする形で進め、指導が行き届かないことも生じた。アシスタント学生に来校してもらうのは難しいとしても、ZOOMを活用して、定期的に、アドバイスもらうなど考える必要がある。

2 シナジータイム

① 高校1年特設I類

② ねらいと目標

シナジータイムとは、様々な物事について自らで課題を発見し主体的に取り組み、シナジー＝相乗効果を期待しながら、協働して課題解決に向かう力を養う時間である。また、さまざまな教科での学びに考え方やスキルが応用できるように、「学びの方法を学ぶ時間」でもある。本校独自の設定科目として、2015年度から本校の中学1年生で導入され、高校では2018年度に特設コースI類の1年生に導入し、2020年度からは高校1・2年生の全コースにおいて導入されている。今年度から実践内容をより特徴づけるために、特設コースI類のシナジータイムでの取り組みをグローバルシナジーと分類した。

特設コースI類の高校1年生では、まずは身の回りの課題に着眼し、身近なコミュニティから世界へとグローバルな視野を広げることができるよう、自分自身に何ができるのかを考えて行動することを目標にしている。「Think global, act locally」をテーマにししながら、「誰かのために何かをする」ことを企画し、その計画を行動に移すことを目指す。

1年間を通して、プレゼンテーション技術の取得・向上、学校行事の企画・運営、社会貢献活動への参加、海外協力の可能性を探ることなどに取り組み、以下のようなスキルの育成を目指した。

コミュニケーションスキル

- ・情報を論理的にまとめ、描写する。

協働スキル

- ・対立に対処し、問題を解決して、チームで協働する。
- ・合意を形成する。

創造的思考スキル

- ・ありえないものや不可能なものも含めて、多数の代案を検討する。
- ・思考の可視化の方法やテクニックを実践する。

整理整頓する力

- ・複雑な情報を整理するために適切な方法を用いる。

振り返りスキル

- ・内容を検討する - 今日、何について学んだのか？ - まだ理解していないことは何か？ - 今、どのような質問があるのか？

メディアリテラシースキル

- ・メディアの表現や発表形式がもたらす影響を理解する。

批判的思考スキル

- ・反対の、あるいは対立する議論を展開する。
- ・複雑な概念やプロジェクトの構成要素を分析し、新しい概念理解を構築するためにそれらを統合する。

③ 実施報告

【2020年度 授業スケジュール】

学期	授業タイトル	内容
1学期 <Zoomによる 授業実施4回>	シナジータイムとは何か 自己紹介 他者評価を知ろう！～自分ってどう見られている！？～ 小学生に向けたシナジータイムとは？①～⑤	・自分が考えたことを表現し、相手に伝える。また、聞き手として、話し手が積極的に話をしたくなる反応とは何かを体現する。 ・オープンスクールで実施予定だった小学生対象のシナジータイムをグループごとに企画し発表する。Google Formsで評価の集計を行い、フィードバックする。

<p>2 学期 <Zoom による 授業実施 1 回></p>	<p>夏休みの課題について (SDGs&タイについて調べよう) タイについて調べた課題をまとめよう①～⑥ 高校3年生&2年生からタイに関する課題を引き継ごう! 高校3年生&2年生からタイに関する課題についてのテーマを決めよう!①～③ 引き継ぐテーマについて深めよう!①～③ SDGs コンテストに向けて、探究内容を整理しよう!①～③</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs とは何かを知り、世界でどのような取り組みがなされているかを調査する。また、スタディツアーの行き先として予定されていたタイについても、SDGs の視点を交えて調査する。 • 校内・外部での発表の機会について共有し、発表に向けてスライド・アブストラクトを作成する。 • 高校3年生がタイでお仕事をされている高木さんから提示され、高校2年生が1年間をかけて研究してきたテーマの引継ぎ会を実施する。 • SDGs コンテストに向けて、テーマ探究にあたって、利用できるリソースの紹介を行う。
---	--	--

<10月7日(水) 高校3年生&2年生からタイに関する課題を引き継ごう!>



<p>3 学期 合計：6 時間</p>	<p>SDGs コンテストの振り返り 外部の取り組みに参加してみよう!①～② 外部団体とつながろう!①～② 本校教員が取り組んだカンボジアでのボランティア活動について1年間の振り返りアンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs コンテストに関して、生徒・教員からのフィードバックを共有し、各グループの探究活動について、どのような視点が足りなかったか、どのような活動に繋げていく事ができるのかを考える。 • 本校で開催されたグローバル実践発表会で発表したボランティア実行委員会の3人の報告内容を共有する。 • 自分たちの探究活動に関わる外部団体とどのようにつながっていくか、情報を整理する。 • 実際に外部団体へアポイントメン
----------------------------------	---	--

トをとり、交渉を開始する。

④ 工夫した点と成果があったと思われる点

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令のため、高校1年生は4月末からの授業実施となり、なおかつタブレット端末を用いての授業スタートとなった。入学式などの学校行事も無かったため、はじめの4回分はZoomのブレイクアウトセッションを利用したグループワークを数多く実施し、各グループに教員が入るなど、生徒間のコミュニケーションがなるべくスムーズにいくようにサポートする事を心がけた。分散登校や通常登校が始まってからは、学年の協力の下で、シナジータイムだけでなくH.R.などを利用しながら、対面でグループワークを行う時間を積極的に設けた。このような取り組みの結果、夏休み前にはクラス間の垣根を越えて、生徒同士の交流が広がりを見せていったように思う。

2学期には学校生活も落ち着きを見せ始めたので、より具体的な授業実践を行うことができた。特に、2学期後半から3学期にかけての探究活動に大きく関わる内容となった高校2年生が探究してきたテーマの引き継ぎは、学年やコース間のタテの関係を意識した取り組み内容になっている。

また、授業での活動内容を文化祭やSDGsコンテストで発表するなど、本校教員だけでなく、保護者に見学して頂く場やグローバル事業のコンソーシアムメンバーの方々に審査員として参加して頂く場を設ける事もできた。さらに、2月にはSDGsAWARDS2020に全てのグループが応募するなど、年間を通して生徒の成果発表の場を定期的に設けることの必要性を強く感じた。

さらに、文部科学省補助事業アジア高校生架け橋プロジェクトにより、11月中旬から本校へタイとベトナムからそれぞれ1名ずつ留学生がやって来た事も大きな影響を及ぼしている。日常の学校生活を共にするだけでなく、シナジータイムと一緒に参加する事で、タイについての視点を増やし、本やインターネット上の情報と国の現状には大きな差がある事を理解する事ができ、よりグローバルな考え方を持つためには何が必要なのかを考え、自分たちの考えを身近な所での行動に移そうとするきっかけになった。

シナジータイムで身に付いたと考えられるスキルについて、Benesseが実施しているGPS-Academicでの結果を以下に表1として示しておく。このプログラムは、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り・考えの更新を1つのサイクルとする問題解決（探究）のプロセスの中で必要とされる3つの力を測定するためのものである。3つの力とは、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力である。昨年度の高校1年生のデータと比較すると、学年全体として、今年度の高校1年生は情報に関連づけ類推したり、問題の枠組みを理解し、解決のための条件を満たした解決策を提案するといった創造的思考力に強みがあることが結果として表れた。

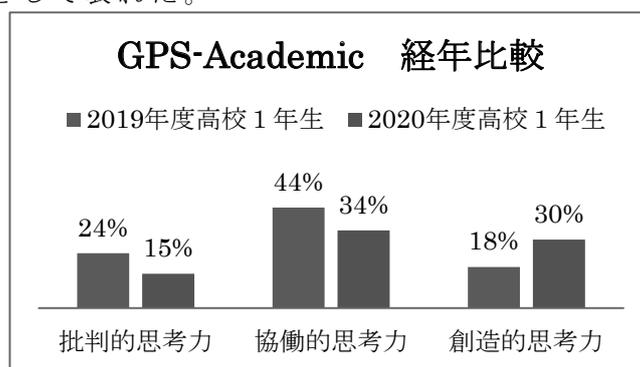


表 1

最後に、外部機関での取り組みへの参加として、10月24日に関西大学で実施されたサステナブル・ブランド国際会議2021横浜 Student Ambassador 全国大会西日本ブロックに2チーム8名が参加した。12月19日20日に実施されたフードパントリー（主催：奈良市社会福祉協議会）には9名の生徒が参加し、シナジータイムでの探究活動をボランティア委員として行動に移す場面も見られるようになった。それ以外にも、本校の入試関連行事実行委員会にも4名が参加しており、入試説明会での司会・プレゼンテーションなど活躍の場を広げている。

【授業での取り組みを活かした活動について】

日付	活動項目	活動内容
9月25日(金)	本校文化祭での発表	夏休みの課題であるSDGsとタイに関する発表を行なう。
<p><アブストラクトと発表スライドの一例></p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>⑦「貧富の差～貧困と教育の差～」</p> <p>今回の授業で私達がテーマにしたことについて調べた内容は格差社会と教育のつながりです。これはSDGsの[1]貧困をなくそう[2]飢餓をゼロに[4]質の高い教育をみんなにの3つにつながるのではないかと考えました。そして、調べていくと、近年貧困率は減少したものの、地方によってはまだ貧困率が高い地域があることや、貧富の差が生まれながらにして固定されやすいこと、お金の格差だけでなく教育の面においても進学や質に格差があることなど、今まで知らなかった問題が沢山出てきました。その知らなかったことは「他の人の目線になって考えたらいいのでは?」と思い、格差社会に生きる現地の人々の目線になって考えてみました。すると、貧困層の方々や富裕層の方々での考えの違いが見えてきました。それらのことを踏まえて自分達に出来ることを考えた時、古着寄付、絵本の寄付、寄付になる商品の購入、街中の募金活動に参加することなどが出てきました。今からでも出来る事が沢山見つかったので、率先して社会に参加することの必要性を感じることが出来ました。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center;">3. 調査内容</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・バンコクとその他の地方との格差が激しく、教育もそのひとつ。バンコク内でも教育の質の差や学習格差がある。 ・貧困率はこの20年間で大きく減少し、70%から10%に減少したが、それはバンコクとその周辺地域が減少している一方でまだ高い貧困率の地域もある ・格差社会の酷さ(世界)2016年3位→2018年1位 ・収入格差が非常に激しい ・法の下での平等がなく金持ちの人は法を犯しても罰せられることが少ない ・富の再配分が少ない ・貧富の差が生まれながらに固定化しやすい ・タイの上位1%の富裕層が国民全体の富の66%を所有している ・記憶力重視の教育 ・早期教育  <p style="font-size: small;">(注) 1%上位の富、40% (1%上位の富、40%) 1980年 1990年 2000年 2010年 2015年 2018年 10000 8000 6000 4000 2000 0 100% 80% 60% 40% 20% 0% 100% 80% 60% 40% 20% 0% 100% 80% 60% 40% 20% 0%</p> </div> </div>		
10月24日(土)	サステナブル・ブランド国際会議 2021横浜 Student Ambassador 全国大会西日本ブロックへの参加 (主催：サステナブル・ブランド ジャパン (株式会社博展))	文化行事での発表内容から選ばれた2チーム8名が参加し、他校の生徒と共に、SDGsにかかわるテーマを株式会社ベネッセホールディングス、サントリーホールディングス株式会社の方々と共に話し合い、発表した。
<p><当日のグループワークの様子></p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
10月末～12月4日(木)	サステナブル・ブランド会議 2021YOKOHAMAへの応募	西日本ブロック大会の内容を踏まえ、各校でSDGsの目標に関わるテーマについて話し合い、論文を作成し応募した。
11月上旬～12月11日(金)	ディニアプトリ女子高校との交流	本校の協定校でもあるインドネシアのディニアプトリ女子高校とオンラインによる交流を実施した。特設コースI類からは7名が参加した。
12月19日(土) 12月20日(日)	フードパントリーへの参加	奈良市社会福祉協議会が主催しているフードパントリーのお手伝いにボランティア実行委員会が参加した。特設コースI類からは9名が参加した。
12月25日(金)	SDGs コンテスト	グローバル事業のコンソーシアム会議のメンバーの方々に審査員として

参加頂き、コンテスト形式で文化行事以降のシナジータイムでの取り組みをまとめ、発表した。

<当日の発表の様子>



<発表スライドの一例>

ロボットと教育

Nexus

調査動機

教育系アプリKitS 教育ロボット

4 質の高い教育をみんなに

質の高い教育を皆に！！

タイから来たカオホームさんの声 /

バンコク出身！！

関西教育ICT展でのお話

KitSが育む“いきる力”

教育系アプリKitS 教育ロボット

電子図書館 LibrariE

英語多読本 追加しました！

オンライン授業のデメリット

授業準備に時間がかかる	32.74%
学生とのコミュニケーションが取れない	26.53%
疲労感が生まれる	24.28%
学生へのフィードバックが大変	16.43%

英会話ロボットMusio(ミュージオ)

- 自然な会話
- レベルに合わせて会話
- 英語の三要素学習
- プログラミングされていない無限の会話

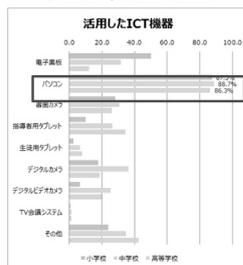
シャンティ国際ボランティア会と育西が連携することで、ロボットの寄付が実現可能！！

先輩から受け継いだ課題

- ・未来のロボットは本当に実現できるのか。
- ・ロボットでは超えられない技術は何なのか。
- ・ロボットは誰でも買うことができる身近なものになるのか。



今後やりたいこと

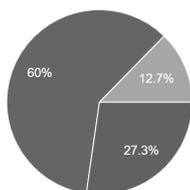


使わなくなった
パソコンを寄付!

< 審査員・教員からの評価の一例 >

(1) 調査動機が明確である。

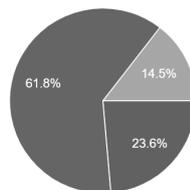
165 件の回答



- 3点 (優れている)
- 2点 (普通)
- 1点 (努力を要する)

(2) データなどを分析できている。

165 件の回答



- 3点 (優れている)
- 2点 (普通)
- 1点 (努力を要する)

先輩からの意見を参考にしているところが、引き続きできていて良いと思った。
貧困の人たちに幸せを感じてもらおうということは、人それぞれ感じ方が違うので難しそうだと思います。

あなたたちは、何をしますか？

「〇〇だいいと思います。」であると他人ごとですね。
SDGsで一番大事なことは、「私がなにをするか」ではないでしょうか？
アイデアは面白いですが、頑張ってください。

聞き取りやすい発表でした。スライドも見やすかったです。
マイクロプラスチックを減らすことは可能とのことですが、どのように？

自分たちの考えを根拠をもって示すことができていました。一方、なぜその課題意識をもったのか、「先輩から課題を引き継いだ...」という部分を、本校の取り組みをもっと知らない人もいることを考えると、もう少し丁寧に説明してもよかったですのではないかと思います。

コロナとpm2.5の死亡率との関係の話があったが、データ分析した資料などがあればわかりやすかった。

1 月中旬
～
2 月 1 日 (月)

SDGs 探究 AWARDS 2020
への応募

SDGs コンテストでの発表内容を整理し、全チームが応募した。

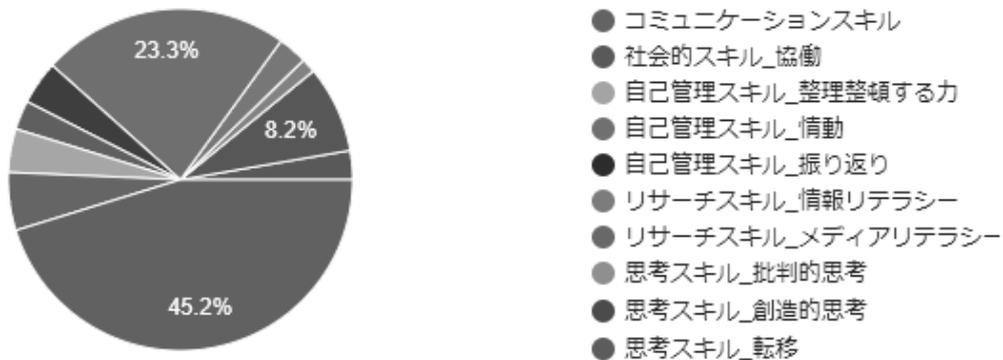
⑤ うまくいかなかった点と理由

新型コロナウイルス感染防止により、タイの課題解決型ツアーの実施が叶わなかった。それ以外にも、例年と比べると様々な外部団体とのつながりが希薄になってしまった印象が否めない。その代わりにオンラインでの交流を増やしたり、校内での発表の場を新たに設けるなどしたが、社会貢献活動への参加を主眼にしている授業科目なので外部機関や団体との直接的な対話が必要不可欠であると考え。来年度に向けて、他のグローバル校との関わりを増やすなど計画を立てなければならない。また、社会とつながる方法について、NGO や NPO 団体と私たち教員もつながりを持つ必要がある。生徒たちは、自分たちが取り組みたい活動と、それに関わる団体を上手く結び付けることができず、募金など安直な解決方法に考えが行き着いてしまう者も一定数存在していた。「自分－社会－地域－世界」を上手く関連させ、自らがどのように関わっていくかを考えないと、一貫して調べ学習で終わってしまう可能性もある。本校の中学校で取り組んでいるコミュニティプロジェクトの発表会に高校 1 年生を参加させるなど、校内での取り組みの共有を活発化し、中高一貫校の良さを生かし、学年・コース分け隔てなく活動する事を企画しても良いのではないだろうか。

⑥ 生徒の感想・生徒の変容

以下に、年度末に実施した授業アンケートの結果を記載しておく。この1年間で生徒自身が身に付いたと考えるスキルや来年度の目標について挙げている。

問1. 10のスキルのうち、特に身に付いたと思うスキルは何か、1つ選んでください。



問2. 問1のスキルを選んだ理由を教えてください。

・リサーチスキル_情報リテラシー

タイの貧困について調べているとき、サイトによって書いてあることが反対であったりだいぶ昔のタイの状態が書かれていたりしたので、その内容が本当か判断しなければいけなかったから。

今まではネットから検索したものそのまま写したりしていたがシナジーが始まってからは、しっかりこの情報はあっているのかを調べるようになったから。

Wikipediaなどは誰でも作れるので信憑性がないことは前からわかっていたけれど、図や表が沢山載ってたり、出典がしっかり書かれているものを自分のスライドに取り込んだり、一つの情報を信じるのではなく何個もサイトや本を調べることができました。今までも先生にはずっと言われていたことだけど、どうしても見たもの1つだけを信じてすぐ取り込んでしまったり、きちんと1つ1つ丁寧にみることができていなかったから、今回はまだまだ改善点はあるにせよ今までで一番納得のいく資料作りができたように思います。

色々な情報から自分たちに必要なものを選択し、その情報が確かなものかを調べるようになったおかげでテレビの情報番組の話やSNSの話でその情報が本当なのか見極めることを意識できるようになったからです。

・コミュニケーションスキル

コミュニケーションスキルがあれば、普段の生活にも社会に出たときでも周りの人と繋がることに活用できる力だと思うから。また、この力をつけると、同時に知識も身につけていくと思うから。

今もだけどこれからの方がもっと積極的に行動し、活動していくことが必要になると思うので、将来のためにも今しっかり身につけておきたいです。

高1のシナジータイムでは中学の時よりも詳しい内容を考えることが多くなったように感じ、その詳しい内容を話し合うときにみんなの意見を聞いたり質問したりしっかり考えて話したりすることができたように感じたので、コミュニケーションスキルが特に身についたと思いました。

・自己管理スキル_振り返り

発表の後自分や自分たちの班の振り返りをしっかりできたから。

・社会的スキル_協働

一つのスライドを作成していく上で、分業を行うことの大切さを学びました。一人で何かをするというより、メンバー全員で行うほうが各個人が一つのことに集中して取り組むことができるのだと思いました。また、相手のことを尊重して、ひとりひとりの個性あふれるものが詰まった作品ができる方が見ている人も楽しめるんじゃないかなと思いました。班のみんなと話したり、役割分担をすすんでできるようになったから。

・思考スキル_創造的思考

今は新しいものを作り出すことを求められている時代だと思うので、何か自分で考えた自分らしいユニバーサルデザインとかを考えてものを作り出したいです。

自分たちにできることは色々あるけど誰もが思いつくアイデアではなくなかなか思いつかない取り組みや自分たちにしかできないアイデアを生み出したいです。

・思考スキル_転移

私は、単純な事しか考えられないから、もっといろんな観点から物事を見て考えられるようになりたいから。例えば、テーマに沿って調べるだけになってしまうと淡々となってしまう面白くないと思います。だから「転移」を身に付けて知識の幅を広げ、テーマからいろいろな課題に関連づけていきたいなと思ったからです。

小中学校では学ぶ事の出来ない **SDGs** 等を学ぶ事が出来、またそれを外部と繋げたり活かしたりする事が出来たから自分事と捉えられるようになったと思うから。

いろいろたくさんホームページを見ていてそれぞれ違った意見や見かたについて書かれています。それを要点のようにまとめる力がもっと身についたと思いました。特に国語の授業に生かせているとおもいました。

問3. シナジータイムを通して身に付いたことを来年どのように活かしたいですか？具体的に書いてください。

・一つのサイトを見たとして、人によって解釈の仕方が違うんだなと感じたので、自分の解釈が絶対だ！と思い込まず、人の解釈を聞き入れて考えを広げられるようにしたいです。

・コミュニケーション能力を活かし様々なボランティア活動をしていきたい。

・他の視点から物事を見るのが前よりもできるようになったので、いろんなことに取り入れて、調べていることの視野を広げていきたい。

・判断するだけでなく、そこから自分の考えを見つけていきたい。

・自分たちで考えて話し合う力がついたと思うので、ホームルームや普段の授業でも話し合いのときは、積極的に発言し、多様な意見を取り入れるようにしたい。

・シナジータイムをする前までは自分のことしか見えていなかったけどこの授業を通して周りを見れるようになりました。来年は今以上に視野を広げ色んなところに目を向けられる人になりたいです。

・日常生活などの自分にとって身近なことに疑問を持ち、今自分に出来る事は何なのかを考えていきたいと思います。

・今までの知識を覆される事実が多すぎて、インターネットだけの知識だけで過ごすとかくさんの誤解やすれ違いが発生する。だから、インターネットの情報の危うさを沢山の人に伝えたい。

・入学時の面接や企業面接の時に自分の考えなどを正しい言葉で伝えられるようになりたい。

・自分たちが考えたことを、行動に移すことができる機会がせつかくあるので自分にできることがあるときにはいろいろそのことについて調べてできるといいなと思いました。

・今年は、コミュニケーション能力が少し上がったと思うので、大学の教授などのお話を大学に直接、聞きに行く時間を取ったりしてみたいです。

・シナジータイムで身についたことはとても多く、皆で協働して1つのテーマについて話し合ったり解決策をあげたりすることは今後も必要になってくると思うので、来年はもっと意見を言ったり物事を客観的に見て考え、身についたことを活かしていきたいです。

・一年間で得た「世界の問題を知る」という事と「自己流の解決策を出す」という事を、来年は「行動」に繋げる事に活かしていきたい。

・**SDGs** について多くのことを知ることができたので、今年取り組んできた「質の高い教育を皆に」という目標以外の目標についても考えたいと思いました。

・ただテーマに対する結論を書くのではなくどうしてそうなったのかなど具体的に根拠を伝えることを学んだので来年からは根拠に加えて自分たちはその結果をきいてどう思ったのかなどもっと自分たちは何が出来るのかなどを考えていきたいです。

問4. この1年間であなたにどのような変化がありましたか？

・グループ活動が苦手であったがかなり克服できた。

・パソコンが前より使えるようになった。私はパソコンを学校でしか使ったことがなく、

最初パソコンを育西で使い始めたばかりのときは使い方も全然わからず文字を打ったりするのも場所がわからずとても時間がかかってしまっていたけど、たくさんシナジーで使うようになり打つのも慣れてきたし写真の貼り付け方とかコピーの仕方とか、字の大きさや色の変え方などたくさんのことを学べた。

- 普段考えないことを考えたり、グローバルな関係性を見つけていたり、高校生になってこそ、育英西ならではたくさんことができました。また、問1でもありましたが、スライドや原稿を考えるとときに一人でするのではなくて、仲間と協力することが大切なんだと改めて感じました。
- 様々な国の状況を知り人によって様々な幸せがあるんだと分かりました
- 今年は特にこのシナジータイムで **SDGs** について、学習したのでたまにテレビなどの **CM** や新聞記事に **SDGs** について出てくると、反応することが多かったです。
- 今まででは外部のディスカッションに行けたりすることがあっても、すごく緊張して楽しめなかったりしたけれど、楽しめるようになったり、いろいろな人の刺激を受けることもできたりして、**SDGs** コンテストなど本気になれる場もあり、より人にどう思われるかを考え、人がこのスライドを見たらどう思うか、この発表原稿で伝わるのか、など考えられるようになりました。
- 今まで一つのテーマについて班で深く調べたりすることがなかったので自分の意見を言うことが苦手だったが、1年間でたくさん話す機会があり、自分の意見を相手が理解できるように伝えようと努力するようになった。
- 今まで、ロボットみたいにすべてを機械的に考えて生きてきました。でも高校生になって、新しい友達ができ、今までしてこなかった部活をして、今までに見たことのない世界を見ることができた。言葉にすることは難しいけど世界が今まで以上に色づいた気がします。
- 発表のときに頭が真っ白になって固まるということがなくなった。違うクラスの子と関わりを持てた。みんなで協力してつくる楽しさや達成感を味わった。
- 中学の時よりも自分に与えられた課題についてしっかり考えられるようになったかなと感じました。また自分の知らない、いろいろな国などの解決しないといけないことや、問題がありそれについてよりしっかり考えられるようになったと思います。
- サステイナブル会議に参加させていただき、一つの問題について皆で意見を出し合い解決することの大切さだったり、人それぞれ考え方が違うんだなと実感することができました。将来この経験を活かし、仕事などで生かしていきたいです。"
- シナジータイムで **SDGs** について考えてきたのでテレビやラジオで **SDGs** のことが流れてきたときに意識して見たり聞いたりするようになった。
- 世界の問題や他人の価値観との差に興味があったが、実際に調べたりしたり行動したりした事が無かったので、調べて知識を身につける事で、今までは他人事だった社会問題を自分事と捉える事が出来るようになったと思う。また、班のメンバーや他の班の人達の話を書く事で視野を広げる事も出来るように思う。これらから、この一年間で外側から内側に入る事が出来たと思う。
- 中学校とは当たり前ですが違って、「初めて」の経験ばかりで戸惑いがたくさんありました。友達とコミュニケーションとることも苦手だったのですが、今では自分の意見をはっきり伝えられることができるようになりました。そのきっかけは、やはりサステイナブル会議に参加してから変わったと思います。他校の人と交流してもっと幅広い考えがあることに改めて実感できる本当に良い機会でした。また、会議に参加するまで仲間と共に活動している期間でたくさんことを学びました。この一年で、たくさん経験をしました、活動で物事の考え方そしてたくさんの視点から物事を考えられるようになったことが一番の変化だと思いました。
- 今まで周りのことなどあまり意識したことがなかったけれど、シナジーの授業を通して自分の視野を拡げることができました。去年の今頃を振り返ると、色々思うことがあっても友達に自分の意見が上手く伝えられずに終わってしまっていたので、考えたことを行動に移すことまでできた今年は、自分の中ですごく成長できたなと感じられる1年になりました。この授業がなかったら、今も去年の自分と変わっていないままだったと思います。**SDGs** についても詳しく知ることができ、ボランティア実行委員の活動にも繋げることができました。

問5. シナジータイムを受ける後輩にどんなアドバイスがありますか？具体的に書いてください。

- 周りの意見を聞いているだけではなく、積極的に話し合いに参加することが大切だと思う。
- くわしく知るために情報を集めることは大事だが、その上で自分の何ができるのか、どう行動に移すかを考えることが大切だと思います。
- シナジータイムでは、初めての課題に、初めての取り組んでいくすごく大変な授業だと思うのですが、仲間と考えあって、助け合っていくことの大切さがすごく感じれると思うし、グローバルな問題にも真剣に考えていけると思うので、頑張っってシナジータイムに取り組んでください！
- 論点や考えを分析して評価して次につなげていくことが大事
- 問題解決をするにあたって可能か不可能かということを考え解決に導くのではなく、より広い視点をもちどのようにすれば実現可能なのかということを考えていってほしいと思っています。
- 何事にも苦手意識をなくして、挑戦してみることが大切だと思います。失敗しても次からその失敗を改善していけばいいし失敗する方が自分のことを知れるいい機会になると思うからです。
- はじめは慣れなくて大変だけど、班の人たちや先生方と協力しながら頑張っって欲しいです。例えば、どのようなことか理解できないときには先生方に頼っって聞いてみたり本を見てみたりしてほしいです。ネットは信じすぎないでほしいです。誰かと意見がぶつかったときもその人の意見も一つの考え方なのだと考えてください。大変なことが多いとは思いますが、頑張っってくださいね。応援しています。
- 自分たちの問いについて調べて活動していく中で、もう終わりだと思っるところまで進んだらはじめに戻っって自分たちの知りたかったことについて本当に考えられてきたかを確認したほうがいい。たくさんの情報を見てまとめていくと目的を見失いがちになることが思いの外あつた、と一年を通して感じたから。
- 社会問題や世界各国で起きている問題を自分事と捉える事が大切だと思っ。これがこうなれば今後の世代に悪影響が起ころだろうと常に考えると、解決策を発見していく手助けになると思っ。また、自分だけでまとめるだけでなく他人の意見も取り入れる事で、価値観を広げる一つになると思っるので、沢山に人と話す事が大切になってくると思っ。
- 「シナジータイム」は本当に素晴らしい授業です。私はこれによつてたくさんのことを得ました。たくさんの活動があり、自分のすべてが発揮されます。また、活動によつてその力がもっと覚醒されます。その力で私達をこせるように頑張っしてほしいです。(←負けませんけれど)

2 シナジータイム

② 高校2年特設I類

【目的・目標】

シナジータイムとは、課題を発見し主体的に取り組み協働して問題解決に向かう力を養う時間である。また、さまざまな教科での学びに応用されるよう、「学びの方法を学ぶ時間」でもある。本校独自の設定科目であり、2018年度1年生特設I類に導入し、2019年度生が2期生である。また、高校2年生での実施は今年度のシナジー2期生が初年度である。

2年生は自己実現に向けて、社会に貢献できる「行動」をすることが目標である。

この授業を実施することでどのような力が身に付くのか。身に付けたいのかを考え、「シナジータイム Remodel 2018」(図1参照)を作成した。(併設中学校では「シナジータイム」を1年生から3年生まで、週2時間を設定し、取り組んでいる。また、国際バカロレア MYP 候補校である。)

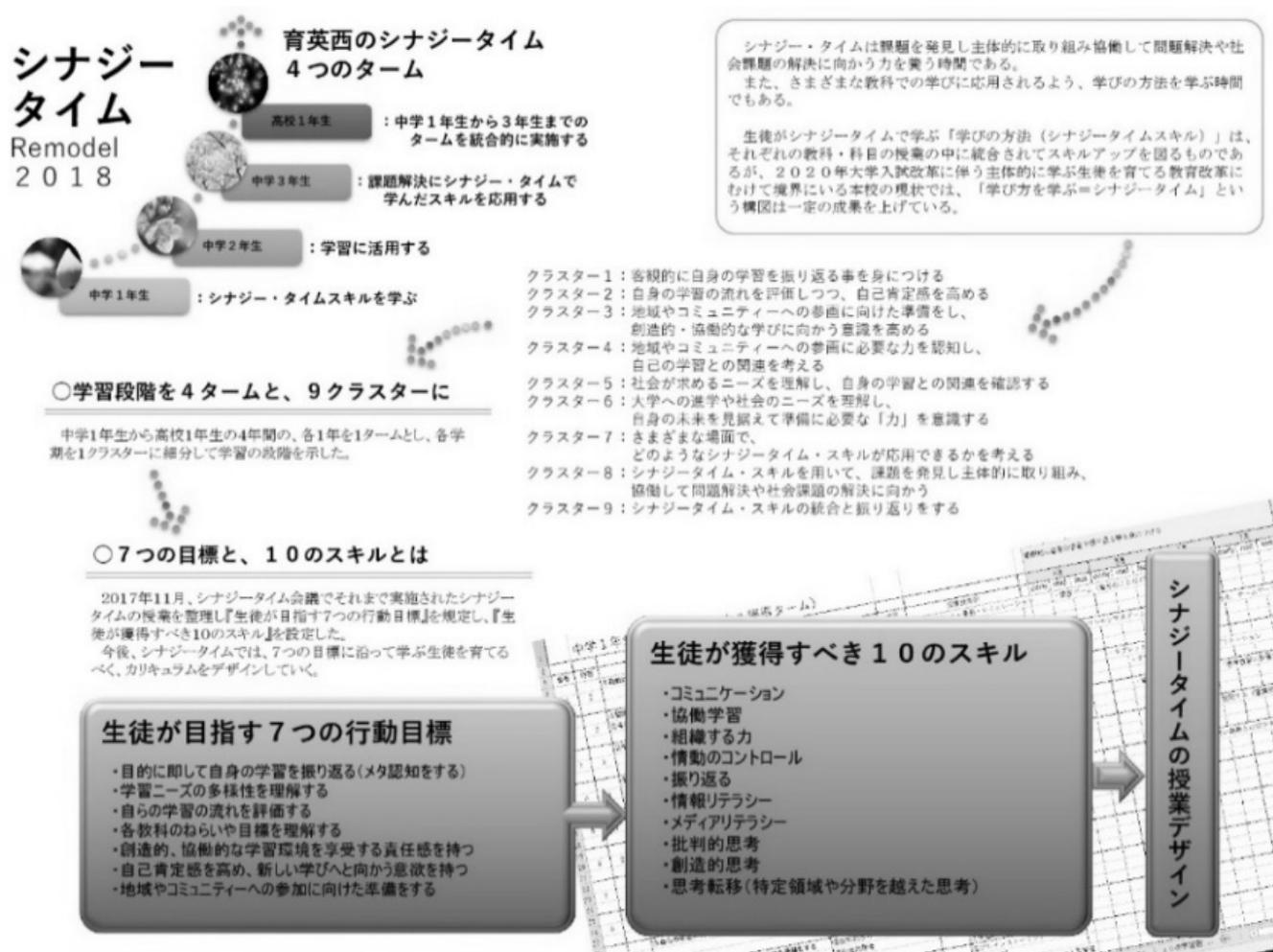


図1 「シナジータイム Remodel 2018」

① 実施報告

【取り組みの流れ】

1 学期

自分にとって“良いプレゼンテーション”とは何かを知る。(知る)

- ・ になりたい姿（目標）を確認（近い未来の目標）。
- ・ ZOOM で実況中継（コミュニケーションスキル）。
- ・ ルーブリックを作成する。
- ・ 自分がつくったルーブリックで点数をつける。

2 学期

「Thai 課題受け継ぎ会」後輩へ受け継ぐ。(視野を広げる)

- ・ 高校 2 年生が 1 年間考えてきた課題を Thai（現地）と ZOOM で交流し、更に内容が発展するために Thai の交流相手にアドバイスをいただく。
- ・ 高校 1 年生と高校 2 年生で合同授業を実施し、高 2 が調べてきたことを高 1 へ伝える。
→1 年間で解決するテーマではないので、高校 2 年生が調べてきたことを高校 1 年生に引き継ぐことで特設 I 類コース（縦の繋がり）で年々内容を深めていく。
- ・ この 1 年間の取り組みを文化祭で発表する。

3 学期

思いを形にする。(挑戦・行動)

- ・ 必要とされる人材とは何かを考える。
- ・ 自分自身が興味あることは何か。(言語化・視覚化)
- ・ 自分自身が興味ある活動に参加する。(行動)
- ・ 1 年の振り返り。自分自身の変化を実感する。来年度に向けての目標を立てる。

【生徒観】

普段は元気で明るい生徒が多いが、授業中に教師がクラス全体に問いかけても、発言を目立ってする生徒もなく、静かにしている生徒がほとんどである。ただ、ペアワークでは友人関係が良好かなどは関係なく、話ができる生徒が増えてきた。6 月当時（ZOOM 明けのリアル授業）は、ペアワークでは慣れない生徒同士で、発言できる生徒が多くなかった。毎授業ペアを変えてコミュニケーションを取らせていたので、生徒たちは少しずつ慣れてきた。

現時点（2 月）でも、クラス全体へ問いかけたときに、頷いたり微笑む反応はするが、声に出して何かを発言する生徒は少ない。しかし、今回アンケートを実施して、生徒たちがたくさんの思いや考えを持っていることを知った。

これから、生徒たちの思いを実現できるように具体例を考え、「言語化」させて、指導をしていきたい。

【2020年度 授業スケジュール】

	実施日	授業タイトル	内容
1	4月22日	あなたの近い目標(なりたい姿)は何(どんな事)?	将来のやりたいこと、なりたい姿を classroom に記入して提出する。
2	5月13日	ZOOMで中継リポート	写真を共有して、現場のリポートをするための準備。原稿作成。写真選定。
3	5月20日	評価ってどうやってされる?	「ZOOMで中継リポート」作成を通してどのようなリポートがいいかを考える。ループリックをつくる。
4	5月27日	ZOOMで中継リポート	写真を共有して、現場のリポートをする。ブレイクアウトセッションでNO.1を決める
5	6月3日	ZOOMで中継リポート	写真を共有して、現場のリポートをする。代表者がみんなに共有して発表する
6	6月17日	プレゼンテーションの評価を作成	参考文献などを探し、PCでループリックを作成する。
7	6月24日	コミュニティの課題を見つける	社会での「0」→「1」を知る。ワークブックで練習する。
8	7月1日	自分に出来そうなことを探す	身近なことで、自分にできそうなことを探す。アイデアを出す練習をする。
9	7月22日	Thai課題のZOOM交流会に向けて	昨年実施してきた、Thaiについてまとめる。
10	7月31日	原稿・スライド作成	Thaiとの交流会ZOOMに向けてリハーサル
	夏休み	タイについてプレゼンテーション作成	Thai ZOOM交流会に向けてプレゼンテーションを完成させる。(ブラッシュアップする)
11	8月24日	Thai ZOOM交流会	高木さんとナムさんの学校の生徒と交流
12	8月25日	文化祭準備	Thai zoom 交流のアドバイスを踏まえて内容を深め、まとめる
13	9月2日	文化祭準備	プレゼン作成
14	9月9日	文化祭準備	プレゼン作成
15	9月16日	文化祭準備	アブストラクト作成
16	9月23日	文化祭準備	最終リハーサル
	9月25日	文化祭本番	Thai 高木様にいただいた課題(先輩から受け継いだ課題)について1年間考えた内容を発表。
17	10月7日	S1&S2 合同シブタイム~Thaiの課題を受け継ぐ~	Thai 高木様(元タイ商工会議所)・ナムさんの学校の生徒とナムさんからもらった課題をS2が深めてS1へと受け継いだ。
18	10月28日	自己PR~必要とされる人材とは?~	どんな人が、社会で必要とされているかを考える。 社会人基礎力・大学のアドミッションポリシーから分類する
19	11月4日	自己PR~自分自身に必要なことは?~	大学が求めている人材から、自分自身に必要な力を分析する。

20	11月11日	自己PR～自分自身に必要なことは？～	高校2年間（もしくは中学生で）自分が身に付けた力についてワークシートを記入しながら考える。
21	11月20日	色のチカラで新しい自分を発見	パーソナルカラーについて。カラーコーディネーターの講師を招く。
22	12月2日	講演会の振り返り	パーソナルカラーを踏まえて、自己PRプレゼンテーションに取り掛かる。（冬休みの宿題の説明）
	冬休み	自己PRプレゼンテーションを作成	
23	1月13日	自己PR～質問しよう～	冬休みの宿題の自己PRを以下の方法で共有。 ロールプレイ実施（面接官と面接者）
24	1月20日	自己PR～自分で作ったループリックで評価しよう～	5月に作成したループリックで評価できないことを見つける。
25	1月27日	自己PR～「行動」とは？～	TEDx wakakusa を見て「行動」とは何かを学ぶ。
26	2月3日	自己PR～「行動」が必要だと思いう理由～	Google forms を使用して、自分が考える「行動」とは何かを言葉で表現する。
27	2月17日	自己PR～行動実現に向けて①～	具体的な行動を調査・計画する。
28	2月24日	自己PR～行動実現に向けて②～	具体的な行動を調査・計画する。
29	3月3日	1年間の振り返りと来年度に向けて	Google forms で振り返りを実施

【協力企業】

1・株式会社 JTB

② 工夫した点と成果があったと思われる点

緊急事態宣言が発令され、1学期はほぼ on line (ZOOM) での授業であった。そこで新たなコミュニケーションの技法が必要な授業 (on line での原稿作成・ZOOM の画面共有・カメラの角度・目線・などの、機能を使うからこそできる授業) に変更した。生徒は、新しい学びに対応し、新たなコミュニケーション力をつけることができた。

1学期に、自分以外の人プレゼンテーションを「いいな・素敵だな」と思う感覚を言語化・点数化するために、ループリックを作成した。そして、3学期に、自己PRプレゼンを1学期に作ったループリックで採点させた。そこで生徒たちは、自分が作成して不足していた視点や角度に自ら気づき、自分自身の視野が広がったと成長を実感できるように授業を構成した。

③ うまくいかなかった点と理由

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、Thai 課題解決型ツアーへ昨年度末 (2020年3月を予定していた)、行くことができなかった。そのため、Thai 課題解決型ツアーに代わる、できる限りのことを生徒にさせてあげたいと考えた。考えた末に、on line での交流会をすることになったが、コロナ禍の学校運営などで、企画の代替案を考えるのが遅れ、実施が8月末となってしまった。この影響で、生徒たちが、地域や社会に貢献するという「行動」をするのがこれから (2月以降) となってしまった。

④ 生徒の感想

2021年2月3日実施

問1. あなたは、なぜ「行動」が必要だと感じますか。

- ・今高校生の時代に行動できる人は、将来就職したときや大学に入学したときにいろいろな場所で活躍ができ社会貢献ができる人になると感じるから。言っているだけではなく行動しなければ何も始まらないから。
- ・一つ一つの行動の積み重ねによって自分の人生や他人の人生を変えることもあるし、自分から行動しないと現実は何も動かないから。一つ一つの行動を完璧に、を意識するのではなく、とりあえずできそうなら何でもためらわずに行動する。完璧を意識しすぎて行動ができないなんて事にならないようにする。
- ・自分の考え方を改めたり、沢山の人とコミュニケーションを取るためにも行動が必要だと感じます。行動をしなければ成長はできないと思います。成長するためには行動して、自分の足りなかったところを見直して改めて行動することで自分の考えや感じ方が大きく変わります。積極的に行動していくことで視野が広がる。
- ・自分がこれからいろんなことに自分からチャレンジしていけるようになりたいから。
- ・考えるより、自分で実際に目で見たり、肌で感じるほうが早いし、もっと多くのことを感じられ学べると思う。また、自分から行動するのはとても勇気があることだけど、自主的にすることで自信がつくと思う。自信がつくことでこれからなにか新しいことを始めたり挑戦したりできるようになると思う。
- ・ただ考えるだけではそこから何も進まないが、自分が思ったこと、感じたことを行動に移すと新しい発見や経験ができると思うから。また、なにか問題を見つけても行動に移さない限りなにも解決しないから。そしてその問題を他人事のように考えるのではなく、自分自身に関わる問題だと思って行動したい。
- ・行動して、自分がいま興味あることをよく知ることで、自分だけで考えているときよりも周りとの意見を共有することでいろいろな視点で物事を見ることができ、自分の視野を広げられ、次の行動へとつながっていくと思うから。

問2. あなたは、どのような「行動」をこれからしますか。また、しましたか。

- ・「自分ごと化」プロジェクトに参加したいと思います。私は、社会や国際に興味があります。特に国内外の社会課題や国際情勢などに興味があります。私が参加しようと希望するこのプロジェクトは、世界に友達を作り、社会課題解決を目指すプロジェクトです。土曜日の20時から1時間セッションを行い議論する場が設けられています。
- ・現状を把握するのが最初だと思った。私は、ペットの飼育放棄について知るために保護犬・猫カフェに行った。

- ・なら燈花会の設営や準備のお手伝いをした。
- ・私は得意だと思っている文章能力が世間にどこまで通用するのを知りたいことから、文章コンクールに応募した。(参照：<https://www.smtb.jp/personal/watashi-isan/summary/>)
- ・私は、過去にオープンキャンパス実行委員で司会を務めました。これからは「今やりたいこと・将来したいこと」のためにこれまでやってきたことを活かせる、役に立つようなものに取り組みたいです。具体的には、建築を通して環境についてこれまでSDGsについて考え学んできたアイデアとともに考えられるイベントに参加したいです。
- ・地域のごみ拾いをした。

問3. あなたがここまでで「見方・考え方」が変化し、「行動」したことを教えてください。

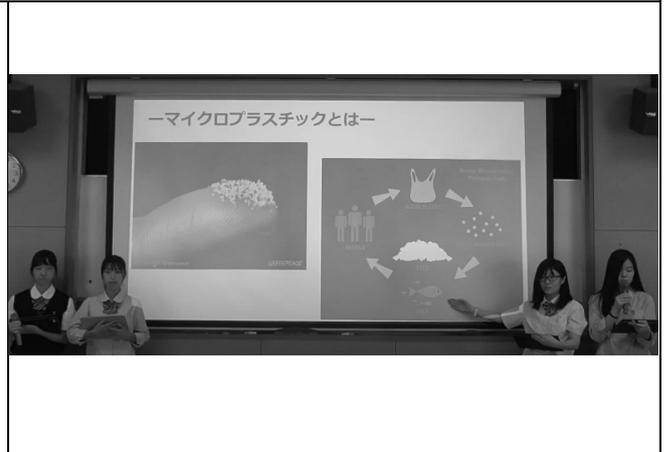
- ・タイについてもっと調べたりプレゼンテーションをしたりしてタイのことを知れたつもりになったけれど、インターネットの情報では間違っていたことや知らないことも多いと思うので、いつか実際にタイに行って、タイの現状を自分の目で確かめてみたいと思います。
- ・奈良の文化庁が集まる合同の発表会に参加して、一から考えて作り上げることに年齢や性別や話した回数は関係ないと思った。
- ・以前はあまり気にしていなかったのですが身だしなみや見た目に気を使って印象よく見えるように心がけています。
- ・今まで私は世界が抱えている問題について考えたことがなかったのですが、今は世界について考えるようになりました。私はニュースをよく見るようになりました。
- ・周りでなく、自分自身が常に成長して変わっていき人になりたいと思うようになった。自分で何かを作り出して、それを行動に移せるようになるのが今の目標、課題だと思いました。

問4. 高校2年生になってから、自分自身が『成長』したと実感できることを教えてください。

- ・発表の仕方とかスライドのまとめ方など、どのようにしたら聞いている人に伝わるのかを考えることができた。また、相手の発表と自分の発表の何が違うのかを見てどんどん相手のアイデアを取り入れていき、より良いプレゼンテーションに向けて準備することができた。
- ・今まで興味の無かったボランティア活動にすごく興味を持つようになったし、自分の目で見て実感して体験して、貢献していきたいと強く思うように気持ちが変化した。思うだけでなく、行動していきたいです。今私が興味があるのは国際関係の問題なので、ユニセフ協会のボランティアに参加したいです。 <https://onefes.net/vlt26/>
<https://www.unicef-osaka.jp/join/index.html>
- ・「私には今何ができるのか、何をすべきなのか」を考えて行動できるようになりました。ですので、目標も達成しやすくなりましたし、時間をより大切に使うようになりました。
- ・高校1年生からシナジータイムの授業を受けさせてもらうようになって、2年目に突入し、沢山の学びと経験を得てきました。中学生までの間では触れて来たこともなかったプレゼンテーションを作る様になって1年生になりたての頃は手探りだったのも2年生になった今では 具体的に何を根拠に何を伝えたいのかを考えて、的確に伝えられるようになったと思います。沢山の仲間と自分の意志や考えを共有する機会も増えたことで トーク力も上がり、(今年はコロナで機会が減ってしまいましたが) 実際に私達のプレゼンテーションを聞いて頂ける機会も貰えて、どうやら全く初対面の人たちに意見を伝えられるかを考えられるようになりました。
- ・自分のことを考えるのではなく友達のことや他人のことや世界の人のことを考える事ができるようになり『成長』したと実感しています。
- ・人の気持ちを考えた言動ができるようになった。今まで自分のことばかり考えていて、悪気がないのに人を傷つけてしまったことがあったけれど、今は相手のことを考えてから言葉を選んで話せるようになった。

【授業風景】

1 学期【ウーマンエコノミクスに参加】ZOOM で打ち合わせ会議！



8 月 24 日【タイ ZOOM 交流会】





11月20日【色のチカラで新しい自分を発見】



冬休みの宿題【自己PRプレゼン】(一部抜粋)

自分の長所

何事にも積極的に挑戦できる

チャレンジする力

<p>自己アピール</p> <p>自信を持って、自分の長所をアピールする。</p>	<p>自分の長所は、?</p> <p>・短所を ・強み</p>	<p>長所は自分の長所!</p> <p>自信を持って、自分の長所をアピールする。</p>
<p>自信を持って挑戦する</p> <p>自信を持って、自分の長所をアピールする。</p>	<p>自信を持って挑戦する</p> <p>自信を持って、自分の長所をアピールする。</p>	<p>自信を持って挑戦する</p> <p>自信を持って、自分の長所をアピールする。</p>
<p>ありがとう ごさいませ</p>		

2 シナジータイム

③ 高校 1 年特設 II 類

① ねらいと目標

今年度より各学年 1 単位、3 年間で 3 単位の「シナジータイム」をスタートさせるにあたり、国公立大学進学を目標とする本コースにおいては「学ぶとは何か」という問いを根底に置きながら、自分の進路を切り拓くために必要なスキルを身につけるという方針を立てた。文化的なものの見方の多様性や豊かさに対して関心を抱き、個人的な前提や、イデオロギーの底流にある前提について自覚的な生徒を 3 年かけて育てたいと考えている。

このねらいに基づき、今年度の 1 年生の目標を「ものごとの解決に向けて他者とともに効果的に取り組めるよう、論点や考えを的確に分析する力をつける」こととした。各授業において IB の ATL を参考に、さまざまな思考スキルを獲得できるような課題や問いを設定し、日常に転移できるよう促した。

② 実施報告

1 学期はオンライン授業の環境が整った 5 月中旬以降の授業実施となった。2 学期は本章④で後述する奈良県立大学協働プログラムとコラボレーションする形で、当初の予定から変更した取り組みを取り入れた。下記が年間の授業概要と提示したスキルである。今年度は基礎的な思考スキルの理解と実践を軸に、個人的前提を自覚しながら各自の関心領域に基づく問い立てを行った。2 年生では、コミュニティのもつ前提を自覚しながら、さまざまな課題について広く考えることを通してものの見方の多様性や豊かさについて思考させることをめざす。

日程	課題／問い	思考スキル	特記事項
5 月 11 日	オリエンテーション 「シナジータイムで何を学ぶの	思考の可視化の方法やテクニックを実践する。	オンライ ン

	か」		
5月18日	<p>具体的事例に基づき、抽象的課題について論じる。</p> <p>「嘘をつくのはいつも本当に悪いことか」</p>	合理的な結論や一般論を導き出す。	オンライン
5月25日	<p>他者の学説に基づき、抽象的課題について論じる。</p> <p>「哲学者の学説に矛盾はあるか」</p>	問題を認識するために、注意深く情報をとらえる。	オンライン
6月1日	<p>他者の見解と照合して、自分の考えを検証する。</p> <p>「他者の見解は自分の見解に影響するか」</p>	一般論や結論を検証する。	オンライン
6月15日	<p>一読して違和感のある学説に反対する主張を述べる。</p> <p>「この主張はどの程度正しいといえるか」</p>	反対の、あるいは対立する議論を展開する。	対面
6月29日	<p>一読して違和感のない学説を検証し、よりよく書き換える。</p> <p>「人の思考はどのような時偏りをもつのか」</p>	<p>述べられていない思い込みや偏見を認識する。</p> <p>多角的なもの見方に基づきアイデアを検討する。</p>	対面
7月27日	<p>「1枚の写真をもとに、感じるところを述べよ」という医学部の推薦入試過去問に取り組む。</p> <p>「思考の手順をどのように可視</p>	<p>問題を認識するために注意深い観察を実践する。</p> <p>議論を形成するために関連する情報を集め、整理する。</p>	対面

	化できるか」		
9月14日	問いの種類を意識し、グループで設定した問いの質を上げる。 「課題研究における問いにはどのような種類があるのか」	問いの違いを認識する ・ 課題発見のための問い ・ 課題解決のための問い ・ 仮説検証のための問い	
9月28日	複数の思考トレーニングによってアナロジーを理解し、自身の探究に生かす。 「このトレーニングに何の意味があるか」	新しい考えや製品、プロセスを生み出すために、既存の知識を応用する。	対面 * 奈良県立大学協働プログラムに基づく、HRとのコラボレーション
10月5日	哲学対話を通し、対話のルールを自分たちで構築する。 「価値ある対話の要件はなにか」	推測し、「もし～だったら」という問いかけをし、検証可能な仮説を立てる。	
10月12日	研究テーマに対するサブテーマとなる問いを設定する。 「次のサブテーマはどの切り口からできているか」	複雑な概念やプロジェクトの構成要素を分析し、新しい概念理解を構築するためにそれらを統合する。	
11月16日	協働プログラムの成果と課題を整理する。 「協働プログラムで何をし、何を得たのか。探究とは何か」	新しい情報や証拠に基づいて理解を見直す。	
1月18日	3学期の学習過程を理解する。 「なぜ問いを立てるのか」	事実に基づき、時事的で、概念的な、議論の余地のある問題を提起する。	オンライン

2月1日	自分の関心領域に関する問いを立て、他者に語る。 「自分の関心や立てた問いをどのように語るか」	なじみのない状況においてスキルや知識を応用する。	対面
2月15日 3月1日	自分の関心領域に関する問いを探究する	ここまで扱った思考スキルを総合的に運用する。	予定

③工夫した点と成果があったと思われる点

オンライン授業期間が長く続いたため、対面型授業とは別の思考法を積極的に取り入れた。結果として、生徒自身が比較の観点をもち、得意とする学習スタイルを自覚した生徒が多かった。生徒の感想からは、自分の思考の前提にあるものを意識しながら、自身の思考の幅を広げていくことの面白さに気づいた様子や、授業で獲得したスキルを他の教科や実生活に転移させることを意識できた様子が見取れる。これらは1年間の成果といえると思う。

④うまくいかなかった点と理由

当初はシナジータイムで身につけた力を実社会で試すことを1年生のゴールイメージとし、探究系コンテストへの応募や大学や外部機関が開催する高校生向けイベントへの自主参加を促すことで生徒の「行動」へと結びつけることをめざしていた。しかし、新型コロナウイルス感染予防対策により1年生の授業開始が遅れたこと、奈良県立大学との協働プロジェクトとのコラボレーション授業を設定したことで、当初の予定の2/3程度しか授業数を確保できず、シナジータイムとして独立した生徒の「行動」機会を確保することは困難であった。

⑤生徒の感想

・生徒 A (6月29日のリフレクションより)

私たちのグループは、「最大多数の最大幸福」の是非について話し合う場面で「多角的なものの

見方に基づきアイデアを検討する」スキルを使用した。一つの結論を決めることは出来なかったが、あらゆるものに対する自分の考えに思い込みや偏見が含まれていることを認識できた。話し合いを多角的に行うことで対立や争いの解決策を見出すことは実生活にも生かせると思う。

・生徒 B（1月18日のリフレクションより）

今回の授業では、普段は考えることのないことに対して自分で問いを立てることができた。日常的なことから将来的なことまで思考の幅を変化させることで、高校から大学へつながっていく思考を学ぶことができた。まだまだ思考力や知識を足りないと感じることができて「問い立て」ことを常日頃から行う必要性を痛感した。

2 シナジータイム

④ 高校 2 年特設 II 類

① ねらいと目標

ジェンダーに関わる探究活動を通して解決すべき課題を見つけ、解決案を出し、解決への行動を起こすこと。

② 実施報告

【年間の授業内容】

7 月	現代文の授業との関連から DVD (『RBG 最強の 85 才』) を鑑賞し、ジェンダーについて考えを深める 興味のあるジェンダーに関する問題について個人で考える
8 月	同じようなテーマを選んだ生徒たちでグループに分かれ、研究を深めるために先行研究や事例を調べる
9 月	9 月 25 日の文化祭での発表に向けてグループに分かれて探究の問いをしぼりこむ テーマが大きすぎないか吟味しながら二次情報だけでなく一次情報を得るような調査を開始する 集めた情報と考えた解決策をスライドにしながら研究を進める 9 月 25 日の文化祭にて発表
10 月	発表内容を振り返りながら、質問があったことなどふまえ、再検討や訂正が必要な箇所はないか考え、今後の研究計画を立てる 解決策から行動へ向けて研究を進める 解決策があいまいなものではないか、実際に自分たちができる行動とは何か考える。 すでに集めた情報についても情報の正確さを確かめ、調べたことと意見を区別する。
11 月	立候補した 6 名が「SR サミット FOCUS」に参加 (11 月 14 日、15 日) し、他校とオンラインで交流しながら、同じようにジェンダーについて探究している学校の生

	<p>徒たちと意見交換する</p> <p>研究内容の英語版データを作成する</p> <p>クラス内でオーディションをし、英語版の研究発表に向けて代表グループを選定する</p>
1 2 月	<p>英語版のデータを修正する</p> <p>解決策を元に身近に起こせる行動について考える</p> <p>(オンラインイベントへの参加や母校でのプレゼンテーションや業者へのアクセスなどプランを立てる)</p>
1 月	<p>英語版の研究発表動画を作成し、代表グループがオンラインで発表</p> <p>解決への行動を実行へ</p> <p>行動したことをまとめる</p>
2 月	<p>研究の振り返り</p>

【各グループの問いと解決への行動】

班	テーマ	解決案と行動
1	なぜ女人禁制の山は未だに残るのか	大峰山を管理する方たちに自分たちの研究を伝え、PRさせていただいた。
2	男女別で優先されていること (男性は化粧がしづらく、女性は出席番号で後に回される)	<p>男性が化粧をしやすくなる方法について考え、その案を SR サミット FOCUS にて発表し多くの学生と共有した。また大手化粧品会社に研究スライドと企画書を送り、返事をいただいた。</p> <p>母校に連絡を取り、出席番号を男女混合にしてもらえるようにプレゼンの機会をもらい、職員会議の議題にいただいた。</p>
3	女性・男性専用車両の必要性	近畿日本鉄道に連絡をとり、自分たちの研究内容を伝え、女性専用車両を宣伝するポスターを送った。

4	女性専用車両をより多くの人々に	女性優先車両に関する企画書を作成し、JR西日本に送る予定。
5	労働の観点から見たジェンダーイクオリティ	12月にボランティア活動に参加した。
6	男女の家事育児分担率についての研究	SRサミット FOCUS に一部生徒が参加し、他校の生徒と協力して研究を磨いた。2月末に研究内容を奈良県のオンラインイベントにて発表した。
7	未来の教育について考える	12月に東大生のSDGsに関するオンラインイベントにて意見交換した。 1月末のグローバルミーティングに参加し英語版で発表し、他校の生徒たちと評価し合った。
8	Boys, don't enter photo booth machines.	奈良県内にてプリクラを扱う企業に自分たちの研究内容を伝え、メールでお返事をいただいた。

③工夫した点と成果があったと思われる点

コロナ禍で直接のインタビューには行きづらいため、メールや google アンケートなどオンラインで情報収集をすることにした。

また、オンラインイベントなどを紹介し、生徒たちの発表の場をできるだけ多く持つことができた。解決策を練るだけでなく、行動に移すことが昨年度ではできなかったが、今年度全グループが自主的に考え、行動に移すことができた。中には、母校の中学校で先生方の前で出席番号を男女混合にしてもらえるようにプレゼンの機会をもらったグループもあった。

④うまくいかなかった点と理由

行動に限りがあり、昨年度ほども多数の人に直接インタビューやアンケートなどで情報を得ることができなかった。インターネット上でアンケートの存在を広めるには限りがあった。

また、SNS(Tiktok やインスタグラム等)を活用したいという意見が出たが、安全面から許

可できなかった。

⑤生徒の感想

中学の頃から人前で話、発表をすることが苦手で声が小さくなったり頭が真っ白になって発表原稿を忘れてしまっていたが、高校に入り多くのプレゼンをこなしていくことでこのようなことが無くなったと思うのでとても有意義な機会だったと感じた。

班での活動が多かったのもあり、チームで一つのことをこなすといういい経験にもなった。先生もおっしゃるように、この経験は大学だけでなく将来の仕事でも活かせるのではないかと前向きに感じる事ができる。今までの小中学校での似たような活動でもここまでたくさんの班活動はこなしてこなかったので、この学校でここまで良い経験ができるとは思わなかった。

インターネットを調査するための中心となってしまいましたが、インターネットで調査をすることは情報を適切に扱えるかという力にもつながったと思い、この力をつけることができたのが良かったと思います。

身近にある社会問題を見つけ、その問題を解決するための調査をする流れを順序立てて実行する力が昨年度よりも身についたと思います。また、主体的に進行することができたのでより力が付いたことが良かったです。

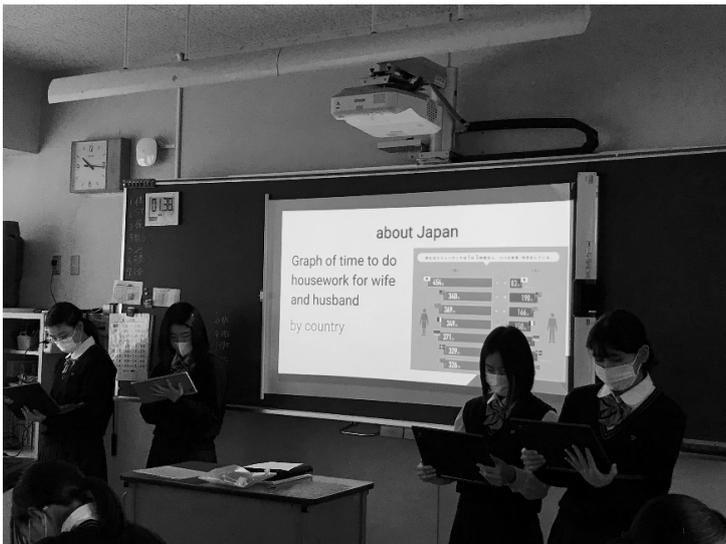
去年は一般の方々にアンケートを行うことができたが、今年はコロナの影響で直接アンケート調査ができず、テレビの企画や芸能人に企画書を送ってみたが反応がなく、調査結果が得られない点で苦労した。でも、企業に自分たちの行動している企画書をメールで送り、期待以上の返信が返ってきて嬉しかった。

最後に、どうやったらメイクの意識が変わるのか、ジェンダー差別はなくなるのかについて真剣に考えて、解決策を見つけることができたと同時にやりがいを感じた。また SR サミット FOCUS に参加し、他校のスライドの見せ方や内容、進め方、最後の結論などたくさんの事柄を学ぶことが出来た。

[オンラインイベントの様子]



[研究発表の様子]





Question

What should be done for the future of our education from the perspective of other countries ?



Reasons

- When we heard about the news of the unfair entrance examination systems in Tokyo Medical College, we wanted to know the cause and the way to prevent the same mistake, and to change our education for the future.
- When we thought about our future courses, we wondered why the number of women who major in science is so small.
- We want to be teachers in the future, so we want to make the situation better by researching about the differences between Japan and other countries.
- What students learned in their school has a great influence on their ways of thinking when they go into society in the future.



Compare with other countries



America

The Problem of Harvard University



The SAT® is an academic achievement test sponsored by the non-profit College Board®. Its score is one of the factors to consider when entering a university in the United States. It is now the most widely used in university entrance exams in the United States.

→Not creating an education that everyone can receive

Sweden

History of Gender-free education

1990's A educational revo "Elements of competition"

1998 a revision of teaching method

Gender neutral...Thinking that gender differences between men and women do matter.

<https://core.ac.uk/download/pdf/147424259.pdf>



Swedish students' way of thinking

- There is no gender pay gap in the same job.

Swedish students' opinion

"Even if 50% of men and women major each, it is not equal."

One opinion

⇒ Choices based on truly personal interests do not create social discrimination



To eliminate gender discrimination based on Sweden's efforts
What Japan should do

Swedish nursery school and family initiative

- Children's toys are cream or navy more than pink or blue.
- Play with your favorite toys regardless of gender.
- Some children are conscious of calling their father first when they are ill.
- Most of the childcare workers are women, so we are actively working to increase the number of male childcare workers.



What Japan should do

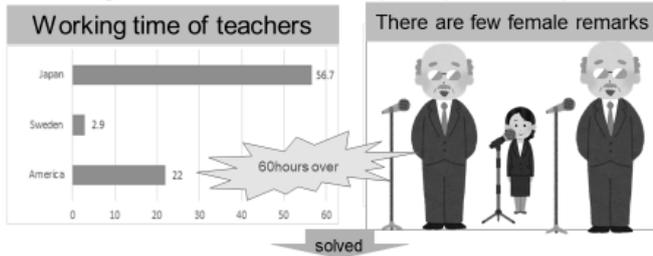
- Eliminate gender discrimination in stationery and toys, or do not determine gender by color.
- Efforts should be made to eliminate gender discrimination even from nursery schools and schools.
- Instead of deciding what to do based on gender, decide what to do as an individual.



Percentage of junior high school teachers & female principals compared with other countries

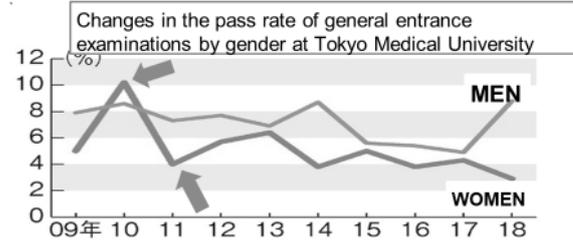


Backgrounds of few female principals in Japan



Awareness reform in education may change future gender awareness

Illegal entrance exam at Tokyo medical university(2018)



Background of illegal entrance examination of medical school

View toward female doctors

- Turnover rate is high because of parenting and others.
 - It's difficult for women to work as a doctor because of strength.
- People think they have no choice but have few female doctors.

Labor situation of doctors

- The doctor's weekly working hours are about 60 hours.
 - The doctor's weekly overtime is about 20 hours.
- People think they have no choice but to work long time.



Action

①Take a questionnaire for teacher of Ikueinishi junior high school and senior high school by google form.



②Join the SDGs event made by students of Tokyo University.

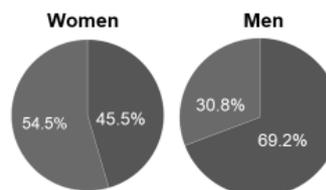


①About take a questionnaire

The questions we asked

1. Have you ever felt gender discrimination at work?
2. Please tell me specifically (Those who answered yes)
3. What do you think you can do for the future of the education? (Teachers' position)
4. What do you think you can do for the future of the education? (Students' position)

Questionnaire results



※Blue is Yes. Red is No

→we had to tackle this issue on our own

How to improve the future of education?

Teacher's position	Student's position
Give a soulful lesson	Not influenced by words such as "because she is girl"
Do not deny the possibility of children	Have a spirit to try
Listen to the student	Spirit of challenge

Do you know MDGs?

MDGs: Millennium Development Goals · eight goals to be achieved by 2015 the eradication of poverty and hunger, and have achieved some success by the deadline of 2015.

Why is S attached?

SDGs: Sustainable Development Goals

Philosophy: No One Left Behind Transform

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

~. Finally ~.

create education that emphasizes diversity with a global perspective and education that leaves no one behind and with peace of mind

Suggest

- Mandatory SDGs classes in elementary and kindergartens all over the world
- To avoid prejudice among children we need the cooperation of everyone to realize the SDGs

References①

- Why "university entrance exams" are causing a lot of controversy in the United States <https://gender.ismedia.jp/articles/-/65400>
- What is the SAT <https://www.benesse-glc.com/special/sat/166>
- Empirical Research on Gender Equality Education in Sweden(1) <https://core.ac.uk/download/pdf/147424259.pdf>
- Gender-free education that respects Swedish individuals You are human ...!?? <http://sweden-style.com/2019/10/21/sweden-gender-free/>
- The ratio of female teachers is 39% in Japan, which is the lowest OECD survey https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG2502H_V20C14A6MM8000/
- Old-fashioned Japanese schools where women and young people cannot become principals <https://www.newsweekjapan.jp/amp/stories/world/2016/10/post-6072.php?page=1>
- Japanese teachers work the longest in the world, but less than half of them are in class <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2019/07/post-12554.php>
- Discrimination against women in medical college entrance exams https://asahi.gakujo.ne.jp/common_sense/morning_paper/detail/id=2584

References②

- The essence of the Tokyo Medical University women's deduction problem <https://www.businessinsider.jp/post-172691>
- Why is the medical school entrance examination fraudulent only at private universities? <https://dot.asahi.com/aera/2018103100014.html?page=2>
- Tokyo Medical University Why discrimination against women in entrance exams <https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/303228.html>
- Annual transition of female doctors <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000069214.pdf>

2 シナジータイム

⑤ 高校1年立命館コース

① ねらいと目標

「各教科や課外活動の際にも活かすことができる汎用的なスキルを身につけること。」を授業の目標として、実施している。今年度から実施しているのも、高校1年生と2年生でねらいは同じに設定している。

② 実施報告

基本的には高校1年生と2年生は実施内容は大きくは変わらない。しかしながら、生徒の実態や学校行事、他教科との兼ね合いのため、一部異なる部分がある。また、同じ内容であったとしても実施時期によっては対面で行っているものもあれば、オンラインで行っているものもある。以下に簡単に年間の授業実施報告と今後の授業計画を記す。

実施日	授業のねらい	授業の内容
5/7	今後の授業で学習する事柄とその必要性について理解する。	大学のアドミッションポリシーを調べ、今、自分が学習すべきことを考える。
5/14	発表をする姿勢・聞く姿勢を意識し、他者の意見に耳を傾ける。	自分が書いたレポートを元に、自己紹介を行う。テキストマイニングで記述を視覚化。
6/11	問題を理解することの大切さを認識し、そのためには具体的にどのように自問自答すればよいのかを知る。	「問われているものは何か」「与えられているものは何か」「条件は何か」の3つに注目して問題の分析を行う。授業の最後には、最近の学校での授業の問題に対して同様の分析を行う。
6/18	「もし~だったら（仮定する）」という思考法を身につける。	「ルールって本当に必要？」という問いに対して、「もしルールが無かったらどうなるか？」という流れで考える。
7/2	帰納的思考・演繹的思考の違い・特性について知る。	教師側から6つ程度の推論を提示し、それを”似た思考法”で分類する方式をとり、最後にその思考法に生徒自身で名前を付けることで、思考法の特徴を抽出した。
夏期講習中	「拡張・一般化」することで、問いが広がっていくことを知り、実際に問いを広げるスキルを身につける。 「算数・数学の自由研究」の取り組み方を知る。 (自由研究への応募および文化	九九表を題材として、問題を理解し、条件を変更することで新たな問題を設定する。 夏期休暇課題「算数・数学の自由研究」の取り組み方を学習する。

	祭での発表は1年生のみの実施)	
夏期講習中～2学期前半	異なる立場に立って議論を形成する力を身につける。 (2年生のみの実施)	ディベートをクラスごとに実施。1つの論題に対して、1,2時間目は賛成の立場で、3,4時間目は反対の立場で議論を形成した。
9/3	調べ学習と研究は異なることを知り、グループでまとめるためにお互いの意見を尊重しながら作業を進める意識を持つ。	個人で取り組んだ夏期休暇課題を元に、似たテーマで協働して取り組む。
文化行事まで	効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	発表資料を整える。
10/12	文化行事を振り返る。	準備・発表内容・発表方法の3観点に分けて振り返りを行う。その際、自己評価と他者評価の相違点に着目する。
10/26	学問的問いを立てることの重要性を知り、問いと学問的問いの違いを知る。	この授業では、問いを「単なる疑問」と定義している。一方、学問的問いを「①自分が興味を持てる／②調べてもすぐには答えがわからない／③追究することが1%でも世の中の役に立つ」問いと定義している。この定義に基づいて、普段の疑問を問いと学問的問いに分類する。
11/19	学問的問いを立てられるようになる。	疑問（問い）から発想を広げて、学問的問いを立てられるようにする。
12/3	学問的問いを立てられるようになる	疑問（問い）から発想を広げて、学問的問いを立てられるようにする。また、それを発表する。
1/7	効果的なプレゼン方法について学ぶ	効果的なプレゼン方法について、その事前準備・発表中に分けて考える。
1/21	学問的問いの種類によって探究活動の進め方および、まとめ方が異なることを知る。	「論証型（どうすれば良いか。以外の問い）」と「アイデア提案型（どうすれば良いか。形式の問い）」によって、探究活動の進め方および、まとめ方が異なることを学ぶ。
2月以降	1年間の学習を振り返り、次年度学習したい事柄について考える。	1年間のまとめとして、「次年度新しくくる先生にシナジータイムを説明しよう！」というテーマで自由形式のプレゼンを行う。



③ 工夫した点と成果があったと思われる点

「自由な発想や自分の意見をクラスの前で発表すること」に対して抵抗感を持っている生徒もいたため、全体の前で発表をする際にはその前段階として、ペアワークやグループワークを盛り込むようにした。これにより、活発な意見交換ができた。また、協働学習を基本としているため、GPS-Academicにおいても、「協働的思考力」が昨年度に比べて非常に高い水準になった。

進路HRや教科指導、学校行事などに関連させながら授業を組み立てたため、授業内だけでなく、他教科の学習の際にも活かされていると考える。実際、立命館大学の教授の講演会の内容にも、「大学では、自分で問いを立てることが重要である。」との内容があり、本授業との関係性を意識していたようである。

④ うまくいかなかった点と理由

扱う話題の分野にやや偏りがあった点。提示する具体例がやや数学・理科に偏りがあったように感じる。これは、授業者が理系であることに起因すると考えられる。今後は、分野の異なる複数の教員で授業を実施するなどすることで解決しようと思う。

綿密な年間の授業計画を生徒に示すことができないまま授業を実施してしまった。これは、本コースでシナジータイムを実施することが今年度初であったことに起因する。したがって、今年度中に新2年生と3年生の計画を練っておく必要がある。

議論するメンバーがある程度固定してしまった点。高校1年生で文化行事に向けて実施した内容以外は全てクラス単位で行った。これにより、シナジー（相乗効果）が少なくなってしまうことが反省点である。これは、クラス単位で実施したことに起因する。また、コロ

ナウウイルスの感染拡大防止のため、「自由に座席を決める」といったことが困難になってしまったことも一つの要因である。

⑤ 生徒の感想

・『「学問的問い」をたてる過程で、そのものの本質を理解したり、自分が理解していない点を明確にしたりすることができるということを学んだ。そこで私は、普段から各教科・生活において積極的に「問い」をたて、自分自身理解不足なところ、そもそもわかっていないところを明確にし、わからないところのすべてを理解しようと思った。進路を決める際にも「そこで何を学びたいのか」といった「問い」を自分の考えを引き出すためにたてていきたい。』

- ・『2年や3年のSDの授業で研究をするときに研究内容を決めるときに活かせる。』
- ・『勉強でも、ただ知識を身につけるだけでなく、ちょっとした問いを深めて調べて、より多くの知識や考え方を自分自身に身につけたいと思います。』
- ・『自分がこう！と思っても、他人から見れば違ったりしているので、第三者の声を聞くことも大切だなと思いました。』
- ・『自分について考える力、未来を見据える力、課題を発展させていく力』
- ・『今までの私は、問いを立てるのに時間がかかったり、問いをあまり理解せずに実験に取り組んでいました。だから、実験結果が中途半端になったり、よく失敗をしました。しかし、シナジータイムの授業を受けているうちに問いを立てる力が自然と身に付いて、スムーズに実験に取り組む事が出来るようになりました。また、新たな問題点や疑問点を見つける事も増えたので、今後はもっと色々な事を追求したいです。』

3 奈良県立大学との共同プログラム

1. ねらいと目標

奈良県の問題点と、世界共通の課題である SDGs を比較することにより関連項目を見つけける。その上で、ふるさと奈良が抱える問題を解決するための問いを立て調査探究し、自分たちで出来ることは何なのか、考える。幅広く興味関心を持ち、グループで協働する力・疑問を探究する力・自発的に動く力をつける。

2. 実施報告

<授業スケジュール>

1 学期	<ul style="list-style-type: none">・奈良の地域課題を考える。・SDGs とは何か、調査する。・奈良県の地域課題と、世界の課題に共通項がないかどうか検討する。 →ジェンダー問題にたどり着く。 「奈良県の女性就業率の低さ」をクラス全体の探究テーマとして、各班ごとに問いを立てる。・「ジェンダーと労働」というテーマで、奈良県立大学 松岡准教授による講義を受講する。・夏休み中に、身近な人への1次調査を実施する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none">・夏休み中に実施した調査をもとに、グループごとに探究テーマを考える。・探究テーマを決定し、問いや仮説を考える。・ここまでの取り組み内容を、文化祭にて発表する。・調査先を選定する。企画書やアンケート等の作り方を学び、様々な手法で調査を開始する。・調査結果をまとめ、最終発表に向け準備を行う。アブストラクトも作成する。・奈良県立大学 松岡准教授を招き、最終発表会を実施する。クラス代表を1

	チーム選出する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県出身で、実際に社会の第一線で活躍している女性の講演会を聞く。 (株式会社アキュラホーム 西口様) ・ Glocal High School Meetings 2021 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 (代表 1 チームが参加。日本語発表部門にて銀賞受賞。) ・ アクションプランを考え、探究の締めくくりを行う。

<資料>

① グループ活動の様子



②各班の問い・探究テーマ一覧

1班	奈良県の女性就業率が低い原因を探ろう！
2班	魅力あふれる職場の条件
3班	全国ワースト!?奈良県女性の県内就業率どうすれば上がる…？
4班	女性就業率と保育施設の利用時間は関連があるのか
5班	奈良県内の女性が働く場が少ないのはなぜなのか？
6班	性別役割分業
7班	より子育てしやすい社会をつくるには
8班	奈良県と滋賀県を対比してみて ～女性の無業者に対する行政の取り組みとは～
9班	奈良県の女性の就業率の低さはどの世代に原因があるのだろうか
10班	ファミリーサポートを広めるためには？

③ 調査に関する資料

～アンケートご協力のお願い～

今回、私達は「奈良県の保育所数が少ないということは女性の就業率が低いことに関係しているのか」ということをテーマに調査しています。そこで、高等部の特設2類の保護者と中等部の特設コースの保護者を対象にアンケート調査を行うこととなりました。この結果を資料として最終発表の準備をしていく予定です。締め切りは11月17日（火）までです。お忙しいとは思いますが、ご協力よろしくおねがいします。

- 保護者の年齢を選択してください。
A 30代 B 40代 C 50代
- お様が小学校に入学するまでの間、どんな職種についていましたか。
A 社員 B 契約社員 C 派遣 D パート E 仕事をしていない
D その他（ ）
- お様が小学校に入学するまでの間、どこに預けましたか。
A 保育園 B 幼稚園 C 認可外保育施設
D 親族 E その他（ ）
- A以外を選択した人のみ回答してください。保育園に預けなかったのはどんなことが原因ですか。
A 待機児童だったから B 条件に合う保育園がなかったから
C 希望の保育園が通らず、保育園に預けることを断念したから
D 仕事をしていたから
E その他（ ）
- 奈良県にどのような制度があると女性がより働きやすい環境になると思えますか。箇条書きでも構いません。

FAX送信状

日本労働組合総連合会奈良県連合会
ご担当者様

育英西高等学校
1年5組
担当：
TEL：07044203444
FAX：0742（47）2689

送信日：2020/11/25
送付枚数：2枚

件名：探究活動における調査協力のお願い

先日、ご連絡させていただきました育英西高等学校1年の と申します。

現在、私たちは学校の探求活動で『奈良県の女性就業率の低さ』について調査を行っております。

私たちは今回ハローワークさんにお話を伺い「現状の女性就業率が低い」という事を知り私たちは、「女性の就職を動機していないのは企業なのではないか」という仮説を立てました。これらを裏付ける情報の提供をお願いしたいです。

つきましては、貴会においての見解で構いませんので以下の質問にお答えいただけますでしょうか。貴会からの回答結果をもとに、クラスでの調査発表にて参考にさせていただきます。

【質問】
①女性雇用は、過去5年間で増えていますか。またコロナの影響ですか？他の要因もありましたら教えてください。
②コロナの影響で、奈良県の企業数は減少傾向がみられますか。他の要因がありましたら教えてください。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、11月27日（金）までに上記のFAXにてご回答いただけましたら幸いです。どうぞよろしくおねがいいたします。

※もしご不明な点がございましたら上記の電話に16時以降ご連絡をいただけたらと存じます。もし、繋がらない場合は上記のFAXにてご連絡ください。

④ Glocal High School Meetings 2021 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会



<代表チームのスライド>

奈良県と滋賀県を対比してみる

～女性の無業者に対する行政の取り組みとは～

育英西高等学校1年
メンバー: 岡本 中村 能登 森本



★今までの取り組み

授業で奈良県の就業率が低い事がわかる

原因

「近くに自分にあう職場がない」「子供を預ける場所がない」
子育てのケアを積極的にしてくれる企業が少ないのではないかと

他県の企業数や人口に着目して調査!

近畿地方の人口と企業数



参考文献: 経済産業省 中小企業庁
都道府県・大都市別企業数、常用雇用者、従業者数(民営、非一次産業、2016年)
https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/chousa/chu_kigyocnt/181130kigyoyou2.pdf

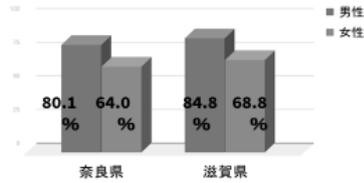
滋賀県と人口・企業数が類似している!

就業率にどれくらい差があるのだろうか?

奈良県と滋賀県の女性就業率を調べた!

奈良県と滋賀県の有業率

男女別有業率(生産年齢人口)



グラフから
奈良県の方が
無業率が高い！



両県の行政の無業者に対する取り組みの違いがあるのか？

参考文献：総務省統計局 平成30年7月13日
平成29年就業構造基本調査 <https://www.stat.go.jp/data/shugyou/2017/pdf/kqaiyou.pdf>

問い

人口・企業数が類似している奈良県と滋賀県では女性の無業者に対する行政の取り組みの違いがあるのではないのだろうか？



県庁に質問したこと

- 1.把握しているだけで現在、どれぐらいの無業者がいるのか？
- 2.無業者などに対する取り組みの成果は？実績は？
- 3.無業者にセミナーなどを行っているのか？
- 4.働く意思を持たない人たちにどのような対策を取っているのか？
- 5.無業者の人たちにどれぐらい予算を積んでいるのか？

- 1.把握しているだけで現在、どれぐらいの無業者がいるのか？

奈良県

25～44歳の女性人口 約151000人
無業率 約32.2% 約49000人



滋賀県

25～44歳の女性人口 約171000人
無業率 約24.5% 約42000人
無業者のうち6割が就職希望

- 2.無業者などに行っている取組の成果・実績は？

奈良県

なら女性活躍推進倶楽部

- ・企業の魅力発信/発信 県民だより奈良3月号で特集記事を掲載
- ・企業と女性が出会う場の提供 女性のための再就職応援フェスタ
会場 イオンモール大和郡山
参加企業17社 参加者53人
- ・企業マッチング&就活フェア 参加者143人
- ・企業がブースを設置して募集 10月 2名就職

- 2.無業者などに行っている取組の成果・実績は？

滋賀県

滋賀女性活躍推進課

- ・滋賀マザーズジョブステーション
相談件数 6019件 就職者数 985人 (令和元年度)
- ・保活直前！お仕事探し応援ウィークの開催
参加企業25社 応募人数134人 採用者数36人
- ・女性のわくわく応援事業

- 3.無業者にセミナーなどをおこなっているのか？

奈良県

- ・ハローワークと連携
- ・企業・なら女性活躍推進倶楽部
- ・再就職準備相談窓口
- ・女性センター

滋賀県

- ・滋賀マザーズジョブステーションセミナー
- ・動画を配信



- 4.働く意志を持っていない人たちにどのような取り組みを行っているのか？

奈良県

- ・引きこもり相談窓口



滋賀県

- ・無理やり働かせる対策は行っていない
- ・テレビ番組を作成



まとめ

奈良県と滋賀県の政策の違いは

"ほとんどない"

ということに気付いた！

なので、、、

両県の政策以外の問題に着目して調査！



奈良県の女性就業率の低さの他の原因とは？

『通勤距離が遠い？』

全国的に奈良県の住みやすさはどうなっているのか？

なんと...!

奈良県

北葛城郡王寺町

が2020年全国住みこち（自治体）
ランキングで1位に!!

ちなみに、県の方では奈良県は全国8位でした\(^o^)/

全国住みやすさ・通勤しやすさランキング!!

〈交通利便性〉

1位	東京都	11位	奈良県
2位	大阪府	12位	沖縄県
3位	福岡県	13位	北海道
4位	兵庫県	14位	滋賀県
5位	愛知県		

参考文献

大東建託株式会社 2020年11月25日
「いい部屋ネット
街の住みこちランキング2020〈全国版〉」
「いい部屋ネット
住みたい街ランキング2020〈全国版〉」
https://www.kentaku.co.jp/mirai/ken/market/pdf/research/sumicoco/relasse_sumicoco2020_all_20201125.pdf

住みやすさ・通勤しやすさのランキングから

奈良県の方が 通勤しやすさのランキングが高い!



考察

奈良県

1. 交通利便性が高い
↓
大都市・大阪府&他県
働きに行く人が多い!
- 2.大阪府（大都市）は奈良県に比べ
時給が高い!
- 3.大阪府（大都市）は奈良県に比べ
企業数も多い!
⇒自分に合う職業が見つかりやすい!

滋賀県

1. 交通利便性が高い
↓ but!!
奈良県よりは低い!
- 2.大阪府には及ばないが奈良県より
も時給が高い!
→滋賀県内で働く人が多い?

結論

～奈良県と滋賀県を比較してみて～

両県の政策に大きな違いは見られない
but!! 奈良県のほうが利便性が高い

↓
女性就業率の差が出ている



これから私たちは...

- ★プレゼンを様々な場所で行う
↓
企業に、託児所を設置するよう呼びかける!
- ★奈良県庁などと協力、
企業の誘致を行う&就職先を増やす!

そのために...

奈良県の魅力 & 女性が働くことのメリットを伝達!

⑤ 株式会社アキュラホーム 西口様講演会

フィードバックシート
～株式会社アキュラホーム 西口さんの講演を聞いて～

Q1. 講演を聞いて、学んだこと・考えたこと・興味を持ったことは？

西口さんのお話を聞いて、
1つのことに一生懸命取り組むのが、どんな新しい道が開けてくる
というのを学びました。
何かの解決や誰かのために、自分で「開発するもの」
もつくろうかなと思いました。

Q2. 学んだことを今後どのように活かしていこうと思いますか？

やりかたややり方をおくが選ぶときに、一歩を踏みだす勇気が本当に
大事だなと思いました。
だから、自分がやりたいことや、興味のあることにたくさん挑戦して、
高校生のうちからいろんな経験をしておきたいです。

Q3. 女性の社会進出について自分の考えをまとめてみましょう。

私はこれから女性が社会で活躍できる場が増えていく
はずだと思います。出産、育児などが原因で仕事ができない女性
がいるのは、もったいないと思います。
他人の経験をやる女性（だからこそわかること）があることもたくさん
あると思います。

Q4. あなたは将来、どのような女性になりたいですか？どのような女性を目指したいですか？

将来は日本だけでなく、世界の人と関わりたいです。
そんな中で、自分のやりたいことをおつげたとときに一生懸命努力
できる女性になりたいです。そしてその姿をお互いに周りの人に助けられる、
応援してもらえる人になりたいです。

Q5. 西口さんへのメッセージ・さらに聞きたいことなど

女性として社会で活躍されている西口さんのお話を実際に聞いて、
単純にかっこいいと思いました！
自分が、やりたいこと、やりたいこと、という思いを、実際に、
行動につなげ、成し遂げることができる力は、私にはほんの一部分で
すぎたかなと思います。
今回学んだことは、私が何かを悩んだり迷ったりしたときに、手と
背中を押してくれると思います。
ありがとうございました。



3. 工夫した点と成果があったと思われる点

- ①最初に SDGs を生徒たちに調べさせ、世界規模での課題を認識させた上で、奈良県の地域課題に落とし込むという段階を追って作業をしたことにより、その後の探究調査の際、「奈良県と世界」や、「奈良県と他府県」など広い視野で問題を探究したグループが非常に多かった。奈良県という1つの地域のみには捉われないことなく、自然と幅広い視野で1つの問いを検証することが出来ており、目標達成に大きく近づいたと考える。
- ② 教員とすべてのグループが進捗報告を行うスプレッドシートを作成し使用したことにより、調査探究の時間が少ない中であっても、時間を無駄にすることなく、タイムリー

な情報交換や生徒たちへのアドバイス、進捗管理を行うことができた。無駄なく進めることができた分、生徒たち自身が調査結果を分析し、考える時間を沢山取ることができたと考える。

③ 「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 2021」 日本語発表部門銀賞受賞。

<資料>進捗管理スプレッドシート

8週		★ドキュメントURL:					
月	日	曜日	内容	生徒活動	生徒備考	先生へ(直接アポが優先ですが、余念なく先生コメント)	
11	3	火	【例】ニーズ調査報告	アドバイザーに調査報告結果を伝える	資料準備 ★さん アドバイザーへのアポ ☆さん	11月7日(土) 14:00~お願いします	
10	28	水	なんの活動をしていくか	調査をするかしないか	・フィールドワーク調査をする ・各自でNPOとNGOの活動を調べる		
11	2	月	活動方法について	活動方法の細分化、調べるべきものを参考文献から引用してくる。		先生・休んでいた子へ これ見るとわかりやすいと思うよ。11/2 ST 計画表の具体化-Google ドキュメント	
	9	月	フィールド調査の質問内容について	電話先・日程を決めた。	フィールド調査の計画表載せときます。フィールド調査 電話用原稿用紙-Google ドキュメント	今週の木曜日に日程調整のために一度電話をかけます。そのときに質問できれば幸いです。	
11	11	水	電話打ち合わせ	何で電話するかまだ決まっていけど結局、公衆電話で電話するんですか?それとも自費?今のご自分たちのスマホで電話する。	電話のアポのやつちょっと変えました。見といてください。	ok! 勝田	
12	木	電話でアポ取り	奈良県⇔メールで質問内容を送り、県庁側がどう対応するか検討し、11月16日(月)再度電話する。 滋賀県⇔グダグダのままよりあえず11月16日(月)に再度電話する。 NPO法人「働きたい!ワカモノ奈良県庁」に問い合わせたところメールアドレスが少し間違っていて送れなかった事がわかった。なので再度メールアドレスを確認して先程県庁の女性推進課の方に質問内容を書いたメールを送信した。	送信できてた!			
13	金	電話でメールが送信できているか確認する。	滋賀県庁からお電話があり女性推進課に折り返してお電話しました。メールで質問を送りました月曜に送信できているか確認します(勝田)			ok! 勝田	
16	月	午前・ST 午後・電話質問	午前・STでこれまでの振り返りをした。自分たちの課題について再度考えこれからの計画を立てることになった。 午後・奈良県庁に電話質問をする。メールが勝手にできていたので、16:20分頃に電話す	直前でドタキャン!ってことで(再度電話)		落ち着きなさい(笑) 勝田	
17	火	もう一度電話質問	無事電話できました。県庁の方(ツカモトさん)にアドバイスとかをたくさんもらったのでもしかしたら今更だけど問い合わせを修正しようとしてもいいかも!滋賀県庁の方からもお返事いただきました!	明日なるべく全員で集まって今までの資料整理とできればスライドづくりまで行きたい。			
18	水	LHRで質問したことの内容説明とこれからの相談をする。	スライドと原稿の作成、質問の返答の確認→再び聞かなければいけないリストの作成(奈良県庁)	スライド発表・後編分担任-Google ドキュメント奈良県庁への質問は今後メールでという方針面表の具体化が進化したので中ちゃんと見ていてね。		私もアクセスできるように変更してください! 勝田	
19	木	奈良県庁にメール。	質問メールを送ったけど見てくれているのか...?				
12	11	金	松岡先生からのフィードバック	人口・企業数の類似している滋賀県と奈良県を比較するという観点が非常に論理的で、なおかつ、両県の県庁に聞き取り調査ができており、とても素晴らしいです。ただ、「ニート」という言葉を使うには、その定義を明確にしなければなりません。単に「無業者」という意味で使われているようですが、これには「専業主婦」は含まれるのでしょうか。一般的に、専業主婦はニートからは除外されるはずです。今回は、「ジェンダー」という大きなテーマがあるので、ニートという言葉を使うよりも、「専業主婦を含む女性無業者」を対象にすべきではないでしょうか。また、両県の政策にはあまり違いがないとしたら、なぜ就業率に差が出るのかを、地理的な特徴など、政策以外にも目を向けて調べてみる必要があるでしょう。			
14	月	スライド作り	交通の利便性なども調べていく。	月曜日までに王寺町役場にアポを取る。	https://docs.google.com/document/d/12p3018R3177RAUDcS38vsAB4NKNNV1tJUIUDpdshmwedit	↑新しい予定表ですー。	
17	木	森本:王寺町にアポを取る。	アポ取ったら奈良県労働局に聞いたほうが早いって言われました。	さあどうしよう。			
19	土	話し合い	これからどうする?				
24	木	完成	撮影	がんばろう!ー失敗したね。ZOOMめっちゃむずいな笑)			
29	火	ZOOMで再度撮影!	どうやるかわからんけど頑張る!			1/29(金) コンソーシアム発表 1/30(土) オンライン探究発表	

4. うまくいかなかった点と理由

調査探究に関しては、身近な人から企業・組合まで多岐にわたり調査をし、非常に丁寧に進めることができたが、アクションを起こすところまで至らなかったことが反省点としてあげられる。今回の探究テーマ「ジェンダー問題」のように、高校生がアクションを起こすには少し難しいテーマであっても、何らかの形で成果を残せるよう、今後は戦略を練っていきたい。

5. 生徒の感想

- ・「ジェンダー」や「SDGs」という言葉を知ることから始まり、実際に奈良県の女性就業率の低さについて調べてみると、予想よりはるかに低い現状や、他府県に勤務されている人が多いといった現状に直面した。
- ・チームで1年間にわたり取り組んだことにより、友達の意外な一面や良さに気づくことができた。
- ・自分たちで企画書を作り、様々な企業や保護者対象に調査を行っていくことはとても大変であったが、回答が来た時は非常に嬉しかった。
- ・奈良県立大学 松岡准教授に発表を何度か見に来てもらい、アドバイスも毎回もらえたので次の段階に進むときにとても参考になった。最終発表の際には、高校生のレベルを超えていると褒めてもらい、嬉しかった。
- ・実際に社会の一線で活躍されている西口さんの講演会を聞いて、自分の理想の将来像を考えた。西口さんのように、輝いている人になりたいと思った。そのために今勉強を始め、いろいろなことに挑戦することが大切なんだと思った。

6. 生徒の変容

取り組み当初は、生徒たちの中に「やらされている」という感覚がどこか残っていたものの、テーマ・問いが決まり調査探究に入るところには、生徒たち自身が様々なことに疑問を抱き、「このようなことを調査したいので、〇〇に問い合わせする許可をください」や、「保護者対象のアンケートを取りたいので企画書の作り方を早く教えてください」など自ら教員に言ってくるようになった。グループで協働しながら各々自発的に取り組み、疑問は徹底的に問う姿勢が身についたと考える。

4 English Plus Department

①ねらいと目標

通常の英語の学習に加えてより英語を使うことに自信を持たせ、様々なテーマに対して自己の意見・考えを発信できる力を育成することを目的としている。

②実施報告

[高校1年生]

1 学期	自己紹介、パートナーへのインタビュー 「ゴールデンウィークに何をしたか」についてのレポート リンショープン大学生による授業（講義、ゲーム、ディスカッションなど）
2 学期	ミニテスト・プレゼンテーション・インタビューテスト 「自分の家族や友人について」 「将来してみたいことについて」
3 学期	ミニテスト「誰かへのアドバイス」 短いインタビューテスト

[高校2年生]

1 学期	自己紹介、パートナーへのインタビュー 「ゴールデンウィークに何をしたか」についてのレポート リンショープン大学生による授業（講義、ゲーム、ディスカッションなど）
2 学期	ミニテスト・プレゼンテーション・インタビューテスト 「日本と海外においてどこに旅行したいか」 「その旅行でできること、おすすめしたいこと」
3 学期	ミニテスト「四季においてどんなことをするのが好きか」 短いインタビューテスト

[高校3年生]

1 学期	「ゴールデンウィークの良い点と悪い点」についてのレポート 日本と海外の祝日、祭日について 日本と海外の行事について
2 学期	ミニテスト・プレゼンテーション・インタビューテスト 「日本と海外の文化について」

(ミニテスト)

単語の意味、文法の正確さ、使い方をチェックするタブレットで行うオンラインのテスト

(プレゼンテーション)

Plays / Mini Presentation / Debate のうちどれか一つ。

Plays は役になりきって英語で演じて会話する発表 (ペアかグループで)

Mini Presentation は短いプレゼンテーション (個人かペアかグループで)

Debate は生徒同士で質問する側と答える側の両方を交代するもの (ペアかグループで)

(インタビューテスト)

それまでの授業での取り組みの集大成となるもので、今まで習ったこと、練習してきた表現を使って答えるものであり、先生との1対1の質疑応答形式のテスト。プレゼンテーション後にそれに関する質問をその場で答える形式。

[プレゼンテーションの評価基準]

AUDIENCE (Sense of audience and purpose in speaking)

Points to be checked	Posture, gesture, voice, stage presence
1 - 2	Limited
3 - 4	Some
5 - 6	Considerable
7 - 8	Excellent

COMMUNICATION (Communicates in an easy to understand way)

Points to be checked	Vocabulary, grammar structures and conventions, pronunciation and intonation
1 - 2	Has difficulties to use vocabulary Many errors in intonation and pronunciation, affecting fluency and making understanding difficult
3 - 4	Use of vocabulary, with some inappropriate choices Some errors in intonation and pronunciation, affecting fluency and making understanding little difficult
5 - 6	Good use of vocabulary, generally accurate Good fluency with occasional errors in intonation, but they do not interfere
7 - 8	Effectively and accurately uses vocabulary Excellent intonation and fluency, making communication easy. Minor errors do not interfere

ORGANIZATION (Creates a good and structured presentation)

Points to be checked	Organization of ideas, presentation media
1 - 2	Limited information
3 - 4	Some information and ideas, not so clear
5 - 6	Good but missing some parts
7 - 8	Effectively, accurately and clearly. All points are covered

[インタビューテストの評価基準]

RESPONSE (Answers the questions appropriately)

Points to be checked	Use of grammar, choice of words, use of expressions, comprehension
1 - 2	Limited use of English. Responses are often inappropriate Can't answer or communicate
3 - 4	Simple answers. Some answers may be inappropriate or constantly asks to repeat the question Some mistakes in grammar and vocabulary. Communication is a little difficult
5 - 6	Answers appropriately Few grammar and vocabulary mistakes. Communicates well
7 - 8	Answers with details and with long sentences Small grammar and vocabulary mistakes but no problems in communication

INTERACTION (Engage in rehearsed and unrehearsed conversations)

(Share ideas on personal and global topics)

Points to be checked	Interaction, openness to communication
1 - 2	Engages minimally and doesn't share any ideas
3 - 4	Engages a little and share some ideas
5 - 6	Considerably engages and share many ideas
7 - 8	Confidently engages and share a lot of informative and organized ideas

EXPRESSION (Express ideas and feelings)

(Communicate information in simple and complex ways)

Points to be checked	Expression of feelings, ideas and opinions
1 - 2	Few ideas and feelings and communicates minimal information
3 - 4	Some ideas and feelings and communicates some information. Ideas are not always relevant or detailed
5 - 6	Expresses and communicates information well. Ideas make good sense and have details
7 - 8	Effectively communicates using a wide range of ideas and feelings Ideas are developed, and opinions are supported by examples

③工夫した点と成果があったと思われる点

- ・自分からペアを作れない生徒もいるため、カードでペアを決めスムーズに授業を開始できるようにした。
- ・授業時に課題内容など聞き逃した場合や、不明な点がある場合は聞きに来られるようにしたこと。
- ・最初は紙面・スクリーン共に英会話のフレーズを見えるようにして会話の練習をしながら、徐々にプリントやスクリーンを見ずにいき、最後は何も見ないで2分間のスピーチができるように導いていった。
- ・オンラインでのミニテストは同じ問題ではあるが、順番をシャッフルして隣の席の解答が見えても大丈夫なようにしていた。
- ・内向的な性格等の理由でなかなかうまく発表ができない生徒には、無理をさせずに、特別課題を与え、個別にインタビューテストを行い、フォローした。
- ・英語能力ではなく努力をどのくらいしているかという点を重視して評価した。

④うまくいかなかった点と理由

- ・欠席した生徒の分のプリント配布がきちんとされていないことが度々あったので、google classroom上にプリントデータを掲載し、いつでもダウンロードできるようにしていたが、プリンターを持っていないためか、授業までにプリントアウトが徹底できていないことがあった。

⑤生徒の感想

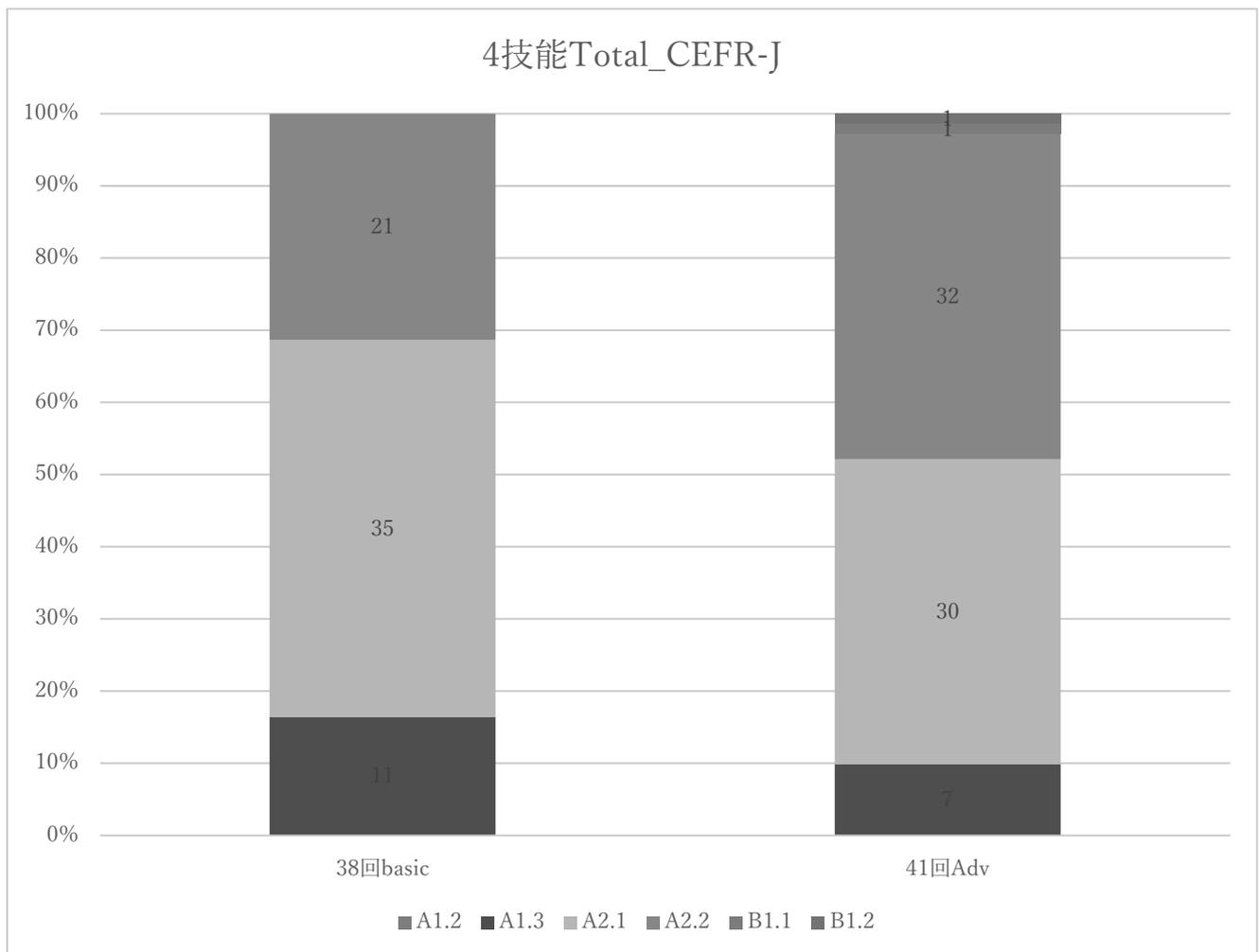
- ・以前より活発に話し、ペアで自由に英語を表現する機会が持ててうれしい。
- ・簡単な文法の復習ができ、英会話に対するハードルが下がった。
- ・時々聞き取れないこともあるが、外国人同士のリアルな会話が聞ける。
- ・カードでペアを決めるので、あまり普段話さない友人とも話す機会が持てた。

⑥English Plus 導入前と導入後の GTEC の結果

2020 年度高校 2 年生の English Plus 導入前(昨年度)と導入後(今年度)の GTEC 結果を比較した。

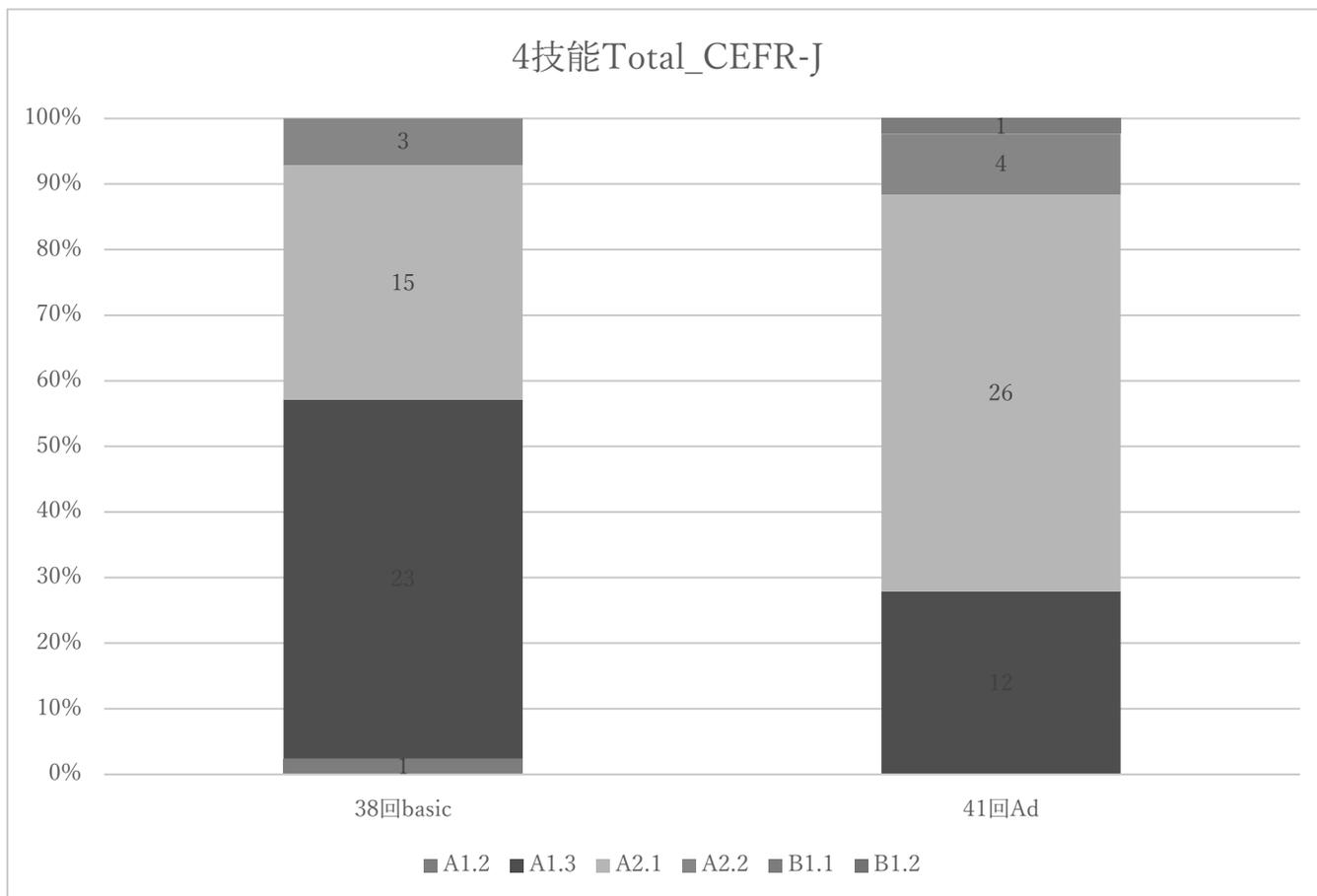
[立命館コース]

B1 層が現れ、A1.2 層が無くなり、全体的に伸びている。A2.2 の層が約 1.5 倍に増加し、A1.3 以下の層も減少した。



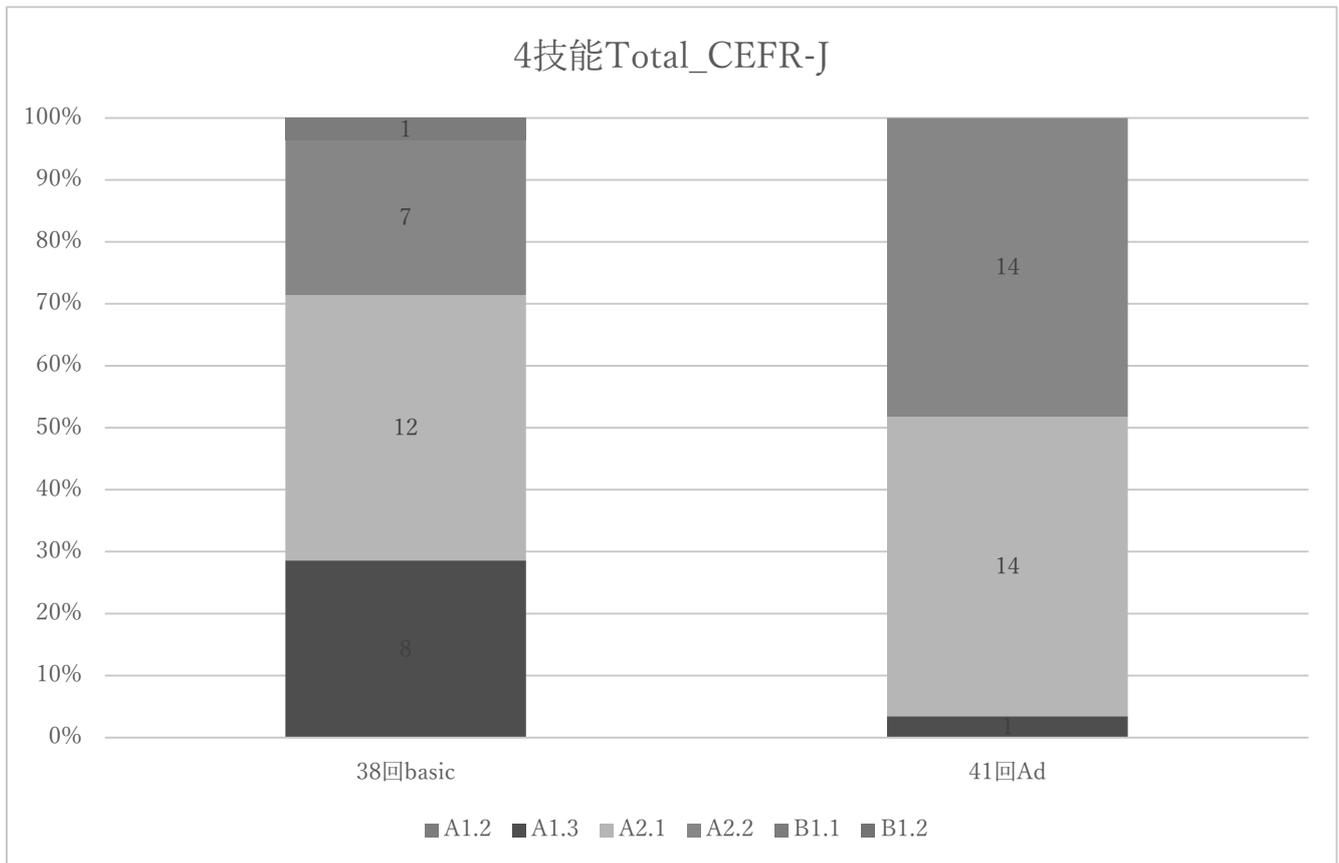
[特設 I 類コース]

B1層が現れ、A1.2層が無くなり、全体的に伸びている。特に A2.1 の層が約 1.7 倍に増加し、A1.3 の層が半減した。



[特設Ⅱ類コース]

A2.2層が倍増し、A1以下の層がほぼ無くなり、全体的に伸びている。ほとんどの生徒がA2以上に伸びている。



全コースともに CEFR 上位層が増加し、下位層が減少している。English Plus 導入後に、4技能全体が伸びているため、効果があったと考えられる。

Ⅱ 内的動機づけ

1 輝く女性の講演会

【取り組み概要】

生徒のキャリアデザインに繋げるとともに、社会で活躍する女性の経験や考え方に触れ、品格や知性を磨くとともに、社会で活躍するための様々な力を養うことを目的とした講演会である。今年度は、3学期に1回のみで開催となった。対象は中学1年から高校2年の生徒である。70分の講演を聴いた後、講演を聴いて気づいたことや考えたことを振り返る。

【取り組み詳細】

実施日 2月22日

講師 一般社団法人 Waffle Co-Founder / CEO 田中 沙弥果 氏

テーマ 「IT業界をカラフルに！」

2019年にIT分野のジェンダーギャップを埋めることを目的に一般社団法人 Waffle を設立。女子中高生向け IT 教育及び政策提言を発信してきた。「これからの IT をカラフルにする女の子たちへ！」をコンセプトに、女子中高生向けのウェブサイト開発のスキルとプログラミング学習コミュニティを提供するオンライン・プログラムを提供中。昨年夏、本校高校3年生の生徒の中にもこのプログラムに参加する者がおり、情報系学部の大学への進学、将来 IT 業界へ進むことを決める一助となった。

今回の講演は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの開催とし、各ホームルーム教室でスクリーンに投影しての視聴となった。また、特設コースⅡ類の高校1年、高校2年の生徒たちは、グローバル事業の中でジェンダー問題に取り組んでいるということもあり、大変身近に感じる内容であったはずだ。

田中さんからは、IT分野のジェンダーギャップは中高生の頃から始まっていて、非常に狭い領域の選択肢が進路選択に多大な影響を与えている可能性がある。また、今の時代、どの分野でも IT が関わっていて、そこには女性の力が必要で、多様なチームが必要だ、だからこそ、「好きなことと IT を掛け合わせた仕事をしてみませんか？皆さんの視点で IT を掛け合わせて世の中を良くしてほしいです」とお話いただいた。生徒たちは講演後に、どうやら IT の仕事につけますか？何を勉強すべきですか？など積極的に質問し、田中さんは自身の経験を元に丁寧に答えてくださった。最後に田中さんは、教員に対し「新しいことを取り入れてほしい！」と、生徒に対し「一緒に社会を変えていこうね！」とエールを送った。

また、講演後に田中さんに感想等を伺ったところ、「講演活動を中心とした事業展開は Sustainable ではないと思ってあまりやってなかったのですが、たった2時間で“ITが自分の人生で交わらないと思っていた”から将来の選択肢に入れることできるんだなと学びました」とコメントをいただいた。

【生徒の感想から抜粋】

・高校1年生

私は数学や物理が本当にできなくて、The 文系のような女子なのですが、今回の講演を聞いて IT において文系・理系はあまり気にしなくてもよいのではないかと思います。今まで

「私は文系だ」ということを意識しながら生きてきたので、IT や理系のことを全く意識していなかったのですが、IT のことを調べてみようと思いました。ファッションや育児、農業や美容など私の思っているよりもたくさんの分野に IT が関わっていて、まだまだ進化し続ける分野である IT に少し興味がわいてきました。また、留学中の田中さんの話を聞いて、私は留学に興味があるので、勉強してから留学しないといけないと思いました。田中さんはスタバの話の時に、日本でもできたことだと話しておられましたが、私にとっては、スタバの注文という 1 つのことでも極めようとする田中さんの姿勢がカッコいいと思いました。

IT の分野に進んでも進まなくても、新しい分野や様々な分野に目を向け、たくさんの人に幸せになってもらうにはどんなことをすればいいのか、どんな常識を変えていこうか、今の生活のどこに満足してなくてどこを変えていけば住みやすい社会を作っていけるのか考えながら生きていきたいと思います。また、大人の一声が与える影響が大きいと聞いて、私は周りにいい影響を与えられる大人になりたいと思いました。

・高校 2 年生

私は女性の中でも志望者が少ない工学部を目指しています。特に、男性が多いイメージのある建築学部を志望していて、IT 分野ではありませんが、将来したいことに今日聞いたお話のように IT を取り入れていくのは面白そうだと思います。しかし、女性が不利な立場にあるところがたくさんある、女性の存在が抜け落ちているデータがある、女性への対策が疎かになっているなど今の社会を目の当たりにすると厳しいところもたくさんあると知りました。これらから私は、女性の活躍を広げるために女性の私だからこそできることがあるのではないかと思います。また、女性目線の価値観や意見を持っているからこそ女性が少ない理系分野や日本社会、世界を変えられる人になって活躍したいと強く思いました。

今の社会でも色々な IT 技術が用いられているのを見て、これからの社会にはもっとコンピュータを超える人間の創造力が必要で、そういった面では IT の視点は重要になってくると思いました。したがって、創造することが得意な私は、それを生かして新しい価値観や世界を作りたいと思いました。将来就く職業も今在るものとは全然違ってくるかもしれません。建築分野でも、住みやすい家の図面を過去のデータから分析する AI が出るかもしれませんが、私は、過去のデータにはない新しいものを創りたいと思っています。今日の講話で IT を取り入れる考え方にとても興味が湧きました。

【成果と課題】

実施の機会が限られていたこともあり、今年度は一回のみの実施となった。オンライン開催と言えど、講師の方の話の熱量は伝わってくるものであり、生徒たちの心を動かすことになったと考える。探究学習を進める中で、社会の課題を発見したり、課題の解決方法を考えたりすることはよくあり、子どもたちはそれを経験してきた。次は実際に考えたことを行動に移させたい。田中さんからバトンを渡されたと感じ、勇気ある一歩を踏み出す生徒が多いことを期待する。



なぜ女子中高生に対して活動をするのか？
→テック領域のジェンダーギャップは中高生(皆さんの年齢)の頃から始まる

The Problem

Tech jobs are among the fastest growing in the country, yet girls are being left behind. While interest in computer science ebbs over time, the biggest drop off happens between the ages of 13-17.

66%
13-17 YEAR OLD GIRLS

32%
13-17 YEAR OLD GIRLS

41%
COLLEGE FRESHMAN

コンピューターサイエンスに興味がある女性は13-17歳の期間に32%へ下がる

※参照記事: "The gendergap in computing is getting worse". Girls Who Code. <https://girlswhocode.com/about-us/>. (参照2017-10-3)

Waffle

自分の好きなこと×ITを掛け合わせた仕事どない？

↓

皆さんの視点でITを掛け合わせて世の中よくしてほしい

Waffle



2 お弁当総選挙

1 ねらいと目標

2014年より、高校1年生の家庭基礎の授業の中で、生徒の主体的な学びをすすめるため「人のため」をテーマにお弁当製作を行い、最終的に学校の食堂で生徒の考案した弁当を販売するという取り組みを行っている。生徒たちは、普段の食事作りを家族に任せている場合が多く、実生活の中で自分自身が食事作りを行う経験に乏しい。そこで、食事作りの計画から準備、実習までを全て生徒自身で行うことで、食について深く考え実生活へつなげることを期待している。また、考案したお弁当は学校の食堂で販売されることで、食べる人のことを考え責任をもって食事を考えることにつながる。

【目標】

- ・食事摂取基準にそった栄養バランスを取り入れ、一食分の食事を考えることができる
- ・「人のため」を考え、社会に貢献できる生徒を育成する
- ・商品化することを目標におき、自分の作品に責任をもって製作する
- ・献立計画から発表、商品化まで生徒が主体的に活動し、チームで協働して学びを深める

2 実施報告

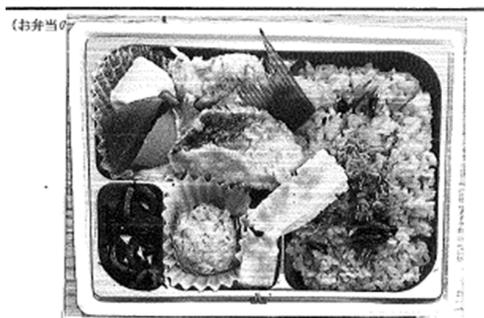
時期	授業時間数	内容
2020年7・8月		【夏休み課題】弁当の市場調査をする
10月	4時間	食事と健康の関わり、栄養素の働き、献立の計画
11月	4時間	お弁当総選挙①：献立計画
	2時間	お弁当総選挙②：調理実習
11・12月	2時間	お弁当総選挙③：発表準備
	2時間	お弁当総選挙④：校内発表会
12/19～ 2021年1/5		インターネット投票（本校ホームページにて）
1/7		代表4チームを決定
2・3月		商品化に向けて、村井食品と打ち合わせ
4月～		本校食堂にて商品化されたお弁当の販売開始

○詳細

【夏休み課題】「市場に販売されているお弁当を調べよう」

市販されているお弁当を、消費者の目線で分析しまとめるという課題に取り組んだ。市販されているお弁当にはどんな工夫がされているのか、どんな人が好んで購入するのかなどを調査し、そのお弁当を女子高生が好むようなお弁当にするためにどのような工夫ができるかということも考えた。

[夏休みの課題]



○お弁当名: 640k山勝2倍弁当 ○値段(税込): 929 円

○購入店舗: 高の原イオン

○購入した時間帯: 夕方4時ごろ

○お弁当の顧客
性別: 女性 男性
年齢層: 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

○お弁当としての工夫はどんなことをしているか

塩分と糖質の量のバランスが気になる。健康に良いものを提供したいと考えている。

○メニュー内容

【主食】(米・めん類・パスタなど)	※主食が米の割合のみ記入 <input type="checkbox"/> 白米 <input checked="" type="checkbox"/> 混ぜご飯 <input type="checkbox"/> 炊き込みご飯 <input type="checkbox"/> その他()
【おかず】()品 ※デザート含む。	
メニュー名	食べた感想
○ 200g	味がしっかりしていい感じ。
○ 70g	香りがいい感じ。
○ 100g	味が濃い感じがいい。

○女子中高生が好むためにどのような工夫がされているか。

また、女子中高生が好むような工夫が見られない場合、どのように改善すればよいか。

①パッケージ(容器): 味が濃い感じがいい。
②盛り付け方: 味が濃い感じがいい。
③味: 味が濃い感じがいい。
④価格設定: 味が濃い感じがいい。
⑤メニュー内容: 味が濃い感じがいい。
⑥味付け: 味が濃い感じがいい。

【2学期】

「食事と健康の関わり、栄養素の働き、献立の計画」（4時間）

お弁当製作に必要な栄養の知識や献立のたて方を学んだ。栄養については、すでに小学校や中学校で学んでいるが、年代や生活スタイルによって必要な栄養が異なることに生徒が気づくことができた。

「献立計画」（4時間）

献立計画において、以下の条件を伝えた。

- ① お弁当テーマを決め、それに沿ったメニュー内容であること
- ② 栄養バランスが取れたメニューであること
- ③ 主食は、米を使用すること
- ④ お弁当の衛生上の安全面を考慮すること
- ⑤ 400円で販売が可能な食材選びをすること

生徒は限られた時間を最大限に活用できるよう、「メニューを考える」・「栄養価計算を行う」・「金額を計算する」など一人ひとりが役割に分かれて活動を行った。生徒は献立計画をたてる中で、食材費を抑える工夫や調理の手間を考えたりと、お弁当を商品化させ販売するということがどれだけ大変なことなのかに気づくことができた。

「調理実習」（2時間）

チームごとにお弁当に必要な食材を無駄のないように提案し、実習を行った。限られた時間の中でいかに効率よく実習に取り組めるかを考え、料理が得意な生徒がそうでない生徒をフォローするなどチームで協力しながら実習を行うことができた。

【完成したお弁当】



「校内発表会」（2時間）

チームごとに約5分間の発表を行い、以下の項目について生徒間で相互評価を行った。

▽評価項目

- ①テーマ性
- ②見た目
- ③献立内容
- ④購買意欲
- ⑤値段設定
- ⑥発表

お弁当販売に関わってくださる村井食品さんも校内発表会にご参加いただき、発表終了後に講評していただいた。生徒のアイデアを褒めて下さった一方で、製作が難しい作品もあるとご指摘いただいた。

【発表会の様子】



3 工夫した点と成果があったと思われる点

○工夫した点

- ・今回は、学年に重度の牛乳アレルギーを患っている生徒がいたため、様々な人に食べてもらえるお弁当を考えるように前提を与えたうえで自由にテーマを考えさせることで、より「人のため」の食事を深く追及することができた。
- ・夏休みに取り組んだ課題により、お弁当総選挙で製作するお弁当は自分が満足するためのお弁当ではなく、食べてもらう第三者に向けたお弁当であるという意識付けができた。

○成果があったと思われる点

- ・お弁当総選挙の取り組みはすべて生徒が主体となっていく。献立の計画やお弁当のテーマ設定については、互いに納得できるまで何度も話し合いを重ねた。また、お弁当に使用する食材の準備や、調理実習の調理準備もチームの中で役割分担を担うことで、それぞれに自分の役割に対しての責任感をもって行動することができていた。

4 うまくいかなかった点と理由

コロナの影響で、例年通りの授業時間を確保することができず、お弁当製作の時間を優先したために知識を身につける時間を短縮せざるを得なかった。もっと時間をかけて丁寧に指導することで、栄養面などがきちんと考慮された、より質の高いお弁当を製作できたのではないかと考える。

5 生徒の感想

⑤取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

今回のお弁当総選挙の取り組みを通して身につけた力は、複数の人と協力して一つのことを作り上げる力、人を思う力、だと思います。⑥食卓の気持ち考えながら、そして仲間の意見を聞きながらつくったお弁当が完成したときは、とても達成感がありました。食卓の人を思って一生けん命作ることの嬉しさに気付きました。そして、今回の学び、新しい気づきを、家で料理の手伝いや他の班活動で活用するなどして生かしていきたいと思っています。その中で、さらに今回身につけた力をさらに磨いていけたら良いなと思っています。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

普段、自分が、お弁当を貰う側の人間なので、どのお弁当で、お礼を求めているのか、考える事はなかったけど、今回の取り組みを通して、⑥消費者の求めている事を届けられる様に話し合ったり、計画を立てたりする事ができて、普段とは思っていた事は、たくさん話し合ったり、アイデアを出して、できていく人だと実感することができた。今回の取り組みで、食卓の気持ちを考える事を学んだので、これから食卓物を作る時は、自分や、一緒に食卓の気持ちを考えられるようにしたいと思った。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

私達だけがメニューを決め、レシピを探し、作るというのをしておいて、意外に簡単だと感じました。私達ほとんど料理を作った経験がなくて、その理由として、めんばり、軽そう、というのを思っていました。でも実際作ってみると、楽しくて、レシピ通りだと意外に簡単でした。⑥出来がいいと思っていたけれど、自分がしているだけで、自分だけが感じておられました。私は今回の一度だけしかしていないから、楽しい、簡単と感じたけれど、今は365日3食お母さんとお母さん考えると気が遠く感じます。そんなお母さんに感謝の気持ちを生かせる機会にしたい。

3 海外との交流

(ディニアプトリ女子校とのオンライン交流)

① ねらいと目標

本校はインドネシアにあるディニアプトリ女子校と協定を結び、学校間交流を毎年行ってきた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、Zoomを用いたオンラインによる交流を行うことになった。オンライン交流を実施する目的は3つある。1つ目は同年代の生徒たちによる異文化交流の場を提供するため、2つ目は社会問題に関する意見交換をするため、3つ目は協定校としての学校間の交流活性化のためである。1つ目の目的は同年代の生徒たちによる学校紹介や質疑応答を経て、お互いの国の学校生活における文化の違いを認識することである。2つ目の目的は身近なごみ問題からお互いの国の環境問題に関するディスカッションを行うことで、多様な考え方を受け入れると共に自らの考えを発信できるようにすることである。3つ目の目的は英語を用いてオンラインで交流することで生徒同士の距離を縮め、英語を授業科目の側面だけでなく、コミュニケーションツールとして理解させることである。こうした活動を通して、中・長期的視点で地域課題を捉え、その解決に向けて主体的に行動する人材、特に「他者を巻き込む行動」の核となる人材を育てることを目指している。

② 実施報告

<当日までの動きについて>

日 時	活 動 内 容
11月12日(木)	参加希望者によるミーティングを開催する。 Google Classroomを作成し、メンバーに配信し、情報共有する。 学校紹介プレゼンのスライドについては、入試説明会で使用したものを英訳する事になった。
	コーディネーターの北田多喜氏と本校進路指導部長との打ち合わせ →打ち合わせ内容は Google Classroom を用いて、生徒とも共有する。
11月13日(金)	ゴミについてのプレゼン内容を考えるため、各クラスや特別教室、食堂などのゴミの分別状況を話し合い、調査を開始する。
11月16日(月)	学校のゴミが分別された後、どのように処理されているのかを事務長にインタビューして聞き取る。
11月17日(火) ～ 11月21日(土)	各クラス・場所のゴミの量を計測して記録する。
期末考査前に入るなので、各自で時間を見つけてスライドの作成をしておく。	
12月1日(月)	Google ドキュメントにて参加者リストを入力する。
12月3日(木)	北田氏とディニアプトリ女子校の教員、本校教員で Zoom を用いたオンライン打ち合わせ
12月10日(木)	スライドの最終確認・リハーサル
12月11日(金)	13:30～15:30頃まで最終リハーサル

<オンライン交流会当日の流れ>

12月11日（金）午後4時から午後5時半（インドネシアは午後2時から午後3時半）

- ・実施形式：Zoomを用いたオンライン形式
- ・使用言語：基本的にすべて英語

（質疑応答の際などは教員が補助に回り母語の使用を認めた）

- ・場所：本校図書室
- ・対象：特設Ⅰ類Ⅱ類コースの高校1年生からの希望者10名
- ・プレゼンテーション内容

①各校の学校紹介プレゼンテーション(5分)

②「学校のごみ」についてのプレゼンテーション(5分)

- ・どんなごみが出るのか
- ・一日当たりどのくらい出るのか
- ・どのように処理されているのかなど
- ・グループディスカッションについて

各校の生徒を混ぜた5つのグループを作り、zoomのブレイクアウトセッションを使用して実施した。内容はプレゼンテーションに関する質問や「学校のごみを減らす具体的な方法」を話し合った。

- ・タイムスケジュール

16:00 あいさつ(両校から2分ずつ、使用言語は英語)

16:05 育英西高等学校 学校紹介(5分)

16:10 ディニアプトリ女子校 学校紹介(5分)

16:20 学校のごみについてのプレゼンテーション(ディニアプトリ女子校 5分)

16:25 学校のごみについてのプレゼンテーション(育英西高等学校 5分)

16:30 各校の生徒を混ぜた5グループに分かれてのグループディスカッション

17:00 5グループから代表者が発表(各2分)

17:10 終わりの挨拶





③ 工夫した点と成果があったと思われる点

他の探究活動に参加している生徒が多く、打ち合わせを昼休みや放課後に実施し、なるべく短時間で集まって議題を絞って話し合いさせるようにスケジュールを組むことを心がけた。英語でのスライドづくりや発表原稿づくりは、生徒が主体となって情報を詰め込みすぎないように工夫して作成した。出来上がったスライドや原稿は事前に英語科教員が添削することで生徒たちの伝えたい内容がより伝わりやすくなるよう支援した。

④ うまくいかなかった点と理由

交流の様子を見ていて、コミュニケーションを図ろうとする事には大変積極的であったが、相手校と本校の生徒の英語力の差が浮き彫りになったように感じた。準備時間が少なく、インドネシアの事そのものについて、事前に知識をつけることができなかった。様々な取り組みについて精査し、生徒の活動の幅を広げるためにも、教員側にも活動を短期間に詰め込みすぎないようにする工夫が必要である。そのためには、校内での情報共有と参加生徒自体を増やす取り組みも必要不可欠であるように感じる。

⑤ 生徒の感想

<交流について>

- 交流をつうじて、インスタグラムのアカウントを交換し、その後、すこしの間、ダイレクトメッセージでやりとりをしました。普段使わない英語を日常で使うというのが、初めての経験で、自分でも成長を感じることができた。
- ディニアプトリの子たちと話せてインドネシアの学校の様々なことを知ることができ本当にうれしかった。意見交流のよい機会にもなりすごく楽しかった。コロナの影響で直接会えなかったことがとても悲しい。行って直接話してみたいです。もっとお互いの文化や言語、好きな音楽やファッション、食べ物についても話したかった。この取組を通じて国際交流により興味をもつことができた。また交流したい。実際に行ってシナジーのように調べてみようと思う。
- 最初、正直いろいろな意味で不安でしたが、無事に終わることができ達成感がすごいです。学校のゴミの状況について知ることができました。また、相手の学校だけではなく自分たちの学校についても知る良い機会でした。
- ディニアプトリの人たちは明るい人が多く、すごく優しく、リーダーシップがある人たちだと思いました。
- 遠い国の人の学校のことを知ることができ、交友関係が広がり自分の中の世界が広がるので、この国際交流はとても良いと思います。
- 事前に相手の方についても知っておきたかった。

<テーマ、プレゼンテーションについて>

- お互いすごく緊張もしていたので、もう少し簡単なテーマにするか、大人数のグループで交流すればもっと良くなると思った。例えば、日本食や日本のお菓子について学んだり、インドネシアの食べ物や服装について学んだりする時間を作れば気軽に話しやすく楽しいだろうなと思う。
- また、英語でプレゼンをするというのが、とても楽しく感じ、この直後に SDGs でプレゼンを行い、プレゼンをすることが大好きになった。
- 反省点は、もっと自分から発信していくことです。受信だけではなく自分の思ったことを言えるようになりたいです。

<英語での交流について>

- 英語の授業で習ったことを、日常生活で会話として使う機会があまりないのでとても良い経験になりました。中学から今まで沢山の文法を習ってきたけれど、いざ会話するとなった時に、頭の中で文章をつくれなくて、なかなか会話が進みませんでした。この交流会を通してジェスチャーも大切なコミュニケーションの一つだということに気付かされました。世界の人々と英語を通して話せることの楽しさを忘れず、これからも英語の勉強をしていきたいと思います。
- 自分の学校について相手に伝わるように頑張った。英語の発音を先生のようにできるようにもっと努力しないといけないことが痛いほどわかった。
- ネット回線が良くないこともあったが、育西メンバーとディニアプトリメンバーで英語のスピーキングスキルが違ったので会話がスムーズにいかなかった。ディニアプトリの子たちが戸惑っているのを見るとすごく申し訳なくなった。もっと英語の勉強、とくにスピーキングスキルを磨こうと思った。
- ディニアプトリの子たちはアジアなまりの英語だったので、英単語を理解することとなまりに慣れることの両方をしなければならぬのは大変だと感じた。
- 英語がコミュ英とかイングリッシュプラスでやるような単語ばかりじゃなく専門用語等がいくつかあったので分からない時もあったけど先生方がサポートしてくれたのですごくやりやすかった。

Ⅲ 教科における探究的な学び

① 物理基礎

教科	理科	高等学校	普通科	1	(育英西高等学校)
科目名 物理基礎 (2単位)					

実施年度と学校名

令和元(2019)年度 育英西高等学校

コメント・解説

① 教材観

波は媒質の運動と波形の運動に分けて理解する必要がある。いずれの運動も時間の経過とともに変化し、「位置」と「時間」の変数を同時に考える必要がある。このことが原因で混乱を生じている生徒も少なからず存在する。また、波を表現する用語が非日常的なものであり、その数も多いので、教科書の理解や問題文の理解に支障が生じている。

② 生徒観

個性豊かな生徒が集まったクラスであり、全体として活発なクラスである。次年度の科目選択も終わっており、積極的に物理を理解しようと試みる生徒がいる一方で、物理に対して理解を諦めてしまっている生徒も少なくない。

③ 指導上の留意点

- ・ 定在波の性質を既習の物理用語を用いて表現したものを相互に確認することで正確な表現で理解する。
- ・ 定在波の「腹」・「節」の成り立ちを2つの進行波の関係性に注目し、変位や位相などの言葉を用いて表す。相互に表現をチェックして正しい表現を導く。

参考文献など (研究所, 関連書, 学校の紀要, 学校 HP アドレスなど)

「高校物理 CG 動画教材」<http://physics7.starfree.jp/phy/>

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 物理基礎

0. 学校段階	高等学校	学年	1
1. 単元名	図形と計量		
2. 期間（時数）	1月（全3時間）		
3. 単元目標	重点目標	知識・技能	
	<p>「本質的な問い」</p> <p>○ 定在波における節や腹はもととなる2つの進行波とどのような関係性を持っているのか</p> <p>「永続的理解」</p> <p>○ 2つの波の関係性を理解し、物理用語を正しく用いて表現することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 波を表現する語句を正しく理解し、文章の中で使うことができる。 波の時間的・空間的な変化を追いかけることができ、波形の変化を予想することができる。 	
4. 評価方法	パフォーマンス課題	その他の評価方法	
	波の状態を文章で表現し、グループ単位で相互にチェックし、全体に対して」口頭で発表する。	定期考査	
5. 単元の指導計画	<p>第一次（4時間）波と媒質の運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 波の発生と波の要素について学ぶ。（波長・振幅・周期・振動数・速さ） 波のグラフ（$y-t$ 図， $y-x$ 図）を用いて媒質の運動と波形の運動について考察する。 縦波と横波について知る。 <p>第二次（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> パルス波を用いて重ね合わせの原理をしり、2つの波の関係性について作図を使って考える。 進行波の干渉を用いて、定在波の発生を知りそのメカニズムを説明する 波の反射 <p>第三次（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 波の反射について知り、入射波と反射波で出来る定在波の誓いについて考察する。 		
6. 生徒作品に関する解説	<ul style="list-style-type: none"> 「腹」，「節」を瞬間的な状態と捉えているグループがあった。山が重なり合った時が腹，山と谷が重なった時が節という表現が目立った。常に変位が0となることの説明が不十分であった。 同位相。逆位相という言葉で表現できたグループがあった。 「変位」の和で説明できているグループがあった。 2つの波の対称性で説明しているグループがあった。 <p>全体として、「常に」同位相や逆位相の波が伝搬して節や腹が形成されていることに注目できたグループはなかった。</p>		

【c】生徒の作品例

節：波同士の和が0になる所

2つの波が対象になった時

振幅が逆の変位が節

1つの波見の変位ともう一つの変位の和が0になる所

2つの逆位その波が重なったところの真ん中

山と谷が重なるところ

節：波同士の和が激しく変化すること

2つの波の振幅が最大であり、2つの波が山か谷で同じであるとき

振幅が同じ変位

どちらの波も同じ変位するとき

2つの同位相の波が重なったところ

②保健（1年）

保健体育科	高等学校	普通科	1	荒木 真由美 (育英西高等学校)
（保健）現代社会と健康「薬物乱用と健康」				

実施年度と学校名

令和2(2020)年度 育英西高等学校

コメント・解説

① 教材観

青少年の薬物乱用は、従来はシンナー等有機溶剤の乱用が中心であったが、近年になって覚せい剤など他の薬物乱用の著しい増加が見られ、極めて憂慮すべき状況になってきている。多くの研究によると、喫煙・飲酒・薬物乱用を含む青少年の危険行動は、様々な社会的要因と個人的要因の相互作用によって形成されることが明らかになっている。

また、最近では SNS 等の発達によって高校生もインターネットなどで薬物に関する情報に触れる機会が多々ある。このような近年の生活環境の中で、自分自身や周囲の友達の身を守るためにも、正しい知識を学習し、将来の健康のために正しい行動選択ができる力を身につけることを目指したい。

② 生徒観

非常に真面目で、基本的な善悪の判断はできる生徒たちである。薬物乱用については中学校でも学習しており、薬物乱用の有害性には理解している。しかし、健康を保持増進するための要因として学んだ、喫煙・飲酒とは違い、薬物乱用は生徒たちの日常にとってすこしかけ離れたところにあるものとして捉えている生徒が多い。

近年では若年層の薬物乱用が社会問題になっていることもあり、生徒個人が法律の遵守と健康の保持増進、周囲や心身に対する悪影響を理解し、適切に行動選択する力や、正しい判断力を身につけさせることは非常に重要なことである。

③ 指導上の留意点

保健の授業で扱う内容は、個人の生活に直結しており、プライベートな内容に触れることもしばしばあることを忘れずに、言葉を選ぶよう意識し、生徒にも周囲への配慮を忘れないよう助言を行う。

今回は「ジブンゴト」としてとらえるために、テーマの設定、まとめる方法をすべて生徒主体で進めていくことになる。生徒主体でもより深い探究が進められるよう、助言と経過観察を丁寧に行っていく。

参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校 HP アドレスなど）

現代高等保健体育（大修館書店）

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 保健

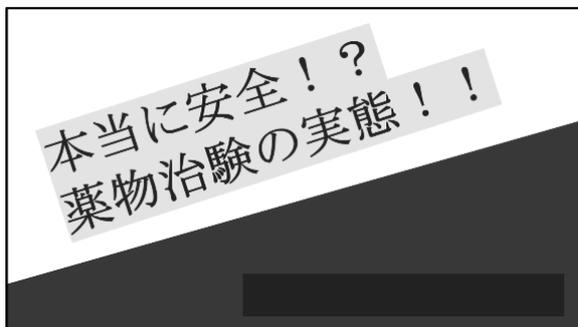
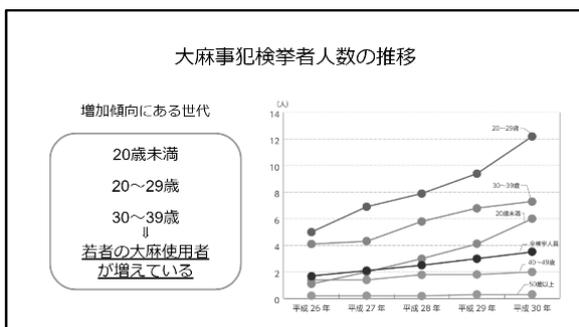
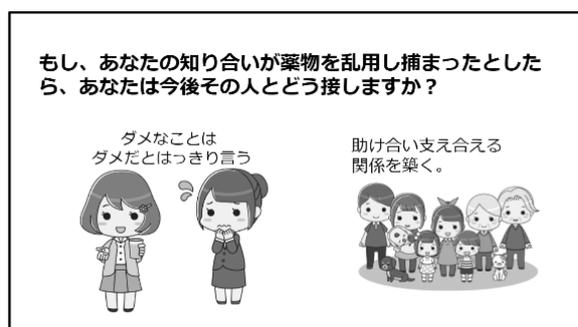
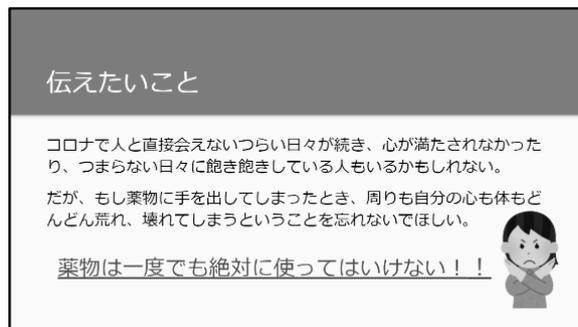
0. 学校段階	高等学校	学年	1
1. 単元名	現代社会と健康		
2. 期間（時数）	1月（全4時間）		
3. 単元目標	重点目標	知識・技能	
	<p>「本質的な問い」</p> <p>○ 薬物乱用を「ジブンゴト」としてとらえるために、個人の生活と薬物乱用の関係に迫る。</p> <p>「永続的理解」</p> <p>○ 私たちの生活にとって、健康は生涯を通して重要な土台となり、その健康の保持増進には生活習慣が大きく関わる。ここでは、薬物乱用が健康に及ぼす影響を理解し、正しい行動選択のために必要な知識を身に着けるとともに、周囲への発信ができることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 薬物がもたらす個人への影響について理解する。 薬物乱用について、探究したことをもとに、健康課題や正しい行動選択をするために大切なことをまとめ、発表している。 	
4. 評価方法	パフォーマンス課題	その他の評価方法	
	<p>薬物乱用と自分自身の生活の関係性に迫り、薬物乱用を「ジブンゴト」として捉える視点を持つ。また、探究の最終成果として、他者にとっても「ジブンゴト」として考えてもらえるような発信（プレゼン）を考える。</p>	<p>探究レポート</p> <p>発表スライド／発表原稿</p>	
5. 単元の指導計画	<p>第一次（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用の基本的知識の習得→各種薬物の特性と薬理作用 薬物乱用の悪影響 ・薬物乱用の防止対策 <p>第二次（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用と自分自身の生活に迫る（オンライン授業） →自分自身が薬物乱用で気になることを探究、レポート作成 <p>第三次（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアワーク →知識の共有とテーマ設定 →スライド作成・発表原稿作成 		

6. 生徒作品に関する解説

視聴した人が薬物乱用を「ジブンゴト」として捉えられる発表となることを目的とし、スライドのフォーマットはあえて設定せず、自由に作成することを促した。また、薬物乱用に関係があると考えたのであれば、何について調べても良いとしたため、近年の関心ごとである「新型コロナウイルスと薬物乱用」や、「女性と薬物乱用」「高校生と薬物乱用」という、自分自身が興味を持てる内容と薬物乱用との関係性を調べるペアが多かった。

視聴対象者をイメージして発表原稿を作成しているペアもあったり、スライドにはあえて情報量を少なくしたりするなど、視聴者に届けたい内容をどのように伝えるべきかを考えてスライド作成しているペアもある。一方、作成段階で教員から細かなアドバイスをすることができなかつたため、インターネット上の情報をそのまま紹介しているペアや、表面的な探究に留まっているペアもあった。

【c】生徒の作品例



③日本史 B

地歴科	高等学校	普通科	2年	塚本 英子 (育英西高等学校)
日本史 B 「一揆の史料を立ち位置から読む」				

実施年度と学校名

令和 2(2020)年度 育英西高等学校

コメント・解説

① 教材観

「ものの見方」という概念をベースとして、戦国時代の3つの一揆の史料を読む。史料中の言葉の意味を深く知り、そこに潜んでいる当時の人々の意識に目を向ける。そして、当時の人々がそれぞれの立ち位置から一揆をどのようにとらえたかを想像し、彼らが見たであろう「風景」を自分の言葉で表現し、他者に伝える。その作業により、史料の筆者または登場人物の立ち位置の違いによって、ひとつの出来事のとらえ方＝「ものの見方」は全く異なることに気づくとともに、生徒たち自身も、自らがどのような立ち位置で史料に接するかによって、見え方が変わるということに気づかせたい。また、史料に登場する人物の立ち位置に自らを置くことで、歴史上で記された史料というものが、私たちと同様に感情や価値観を持った人間が記したものであることを実感し、親近感をもってとらえさせたい。

② 生徒観

全体として学習意欲が高く、真面目に授業に取り組む生徒達である。受験科目として日本史を学習していると考えている生徒も多い。常に和やかな雰囲気の中で、授業を進めることができる。カリキュラムの関係上、週に2単位の授業で進度を急ぐ必要があり、史料の言葉の意味を深く考えるというような探究的な取り組みは普段は実施できていない。

③ 指導上の留意点

- ・一揆に関する史料を読み、その筆者や登場人物の立ち位置の違いを理解し、自分がどの立ち位置に立ってこの史料を読んでいくかを明確にする。
- ・史料中の言葉の意味を分析し、そこから当時の人の意識や価値観を読み取り、それをふまえて一揆の状況を想像する。
- ・史料を分析して考察したことを自分の言葉で表現し、他者に伝える工夫をする。

参考文献など (研究所, 関連書, 学校の紀要, 学校 HP アドレスなど)

教科書 : 『詳説日本史B』(山川出版社)

副教材 : 『詳録新日本史史料集成』(第一学習社)・『新詳日本史 地図・資料・年表』(浜島書店)

参考文献 : 勝俣鎮夫『一揆』(岩波書店、1982年)

鈴木良一『大乘院寺社雑事記—ある門跡僧侶の没落の記録—』(そしえて、1983年)

笠松宏至『徳政令—中世の法と慣習—』(岩波書店、1983年)

笠松宏至『法と言葉の中世史』(平凡社、1993年)

呉座勇一『一揆の原理』(筑摩書房、2015年)

榎原雅治『室町幕府と地方の社会』(岩波書店、2016年)

神田千里『戦国と宗教』(岩波書店、2016年)

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 地歴科（日本史B）

0. 学校段階	高等学校	学年	2
1. 単元名	幕府の動揺と土一揆・応仁の乱と国一揆		
2. 期間（時数）	1月（全9時間）		
3. 単元目標	重点目標	知識・技能	
	<p>「探究テーマ」</p> <p>○ 立ち位置の違いによって、「ものの見方」は変わる。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>○ 文献史料中の言葉の中に潜む意識や社会的背景を分析することにより、筆者または登場人物の立ち位置の違いによって、ひとつの出来事のとらえ方＝「ものの見方」は全く異なることに気づく。</p>	<p>・一揆に関する史料を読み、その筆者や登場人物の立ち位置の違いを理解し、自分がどの立ち位置に立ってこの史料を読んでいくかを明確にできる。</p> <p>・史料中の言葉の意味を分析し、そこから当時の人の意識や価値観を読み取り、それをふまえて一揆の状況を想像できる。</p> <p>・史料を分析して考察したことを自分の言葉で表現し、他者に伝えることができる。</p>	
4. 評価方法	パフォーマンス課題	その他の評価方法	
	<p>「〇〇一揆の史料を▲▲の立ち位置から読む」というテーマで、それぞれの史料の分析・考察を班ごとに発表し、相互評価を行う。</p>	定期考査	
5. 単元の指導計画	<p>第1次（2時間） 正長の徳政一揆・播磨の土一揆・嘉吉の徳政一揆・山城の国一揆・加賀の一向一揆について基本的な事項を学習する。</p> <p>第2次（1時間） ここまで学習した5つの一揆の内容を整理する。 自分がどの一揆を担当したいか、希望調査を行い、それに基づいて班分けを行う。</p> <p>第3次（1時間） プレゼンに向けての説明を行い、班ごとに作業を開始する。3つの一揆史料に登場する人物（人々）を確認し、自分たちがどの人物の立ち位置に立っていくか、班ごとに決める。</p> <p>第4次（3時間） 班ごとに作業を進める。史料中の言葉の中で、人々の意識が潜んでいると思われる言葉をピックアップし、その意味を追究し、当時の人々がそれぞれの立ち位置から一揆をどのようにとらえたかを想像し、それを自分の言葉で表現する。</p> <p>第5次（1時間） ※本時 「〇〇一揆の史料を▲▲の立ち位置から読む」というテーマで、それぞれの史料の分析・考察を班ごとに発表し、相互評価を行う。（評価シートは全員分、事後にそれぞれの発表班へ配布して共有させた。）</p> <p>第6次（1時間） この取り組みをしたことで、史料というものがどのようなものであるとわかったか、自分の考えをまとめる。</p>		

6. 生徒作品に関する解説

5名ずつの6班を編成し、それぞれ、希望によりテーマを決定し、プレゼンを行った。当日は5分以内×6班が発表し、それぞれの発表終了後1分で、評価シートに記入させた。発表テーマは以下の通りである。

発表1 山城の国一揆の史料を国人たちの立ち位置から読む

発表2 山城の国一揆の史料を尋尊の立ち位置から読む

発表3 加賀の一向一揆の史料を一揆勢の立ち位置から読む

発表4 加賀の一向一揆の史料を尋尊ら史料の筆者の立ち位置から読む

発表5 正長の土一揆の史料を尋尊の立ち位置から読む

発表6 正長の土一揆の史料を一揆側農民の立ち位置から読む

いずれの発表も、生徒たちが設定した「立ち位置」からその一揆を生き生きと描き、その時代に生きた人々の眺めた風景が思い浮かぶと感じられるプレゼンであった。

【c】生徒の作品例

<事後のふり返しシートより>

- ・同じ史料でも誰の立ち位置で読み取るかで、それぞれの一揆の解釈や感じ方が全然違って、おもしろかった。
- ・同じ史料を読んだだけでも、読む人によって、それぞれの解釈があるということが分かった。教科書に載っていることだけでなく、それ以外の史料や本を見てみると、今まで習ったことのない、新たな背景を見つけ、知ることができた。今ではもうこの世に存在せず、話を聞くことのできない人物についての研究をすることは、正解がなく難しいものだが、だからこそ、たくさんの考察ができて楽しいのだということを知ることができた。
- ・今まで日本史の史料は当時の環境や社会の仕組みについて知識として知るためのものだと思っていたけど、丁寧に読んだり自分が気になったことについて調べたりすることで、人々の気持ちまでも予測できるものであると気づきました。また、歴史には確信をもって正しいと言えることもあれば、意見が対立し間違っているのではと疑うこともあるのだと気づきました。そして、日本史の史料を通して、ものの見方は人それぞれで違うということを知ることができたと思います。
- ・私は今まで、日本史の授業で史料を読む時に、この時間必要かなと正直思っていたのですが、今回の取り組みを通して、史料を読むことは昔の人との対話だと以前に先生が言っていたことを思い出しました。私も読書感想文などを書いたりする時に、少なからず自分の想いを反映させています。きっと『大乘院寺社雑事記』を書いた尋尊もそうだったと思います。その他の史料からも、どうしてそんな言葉を使ったの？どうしてそんな表現を使ったの？と問いを立てることが大切だと分かりました。これからの入試では今よりもっと文字や図から読み取ることが増えていくので、今回の取り組みのようなことが当たり前にしていかなければならないと気づきました。

④数学 B

数学	高等学校	普通科	2	森岡 智史 (育英西高等学校)
数学 B				

実施年度と学校名

令和2年度 育英西高等学校

コメント・解説

① 教材観

数学Bという授業の名前ではあるが、例年、2学期で教科書の内容を終えて3学期は受験を意識した演習形式の授業を行っている。対象となるクラスの生徒は、3年次に数学Ⅲを履修する生徒はごくわずかで、受験で数学Ⅱ・数学Bを必要とする者も少ないが、数学Ⅰや数学Aを必要とする生徒は多い。この2科目の内容の振り返りを行うこととしたが、問題を解くだけの復習ではなく、違う視点から問題をとらえ、考える活動を目指した。また、1月半ばに実施された「大学入学共通テスト」も少なからず意識した。

② 生徒観

対象クラスの生徒は全体的に学習意欲が高く、授業態度も真面目である。「問題を解く」ことに関しては熱心に取り組むことはできるが、答えを求めることに偏りがちで、証明や論証することに関してはあまり興味がないように見える。数学に対して前向きに取り組む生徒もいる一方、自らの数学的な能力に自信がない生徒も多い。

③ 指導上の留意点

今回生徒が取り組む活動は「問題の作成」「作成した問題の解説」であるが、適切な指示が重要である。それぞれの班にミッションを与える際に、適切な負荷がかかるような条件を与えることが必要で、簡単であれば探究にはならないし、難しすぎるとどこまで行っても終わらない。

班活動を行う際にも生徒間の学力差も無視できない。数学が不得意な生徒にとっても参加する意義があるような仕組みが必要である。ここでは「苦手な子が解けるような解説を考える」「苦手な子が解けるようになる」ことを目標とした。

参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校HPアドレスなど）

- ・ 江森 英世 編著 (2016), 『アクティブラーニングを位置づけた中学校数学科の授業プラン』, 明治図書
- ・ 「問題作成の小さい工夫～閉区間で最大値または最小値の設定された2次関数の決定問題～/中原 克芳」, 『数研通信 数学 No. 98』 p. 18-21, 数研出版
- ・ 「問題背景を理解するアクティブラーニング～入試問題を題材にとって～/西元 教善」, 『数研通信 数学 No. 98』 p. 22-24, 数研出版
- ・ チャート研究所 編著, 『増補改訂版 チャート式 解法と演習 数学 I+A』, 数研出版

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 数学B

0. 学校段階	高等学校	学年	2
1. 単元名	特になし（演習形式の授業）		
2. 期間（時数）	4		
3. 単元目標	重点目標	知識・技能	
	<p>「本質的な問い」 多角的視点から一つの課題に向き合うことはその問題解決に役立つ</p> <p>「永続的理解」 一つの問題を解く際に様々な解法を用いることは問題の背景にあるものを理解するのに役立つ</p>	問題のパラメータを変更することでその解答がどのように変化するか、問題として成立するにはどのような条件が必要かを調べる。	
4. 評価方法	パフォーマンス課題	その他の評価方法	
	<p>問題作成と発表のそれぞれに対し、自らが貢献したか4段階で振り返る。（自己評価）</p> <p>問題作成と発表のそれぞれに対し、班の中で貢献度が高かった人を答える。（他者評価）</p> <p>自己評価と他者評価を総合して評価を行う。</p>		
5. 単元の指導計画	<p>第一次（1時間） 作成する問題の条件（ミッション）の発表とベースとなる問題の研究</p> <p>第二次（2時間） 問題の作成とその解答の作成・プレゼンテーションの作成</p> <p>第三次（1時間） 作成した問題の発表とその問題の解説（プレゼンテーション）</p>		
6. 生徒作品に関する解説	<p>生徒に与えたミッション（作問の条件）は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 絶対値の方程式で①解が3つある②使用する式の次数は1 2次方程式の解の配置の問題①√が出てこない②複数のパターンを問う 三角形の角の二等分線の長さを求める問題①角をはさむ2辺と、二等分線の長さがすべて整数となる②余弦定理を用いて解く 最短経路の数を求める問題①通行止めの区間がある②直進しかできない交差点がある くじびきの確率の問題①設定が複雑である②条件付き確率を求める問題がある <p>とした。チャート式の参考ページも示したが、なかなか問題ができず、ミッションを変更した班もある。</p>		

【c】生徒の作品

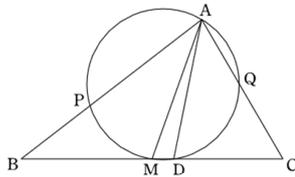
S2-4 問題集

- 1 BC=24, CA=8である直角三角形ABCの斜辺AB上に点Dをとり、Dから辺BCとCA上にそれぞれ垂線DEとDFを引く。△ADFと△DBEの面積の合計が最小となるときの線分DEの長さとそのときの面積を求めよ。

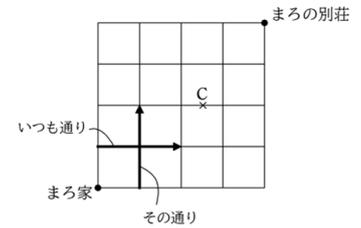
- 2 2次方程式 $x^2 + (5a+6)x + 2a+9=0$ が次のような解をもつとき、定数 a の値の範囲を求めよ。

- (1) 異なる2つの負の解
- (2) 正の解と負の解

- 3 図のように辺BCの中点をM、∠BACの二等分線と辺BCの交点をDとし、円は△AMDの外接円とする。AB=7, BC=8, AC=5とする。方べきの定理を用いてBP=CQを証明せよ。



- 4 まろ家からまろの別荘までの最短経路は何通りか。ただし、「その通り」と「いつも通り」は直進しかできない。また、工事中のCの通路は通れない。



- 5 所持金が600円のいっちゃんが20玉入りの1回200円でまわせる芸能人ガチャガチャを引こうとする。そのうち4玉が中村倫也キーホルダーで1玉が佐藤健のレアキーホルダーである。また、いっちゃんは3つとも気に入らないキャラだとそのうちの1つをメルカリで売ることができて200円を取り戻し、もう1回回することができる。いっちゃんは中村倫也と佐藤健がお気に入りであるとするとき、次の問いに答えなさい。
- (1) 3個中2つが気に入らないキャラになる確率は？
 - (2) 3つのすべてが気に入らないキャラのとき、4回目に出てくるキャラが気に入るキャラの確率は？
 - (3) (2)のとき4回目に出てくるキャラが佐藤のレアキーホルダーが出る条件付き確率は？
 - (4) いっちゃん、おっちゃん、ふっちゃん、まっちゃん、こっちゃんがこの順で1回ずつ回していくとき、佐藤健と中村倫也が両方出る確率は？

【d】自由スペース

今回、みなさんに授業をしてもらう、ということも生徒に強調した項目であった。自分が生徒としてこのように授業してほしい、といったスタイルがいろいろとみられたように思う。

生徒の披露した「授業」は笑顔に満ちた楽しいものであった。そのような授業もできるよう、心掛けたい。

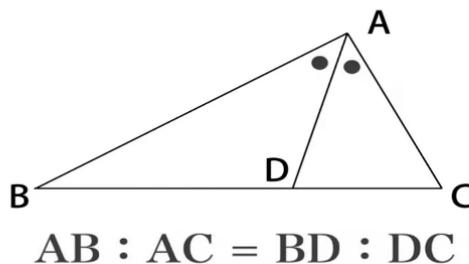
<生徒の作成したスライド>

同様に、 $\triangle ABC \sim \triangle DBE$ であり、
 $\triangle ABC : \triangle DBE = 8^2 : x^2$
 $\triangle DBE = x^2/8^2 \times 96 = 3/2x^2$

解答 (1)

[1] $D > 0$ [2] (軸の位置) < 0 [3] $f(0) > 0$
 [1] $D = b^2 - 4ac$ より $(5a+6)^2 - 4 \times 1 \times (2a+9) > 0$
 $= (5a+6)^2 - 4(2a+9) > 0$
 $= 25a^2 + 60a + 36 - 8a - 36 > 0$
 $= 25a^2 + 52a > 0$
 $= a(25a + 52) > 0$
 $a = 0, -52/25$
 $a < -52/25, 0 < a$
 [2] (軸の位置) < 0 より $-(5a+6)/2 < 0$
 $5a+6 < 0$
 $5a < -6$
 $a < -6/5$
 [3] $f(0) > 0$ より $2a+9 > 0$
 $2a > -9$
 $a > -9/2$
 [1] [2] [3] したがって $a > 0$

角の二等分線定理



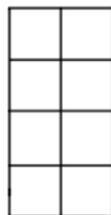
(4)の解説

○ 中 ○ 佐 ○ ○ ○ ○ ○	$\frac{5 \cdot 1 \cdot 4 \cdot 1 \cdot 15 \cdot 14 \cdot 13}{3 \cdot 1 \cdot 20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17 \cdot 16}$...①
○ 中 ○ 中 ○ 佐 ○ ○ ○ ○ ○	$\frac{5 \cdot 1 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 1 \cdot 15 \cdot 14}{2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17 \cdot 16}$...②
○ 中 ○ 中 ○ 中 ○ 佐 ○ ○ ○ ○ ○	$\frac{5 \cdot 1 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 1 \cdot 15 \cdot 14}{2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 2 \cdot 20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17 \cdot 16}$...③
○ 中 ○ 中 ○ 中 ○ 中 ○ 佐 ○ ○ ○ ○ ○	$\frac{5 \cdot 1 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 1}{4 \cdot 1 \cdot 20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17 \cdot 16}$...④

①+②+③+④より $\frac{957}{5168}$

(iii) その通りをまっすぐ

Cを通る



$$\frac{6!}{2!4!} = 15$$



$$1 \times \frac{3!}{2!1!} = 3$$

$$15 - 3 = 12 \text{通り}$$

⑤保健（2年）

保健	高等学校	普通科	2	授業者 吉 ひかり (育英西高等学校)
「保健 探究レポート」				

実施年度と学校名

令和2年度 育英西高等学校

コメント・解説

① 教材観

2学期の授業のまとめ課題として、「健康を保つ」という視点から自分自身が一番興味のある保健の内容をピックアップし、個人で探究することに挑戦する。本校の中学で取り入れている国際バカロレア教育の保健体育の内容を参考にし、体育の“重要概念”と“関連概念”を紐づけて探究のテーマを立て、そのテーマについて事實的・概念的・議論的な問いを立てる。自分で立てた問いに沿ってレポートを完成させることを目標とする。なじみのないお題や問いを立てる手法に対し、柔軟な発想をもって創造的思考を取り入れることで、今後の学習にも応用する力を養うことがねらいである。近年の入試においても問われる思考力・判断力・表現力を培うとともに、この思考が今後どの分野にも活かされるきっかけになることを期待する。

② 生徒観

本クラスは、自分の進路を自分自身で切り拓いていく集団であるため、学習意欲も旺盛である。どの場面においても、向上心と探究心を持ちながら、一人ひとりが真摯に取り組む。毎回の授業で想像以上の成果を上げることができる。また、グループワークやプレゼンテーションの際には、穏やかな雰囲気の中にも、説得力のある意見が飛び交う場面が多く見受けられる。自分自身の発言を大事にしつつ周囲への思いやりと尊重する心があるクラスである。

③ 指導上の留意点

なじみのない問題に対し、「わからない」と諦める生徒が出ないように、「わからない」を楽しみながら課題に取り組むよう全体に発信した。“概念から探究テーマを立てる”“というところではつまずく生徒が多いことは想定できたので、一人ひとりが個別に質問しやすい環境を作るように工夫した。

参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校HPアドレスなど）

「保健体育」の手引き 中等教育プログラム（MYP） 2014年9月/2015年1月から適用
大修館 現代高等保健体育 教科書
図説 現代高等保健

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 保健

0. 学校段階	高等学校	学年	高校2年生
1. 単元名	保健 探究レポート		
2. 期間（時数）	5時間		
3. 単元目標	重点目標	知識・技能	
	<p>「本質的な問い」 バランスのとれた環境や思考は、心と体を健康にし、豊かな人生へと発展する。</p> <p>「永続的理解」 高校生で学んできた保健体育を活かし、社会に出てからも自分らしく健康に生き抜く力を育む。</p>	<p>・創造的思考 なじみのない問いに対して、探究テーマと問いを立て、自分の探究内容に沿って組み立て、柔軟な思考を実践することができる。</p> <p>・問いを立てる 事實的・概念的・議論的な問いを立てることで自分のアイデアを形にし表現することができる。</p> <p>・転移スキル ある事柄を新たな視点で捉えることで、複数の学習分野と関連づけることができる。</p> <p>・自己管理スキル 自身の健康と学習の強みと弱点の特性を把握し自己コントロールができる。</p>	
4. 評価方法	パフォーマンス課題	その他の評価方法	
	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある探究テーマになっているか。 ・事實的な問い・概念的な問い・議論的な問い に沿った内容になっているか。 ・保健の内容に付け加えて、体育にも思考の転移ができているか。 	成果（レポート） 提出方法はレポート・スライド・模造紙など自由選択。	
5. 単元の指導計画	<p>第一次（ 1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究レポート内容の説明 ・個人ワーク 探究内容の決定 / 探究のテーマの設定 <p>第二次（ 2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究内容の事實的な問い・概念的な問い・議論的な問いを立てる ・探究の問いに沿って分析・考察し、レポートにまとめる。 <p>第三次（ 1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り <p>クラス全員のレポートを共有し、自身の振り返りと新たな視点を取り入れ改善点を明確にする。</p>		

6. 生徒作品に関する解説

保健分野の中でも個人の興味関心に特化したテーマ設定を認めたこともあり、一人ひとりの個性が溢れる内容に仕上がった。なじみのない問いに対しては、創造的思考や転移スキルに苦戦した生徒もみられたが、最終的には自身の設定した探究テーマや問いに沿ってアイデアを形にすることができた。課題を仕上げるまでに、つまづくポイントは人それぞれであったが、振り返りをすることで他の人から自分にはなかった視点について学ぶことができた。

どの生徒もうまくスライドを活用して表現することができており、多くの教科や科目設定でプレゼンテーションに取り組んでいる成果であると考えられる。

問いの立て方だけでなく、探究レポート全体に大人の目線では思いつかない発想力や柔軟性がみられ、教員としても生徒たちの豊かな感性や可能性に改めて気付く機会となった。

【c】生徒の作品例

生徒 A 重要概念「関係性」

思春期における健康影響について、「思春期×環境×ものの見方×関係性」を関連させながら客観的に考察することができている。

思春期における人格形成と周囲の環境との関係性について



調査の動機

私がテーマをたてる際に参考にした概念は「関係性」「環境」「ものの見方（人格形成）」で、探求するためにたてた問いが、「思春期において周囲の環境が人格形成に与える影響はどのようなものか？」だ。私は保健体育の単元の中で「青少年の思春期」についての単元に興味があり、その中でも人格形成がなされるという側面での思春期に興味を持っていたため、探求テーマとして掲げることにした。

【1】事実的な問い

・周囲の環境とは？

ここでいう「周囲の環境」を定義づけるとすれば、主に高校生までの家庭環境、人との関係性のことである。家庭環境は家族同士の関係性、家族の性格、資力、家にいる時間などの、家庭に関する様々な要素を指す。人との関係性は家族、友人、恋人、先輩、先生など、基本的には学校を中心とした人間関係のことを指す。

・ものの見方とは？

ここでいう「ものの見方」とは人格のことである。具体的に述べると、情緒や感受性の強弱、価値観や倫理観、積極性や思考のメカニズムなど、人と関わって生きていく上で持たなければならない個人の内面におけるすべてを指している。なおこれらは必ずしも普遍的であるとは限らず、各々で違うものであると考える。

【2】概念的問い

・思春期における周囲の環境は人格形成へどのように影響を与えるのか？

先述したとおり、周囲の環境は、家庭環境、人との関係性の2つにカテゴリー化することができる。まず家庭環境は人格形成において、言葉、性格、感情の基礎、金銭感覚など、人間の最も根本的な性質や欲求の部分を支える。そして人との関係性は、積極性、感受性の豊かさ、様々な物事に対する価値観（先入観）などいわゆる社会性の部分を支える。つまり家庭環境が基礎、人との関わりが発展というふうに例えることができる。

【3】議論的な問い

・思春期における周囲の環境はものの見方と深い関係性があるのか？

事実的な問いでこのレポートにおける重要なワードを定義づけ、概念的な問いでは、その定義を利用した上で総合的に考えた。これらを通して、思春期における周囲の環境はものの見方と深い関係性があると私は考えた。

結論・考察

このレポートでは「思春期」「人格」「環境」「関係性」のワードを中心にテーマとして掲げることにした。作成当初、テーマを構成する要素が抽象的すぎたため、自分の思考にレポートとしての着地点を見いだせるのか、正直不安に感じていた。しかし今回、3つの観点からテーマを分析したことでそれらの抽象的要素を具体化（言語化）することができた。このことから、概念の分析では「紐解く」ことが大切なのだと考えた。

そして思春期の人格形成について分析してみて、やはり人間性の基礎を形成する家庭環境は、人間にとって最も影響が大きいと考えた。またその重要な家庭環境が第1コミュニティと呼ばれることから、人格形成は人とのコミュニケーション（関わり）によって行われるのだと考えた。

生徒 B 重要概念「コミュニケーション」

心の健康（ストレス）×適応×環境×コミュニケーション

人と人との良いコミュニケーションのあり方について探究し、同じ探究テーマから体育のバレーボールに関連づけることができている。

※スライドは一部抜粋しています。

【心の健康(ストレス)】

人と良いコミュニケーションをとるには適切な選択をする能力とあらゆる環境に適応する能力が必要である

探求の問い

- ・**事象的**: ①より良い、人とのコミュニケーションに必要なものは何か？ ②人と良いコミュニケーションをとるための適切な選択とは何か？
- ・**概念的**: ①良いコミュニケーションとはどのようなものか？ ②どのような環境が良いコミュニケーションを築くのか？
- ・**論理的**: 本当に自分だけにこの2つの能力が必要なのか？相手側は必要ないのか？

概念的②「どのような環境が良いコミュニケーションを築くのか？」

- ・相手のいい行いに気づける習慣がある環境
- ・相手に関心をもって相手の話を聞けるような環境
- ・思考をポジティブな方向にもっていける、またはもってあげられるような環境



相手と良い関係を築ける環境を作ることが、良いコミュニケーションを築くことにも繋がる

論理的「本当に自分だけにこの2つの能力が必要なのか？相手側は必要ないのか？」

- ・事象的・概念的な問いの答えから、どちらか一方だけにこの能力が備わっていても、相手にその能力がないといコミュニケーションはとれない
- ・ある程度のコミュニケーションはとれるかもしれないが、コミュニケーションによるストレスを最小限に抑えるには、最低限この2つの能力は必要

補足

今回の探求に最も関連するスポーツは...

バレーボール



バレーボールではチームワークがとても重要です。そのため、チームを一体化させるにはコミュニケーションが必要不可欠です。プレーに関する要望も、伝え方一つでそのあとのチームの空気感が全く違うものになります。

また、バレーボールはプレー中、選択の繰り返しです。誰がボールを取りに行くか、次に誰にボールをあげるか、相手のコートはどこに返球するか、サーブやスパイクで狙う場所、など様々な選択肢があるなかで瞬時に選ばなければいけません。

生徒 C 重要概念「変化」

結婚や出産時の健康影響に着目し、「変化×適応×エネルギー」を探究テーマに取り入れた。各問いを、概念的でありつつも日常生活と密接した内容に設定し、最終的にはバドミントンに転移することができた。



探究テーマ

人が生活の変化に適応することは自分を奮起させるエネルギーにつながる。

私がこの探究テーマを選んだ理由は、母が出産によって日常生活がガラリと変わり、今までは自分のために頑張っていたが、子供が生まると、子供のために頑張るようになったという話を聞いたからだ。では本当にこのテーマは正しいのか、

・事実的
・概念的
・議論的

の3つの観点から考える。

【事実的な問い】

結婚や出産による日常生活の変化は、母親を始めとする子供の周りの人を頑張らせようとするのか。

母親が子供のために頑張りたいと思うのは、母性本能によって自分の子供を守り育てていこうと思う用になっている。
(<https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E6%AF%8D%E6%80%A7/>)
すなわち、基本的に母親となった人は母性によって子供を守ろうとする。

【概念的な問い】

母性とは生活の変化を経験した母親だけが持っているものなのか。

母性はさっきのURLの先にある言葉の意味から行くと母親だけが持っている物となっているが、私達が普段外を歩いていて赤ちゃんがいると守ってあげたくなる(人混みの中から救ってあげたくなるなど)ので、母性はその子供の母親だけに備わっているものではなく、全員に備わっているものだと思う。だがやはり、実際に自分の生活が変わってしまうのに子供を産み、育てている母親は私達が持っている母性より遥かに多くの母性を持っている。

【議論的な問い】

母親の日常生活の変化は本当に母性を持つことに必要なのか。

(<http://www.ikomaiin.com/index.php?%E6%AF%8D%E6%80%A7%E3%81%AF%E7%9B%AE%E8%A6%9A%E3%82%81>)より、赤ちゃんを可愛いではなく、愛おしいと感じるには自分の生活、人生の変化を体験した母親だからこそそのものなので、必要であると思う。
すなわち母性の男女差は個人差はあるが、やはり出てきてしまう。その母性の差を、可愛いと思う心(先に出てきた)で周りの人々が、母親を手助けしてあげる必要がある。

これをスポーツとつなげてみると、....

バドミントン

シングルとダブルスでルールが違うが、それをルールの「変化」として考える

シングルではコート幅が狭い(内側)になるが、ダブルスでは広い(外側)である。これによってダブルスではサイドを狙いにくくなるが、シングルでは相手をいかに動かすかが重要なのに、ダブルスと違ってサイドの隙を狙いすぎたらアウトになってしまう。そのコートの大きさの「変化」にどうやって対応していくのかを考えると、もっと後ろに打って相手を動かそうとサイドを狙うときは強く打ち込む、または優しくラケットに当てようと考え、その事を意識して練習を繰り返すことで、自分の技の精度が上がる。またはシングルでは1対1でやるので真ん中を狙うのは良くないが、1人が2人に「変化」することで、真ん中に打ち込んだらお見合い状態になって点が稼げると考え、たとえ真ん中に打ち込んだとしてもその球が優しくて嬉しい球だから打ち返さずとも構わない、じゃあ嬉しい球を打ち込むためには練習を繰り返そうと練習をもっと頑張ろうと思う。

→ これは「変化」が人をもっと練習を頑張ろうと思えるようにしている(奮起させている)のではないかと?

IV 評価

① 生徒アンケート集計結果と分析

I 調査の概要

以下の 13 の項目について 24 の質問を行う。各質問は「A は自分に当てはまるか」と「A は重要だと考えるか」というように対になっており、状況と重要度を測るようになっている。

1. 知識の獲得【知識の獲得】
2. 技能の獲得【コミュニケーション】
3. 技能の獲得【社会的スキル】
4. 技能の獲得【自己管理スキル】
5. 技能の獲得【リサーチスキル】
6. 技能の獲得【思考スキル（批判）】
7. 技能の獲得【思考スキル（創造）】
8. 内的動機付け【内的動機付け】
9. 実践【レベル 1】
10. 実践【レベル 2】
11. 実践【レベル 3】
12. 将来像【地域】
13. 将来像【海外】

II 集計方法と結果

上記 13 項目についてポジティブな回答をした生徒の割合を調べた。2019 年度の学校平均と 2020 年度の学校平均とを比較し、大きく変動した項目とその質問内容を下表のようにまとめた。

(1) 状況

大きく上昇した項目とその質問内容	2019 年度 学校平均	2020 年度 学校平均	差
6. 技能の獲得【思考スキル（批判）】 自分には、「情報をうのみにせず、論理的・多面的に 分析する力」がある。	53.48	71.66	+18.18

5. 技能の獲得【リサーチスキル】 自分には、「ものごとを調査・分析・研究するにあたって情報処理をする際に求められる力」がある。	46.61	58.79	+12.18
4. 技能の獲得【自己管理スキル】 自分には、「一つのこと集中して向き合うために、心を落ち着ける力」がある。	60.34	69.38	+9.04
2. 技能の獲得【コミュニケーション】 自分には、「状況や目的にあわせて、伝えたいことを適切な形で表現する力」がある。	52.62	62.05	+9.43
大きく下降した項目とその質問内容	2019年度 学校平均	2020年度 学校平均	差
8. 内的動機付け【内的動機付け】 (11) 学校の授業・行事・講演会・体験学習を経験した結果、自ら何らかの取り組みを実践したいと思っ たことがある。	80.78	69.38	-11.4
9. 実践【レベル1】 (17) 過去3年間に、校外で計画された希望制の活動 (参加型ワークショップ、社会貢献活動など)に参 加したことがある。	36.52	27.36	-9.16

(2) 重要度

大きく上昇した項目とその質問内容	2019年度 学校平均	2020年度 学校平均	差
実践【レベル3】 (28) 他者を巻き込むような社会のための活動を、自 ら発案・企画・実行することは重要である。	82.4	90.07	+7.67
将来像【地域】 (32) 地域(地元)に貢献する人材になることは重要 である。	85.37	91.53	+6.16

前年度と今年度との比較の結果、重要度が大きく下降した項目はなかった。

III 成果と課題

技能の習得の項目の数値が大きく上昇した要因として、全学年・コースで実施している

「シナジータイム」や、学年コース独自の授業科目である、立命館コース「SD基礎」・特設Ⅱ類「奈良県立大学との共同プログラム」によるものや探究型授業の成果が考えられる。これらの授業実践では、さまざまな課題に対して協働して取り組み、主張するために多角的に物事を捉える活動が多く設定されている。また、重要度に関しては前年度を比較して大きく（3ポイント以上）下降した項目がなかったことは大きな特徴であるといえる。

一方、数値が低い項目からは、今年度の新型コロナウイルスの影響で各種課外活動に制限がかかってしまったことが大きく影響していると考えられる。しかしながら、今後も感染症とも共存が必要になってくると想定されるため、「コロナだからなにもできない」と生徒に諦めさせることなく、「コロナだからこそ、必要な活動・行動があるのではないか」と教員が投げかける機会を多く設定することが必要であると考えられる。

②GPS-Academic 集計結果と分析

本校では、グローバル事業の効果測定の一つとして、ベネッセコーポレーション（株）が実施する思考力アセスメント GPS-Academic（以下 GPS と呼ぶ）を生徒に受検させている。実施は 12 月下旬とした。

GPS では測定できるスキルは以下の 3 つである。それぞれに、選択式と記述式のアセスメントがある、それぞれのアセスメントで評価されるスキルが定義づけられている。（表 1）

評価は選択式が S～D の 5 段階、記述式が A～C の 3 段階（未記入の場合「-」と表示）で評価される。また、2 種類の総合評価もある。

（表 1）

3 つの思考力	力の定義	評価の観点
批判的思考力	必要な情報を取り出し、いろいろな観点から考え、自分の考えを道筋をたてて説明するための思考力	・情報を抽出し吟味する（選択） ・論理的に組み立てて表現する（記述）
協働的思考力	他者との共通点・違いを理解し、合意を得たり、気づきを得たりして人と関わりあうための思考力	・他者との共通点・違いを理解する（選択） ・社会に参加し人と関わりあう（記述）
創造的思考力	情報をつないだり、別の場面に応用したりすることで、問題を見つけ新たな解決策を生み出す思考力	・情報を関連づける・類推する（選択） ・問題をみいだし解決策を生み出す（記述）

【結果分析】

■昨年度の仮説に対する検証

仮説

各コースの取り組みにより、高校 2 年生の生徒は高校 1 年次より次のスキルが向上する。

- ・立命館コースの研究・提案・論文のサイクルで創造的思考力が向上する。
- ・特設コース I 類の協働学習・課題解決提案・他者を巻き込む行動のサイクルでは協働的思考力が向上する。
- ・特設コース II 類の探究的な学習では批判的思考力が向上する。

検証結果

- ・立命館コース
B ゾーン以上が占める割合を比較すると、昨年度 84% から本年度 86% に増加している。
- ・特設コース I 類
A ゾーン以上が占める割合を比較すると、昨年度 11% から本年度 19% に増加している。
- ・特設コース II 類
A ゾーン以上が占める割合を比較すると、昨年度 21% から今年度 24% に増加している。

検証の継続

- ・立命館コース
A ゾーンの占める割合が 16% から 12% に減少していることから、次年度継続して検証する必要がある。
- ・特設コース I 類
C ゾーンの占める割合は 11% から 23% に増加していることから、次年度継続して検証する必要がある。
- ・特設コース II 類

Cゾーンの占める割合に変化がないことから、次年度継続して検証する必要がある。

【比較】

■ 学年間の比較

- ・立命館コースにおいて、1年生より2年生の方が創造的思考力のAゾーンの占める割合は多い。
- ・特設コースⅠ類において、1年生より2年生の方が協働的思考力のCゾーンの占める割合は少ない。
- ・特設コースⅡ類において、1年生より2年生の方が批判的思考力のAゾーンの占める割合は多い。

■ コース間の比較

- ・特設コースⅡ類は他のコースに比べ、それぞれの思考力においてAゾーン以上を占める割合が高い。特に、批判的思考力が高いことが特徴である。これは、研究を目的として大学進学を考えている生徒が多いからだと考えられる。
- ・入学時点での偏差値は立命館コースが一番高いが、思考力と従来の学力観との相関はない。

■ スキル間の比較

- ・どのコース、学年も協働的思考力が他の思考力に比べて高い。これは、早期から本校が協働的な学習を展開してきたからだと考えられる。

【今後の仮説・検証】

- ・昨年度の仮説を継続して検証する。高校3年次で更なる上昇を期待したい。

高校1年立命館コース

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 1年生		2020 1年生		2020 1年生	
S	0%		0%		0%	
A	10%		21%		3%	
B	79%		60%		77%	
C	10%		19%		21%	
D	0%		0%		0%	

高校2年立命館コース

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 2年生	2019 1年生	2020 2年生	2019 1年生	2020 2年生	2019 1年生
S	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	10%	23%	21%	20%	12%	16%
B	71%	65%	68%	64%	74%	68%
C	19%	12%	12%	16%	15%	16%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

高校 1 年特設コース I 類

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 1 年生		2020 1 年生		2020 1 年生	
S	0%		0%		0%	
A	4%		19%		4%	
B	57%		54%		66%	
C	38%		27%		30%	
D	1%		0%		0%	

高校 2 年特設コース I 類

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 2 年生	2019 1 年生	2020 2 年生	2019 1 年生	2020 2 年生	2019 1 年生
S	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	12%	8%	19%	11%	2%	16%
B	53%	85%	58%	79%	53%	55%
C	35%	8%	23%	11%	42%	29%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

高校 1 年特設コース II 類

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 1 年生		2020 1 年生		2020 1 年生	
S	0%		0%		0%	
A	20%		15%		15%	
B	63%		63%		51%	
C	17%		22%		34%	
D	0%		0%		0%	

高校 2 年特設コース II 類

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2020 2 年生	2019 1 年生	2020 2 年生	2019 1 年生	2020 2 年生	2019 1 年生
S	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	24%	21%	34%	35%	14%	22%
B	52%	55%	55%	61%	76%	74%
C	24%	24%	10%	4%	10%	4%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%